

新潟中央短期大学

2025 年度 シラバス

＜シラバス記載の卒業認定・学位授与の方針との関連＞

授業を履修することで修得できる知識・能力が、本学の以下の卒業認定・学位授与の方針（育てたい学生像）のどれに関連するかシラバスに記載しています。

- (1)子どもの成長と発達についての知識を身につけている
- (2)子どもの成長と発達について援助する技能を身につけている
- (3)社会人及び保育者としての心身の健康に関する知識を身につけ、その大切さを理解している
- (4)社会人及び保育者としての心身の健康に関する技能を身につけている
- (5)自然と関わる中で命の大切さに関する知識を身につけ、その理念を理解している
- (6)保育者として必要な表現技術を身につけている
- (7)情報機器等に関する知識および活用する技能を身につけている
- (8)社会人及び保育者としての自覚や責任感を身につけている
- (9)子どもとの関わりにおいて省察し、新たな課題に気づき取り組む力を身につけている
- (10)社会人及び保育者としての連携・協働の大切さを理解している
- (11)社会人及び保育者として相手を尊重し協力する態度を身につけている
- (12)社会人及び保育者としての倫理・道徳に関する知識を身につけている
- (13)社会人及び保育者として規範やルールに従って行動する力を身につけている

第17 2025年度講義概要（シラバス）

*教養科目 48

心理学	48	国語表現法	50	コミュニケーション論Ⅰ	52
コミュニケーション論Ⅱ	54	音楽概論	56	日本国憲法	58
子どもと人権	60	自然科学概論	62	体育講義	64
体育実技	66	英語会話	68	中国語会話	70

*専門教育科目 72

保育原理	72	教育原理	74	子ども家庭福祉	76
社会福祉	78	子ども家庭支援論	80	社会的養護Ⅰ	82
保育者論	84	保育の心理学Ⅰ	86	子ども家庭支援の心理学	88
保育の心理学Ⅱ	90	子どもの保健	92	子どもの食と栄養Ⅰ	94
子どもの食と栄養Ⅱ	96	カリキュラム論	98	保育内容総論Ⅰ	100
健康指導法	102	人間関係指導法	104	環境指導法	106
言葉指導法	108	表現指導法	110	音楽表現	112
ピアノ表現Ⅰ	114	造形表現Ⅰ	116	身体表現Ⅰ	118
言語表現	120	乳児保育Ⅰ	122	乳児保育Ⅱ	124
子どもの健康と安全	126	障害児保育Ⅰ	128	障害児保育Ⅱ	130
社会的養護Ⅱ	132	子育て支援	134	保育・教職実践演習	136
保育相談の実際	138	特別支援教育概論	140	幼児理解と教育相談	142
子どもの保健実習	144	保育内容総論Ⅱ	146	乳児保育Ⅲ	148
表現活動指導法	150	ピアノ表現Ⅱ	152	造形表現Ⅱ	154
身体表現Ⅱ	156	レクリエーション実習Ⅰ	158	保育実習Ⅰ（施設）	160
保育実習Ⅰ（保育所）	162	保育実習指導Ⅰ（施設）	164	保育実習指導Ⅰ（保育所）	166
保育実習Ⅱ	168	保育実習指導Ⅱ	170	保育実習Ⅲ	172
保育実習指導Ⅲ	174	教育と社会	176	教育実習Ⅰ	178
教育実習Ⅱ	180	幼児教育教材研究	182	コンピュータ基礎	184
子どもと健康	186	子どもと人間関係	188	子どもと環境	190
子どもと表現	192				

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK01	1 年次 前 期	講 義	2	稲場 健	随時プリント資料を配布する
科目名	心理学		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (3) (10) (11)						
〔授業の概要〕 こころは目に見えない。また、同じ行動であっても、その意味や意図が、同じ人間でさえ、違うことがある。よって、人間のこころや行動には、曖昧でわかりにくいイメージがつきまとう。しかし、心理学という学問は、客観的科学の一分野として発展してきた。曖昧でわかりにくいと思われる人間のこころや行動を科学的に研究、検証してきた学問なのである。本講義では、人間のこころの仕組みについて知り、それらがどのように行動と関連しているのか検討することで、日々の生活における人間理解に役立てられるようにしたい。日常生活での身近な疑問、興味・関心を取り上げ、それらを心理学の基礎的な知識との関連で理解できるよう目指す。将来保育者を目指す者にとっては、保育者としての関わりの前提になる自己理解、他者理解に役立つ知識や考え方を学習する講義となる。						
〔授業科目の到達目標〕 ・人間とかかわる上での、自己理解に役立つ、心理学の基礎的な知識を理解する ・人間とかかわる上での、他者理解に役立つ、心理学の基礎的な知識を理解する ・心理学的観点からの、ものの考え方の基礎を理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	心理学とは何か ～身近な例との関連で考えてみる～	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握してくる。				2
		復習：今回配布された学習プリント及びノートの見直しを行う。				2
2	心理学の歴史 ～こころをどう捉えようとしてきたか～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでもくる。				1
		復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。				3
3	感覚・知覚・認知	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでもくる。				1
		復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。				3
4	感情	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでもくる。				1
		復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。				3
5	欲求・動機づけ	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでもくる。				1
		復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。				3
6	記憶と忘却・知能	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでもくる。				1
		復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。				3
7	学習① ～古典的条件づけ、オペラント条件づけなど～	予習：前回に配布した今回の学習プリントを読んでもくる。				1
		復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。				3

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
8 学習② ～観察学習、学習性無力感など～	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
9 パーソナリティと個人差① ～パーソナリティの形成～	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
10 パーソナリティと個人差② ～パーソナリティの捉え方・性格検査～	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
11 社会と行動① ～対人認知、対人魅力など～	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
12 社会と行動② ～集団の特徴、集団の心理など～	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
13 人間の発達と適応	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
14 人間関係とストレス ～ストレスとその対処法～	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：講義時の解説をもとに、前回の小テストの振り返りを行い、補足点は、小テスト紙上に赤字でメモする。今回の配布プリントを見直す。	3
15 まとめ	予習：前回は配布した今回の学習プリントを読んでくる。	1
	復習：今までの学習（配布プリント、ノート、小テスト）の整理、振り返りを行う。	3
〔学習上の留意点・準備等〕 ・講義時に適宜、参考文献の紹介をする。 ・毎回、小テストを実施し、理解を確認する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 講義時における小テスト40%、レポート60%。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。小テストは、講義内で振り返り及び解説を行い、疑問点、質問点についてコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK02	1 年次 前 期	講 義	2	平野 深雪	随時プリント資料を配付する
科目名	国語表現法		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (6) (10) (11) (12)						
〔授業の概要〕 物事を多角的な視点でとらえ、客観的に判断し、必要に応じた表現ができる力を養う。語彙の学習をとおして国語表現に関わる基礎的な教養を身につけ、さまざまな事象をとらえる観点と表現の「型」を学ぶことで、筋道をたてて表現する力を体得する。また学びの過程で他者の見方、考え方に触れ、自身の視野を広げ感性を豊かにする機会にもしたいと考える。なお、本授業は、高等学校の学修をより深め、大学、社会への円滑な移行を図るために必要な学修方法の修得等を目的とした内容としたい。						
〔授業科目の到達目標〕 ・語彙の知識、敬語の使い方など、社会人としての基礎的な教養が身につく。 ・必要に応じた文章表現をする上での観点と「型」を身につけ、実践できるようになる。 ・論理的、物語的な文章を構造的に読み、展開をとらえ、読解ができるようになる。 ・筆者の主張、意図を読み取り、それに対する自分の意見を論理的に主張できるようになる。 ・物事の多面的なあり方を理解し、客観的に課題を発見し解決を考えることができる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション 敬語の学習 (1)			予習：講義の概要、目標等を確認する		4
				復習：丁寧表現について振り返る		
2	小テスト：① 敬語の学習(1)、漢字 敬語の学習 (2)			予習：小テスト準備		4
				復習：尊敬・謙譲表現の問題に取り組む		
3	小テスト：② 敬語の学習(2)、漢字 情報伝達の技術 I「描写」			予習：小テスト準備		4
				復習：「描写」の復習課題に取り組む		
4	小テスト：③ 文法の学習、漢字 情報伝達の技術 II「説明」			予習：小テスト準備		4
				復習：「説明」の復習課題に取り組む		
5	小テスト：④ 語彙の学習、漢字 情報伝達の技術 III「報告」			予習：小テスト準備		4
				復習：「報告」の復習課題に取り組む		
6	小テスト：⑤ 言葉の意味の学習、漢字 情報分析の技術 I「絵の分析」(1)			予習：小テスト準備		4
				復習：「分析」の復習課題に取り組む		
7	小テスト：⑥ 表記の学習、漢字 情報分析の技術 II「絵の分析」(2)			予習：小テスト準備		4
				復習：「分析」の復習課題に取り組む		
8	小テスト：⑦ 漢字の学習→解説 文章の読解 I「論理的文章」「図表」			予習：小テスト準備		4
				復習：読み取りの「型」を確認する		
9	小テスト：⑧ 総合問題 文章の読解 II「文学的文章」			予習：小テスト準備		4
				復習：「物語の型」を確認する		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 小テスト：⑨ 総合問題→解説 児童文学の読み取り I 「作品の主題」	予習：小テスト準備	4
	復習：課題作品を読み返す	
11 (問答ゲーム) 児童文学の読み取り II 「問いの演習」	予習：「問い」を立てる	4
	復習：「問い」と「答」を完成させる	
12 (問答ゲーム) 表現（理論的文章）の技術	予習：資料プリントを読んてくる	4
	復習：表現の「型」を確認し、構成を考える	
13 (問答ゲーム) 自分の意見を書く I （構成、下書き）	予習：資料プリントを読んてくる	4
	復習：下書きを完成させる	
14 (問答ゲーム) 自分の意見を書く II （清書）	予習：意見の根拠となる資料を集めてくる	4
	復習：清書を完成させる	
15 (問答ゲーム) 自分の意見を書く II （検討）	予習：資料プリントを読んてくる	4
	復習：他者の意見と自分の意見の違いを振り返る	
※①～⑨は、言語事項の学習で日本語検定に対応。		
〔学習上の留意点・準備等〕 ○「方法」を理解し「実践」することで講義内容を身につけるよう心がける。 ○課題には積極的に取り組み、解説をきちんと聴く。 ○資料プリントや返却物はしっかり整理し、保管する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 課題の提出状況と内容評価(70%)、言語事項に関わる小テスト(20%)、受講態度(10%)		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 ワークシート・レポートは添削し、返却する。いくつかの作品をクラスで共有し、解説する場合もある。小テストは、返却時に解説する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK03	1 年次 前 期	講 義	2	草間 俊之	課題図書を指定する 授業中に適時資料を配付する
科目名	コミュニケーション論Ⅰ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 人は、主に言葉により、ものごとを捉えるとともに、日常の集団の中で事務的な事項や意思、思想などを互いに交換しながら、生活し、相互理解を深めているが、この授業では、主に意思や思想等に絞り、自らを高める言葉でのコミュニケーションの題材としての歴史や文化等について学ぶ。 題材としての歴史や文化等は、「我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか」をテーマにしたい。						
〔授業科目の到達目標〕 コミュニケーションについての基礎的な理論、実践的なスキルを習得し、大学や社会での良好な人間関係を築くことや日常会話の中において、歴史や文化、社会の出来事等について意見交換しながら、その中でさりげなく自分をアピールすることができるようにする。 また、自分を高めるコミュニケーションの題材、ネタとして、人間とは何かについて、自分なりの考えをもつことができるようにする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 大学での学び、人間関係とコミュニケーション				要点の確認		4
2 理論とは・・・数学を例として				要点の確認、仲間同士の話し合い、整理		4
3 コミュニケーションとは				要点の確認、仲間同士の話し合い、整理		4
4 生徒と先生の会話文から学ぶ				要点の確認、仲間同士の話し合い、整理		4
5 古事記を読む、天地開闢①				要点の確認、整理		4
6 古事記を読む、天地開闢②				要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ		4
7 創世記を読む、天地創造①				要点の確認、整理		4
8 創世記を読む、天地創造②				要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ		4
9 ギリシア神話を読む、世界の始まり①				要点の確認、整理		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 ギリシア神話を読む、世界の始まり②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
11 人間にとって、神話とは何か	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
12 猿人からホモ・サピエンスへの進化①	要点の確認、整理	4
13 猿人からホモ・サピエンスへの進化②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
14 学びの確認と振り返り、実践へのヒント①	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
15 学びの確認と振り返り、実践へのヒント②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
〔学習上の留意点・準備等〕 ・ 聴くこと、話すこと、考えることをしっかり理解し、実践できるようにする。 ・ 話題として、社会の出来事に関心をもつ態度や教養を身に付けようとする意欲と態度を涵養する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 ・ 基本的な知識の習得は筆記試験で確認、評価する〔6割〕。 ・ コミュニケーションスキル等は、授業の内容確認、整理を基にしたレポートを参考にして評価する〔4割〕。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 ・ 授業の整理を中心とするレポートは、コメントを付して返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK03	1 年次 後 期	講 義	2	草間 俊之	課題図書を指定する 授業中に適時資料を配付する
科目名	コミュニケーション論Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 コミュニケーションⅠでは、「人間とは何か」をテーマとして、主体的・対話的・深い学びを意識しながら、自らを高める、言葉によるコミュニケーションの題材、ネタを学んだ。 コミュニケーションⅡでは、Ⅰを踏まえ、より一層、自らを高める言葉によるコミュニケーションの題材、ネタとして「日本人の特性、日本文化」をテーマとしたい。 ※本授業は、高等学校の学修をより深め、大学、社会への円滑な移行を図るために必要な学修方法の修得等を目的とした内容としたい。						
〔授業科目の到達目標〕 日常会話の中において、歴史や文化、社会の出来事等について、深く考え、自分なりの意見を構築し、理論的に相手に語るができるようにする。 意見交換しながら、その中でさりげなく自己をアピールすることができるようにする。 また、学びを通して、言葉を大事にする態度や自分を高める態度を身に付けるとともに、人生をより豊かにするコミュニケーションができるようにする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 文化とは何か①				要点の確認、仲間同士の話し合い、整理		4
2 文化とは何か② 絵画に学ぶ				要点の確認、仲間同士の話し合い、整理		4
3 文化とは何か③ 音楽に学ぶ				要点の確認、仲間同士の話し合い、整理		4
4 大和言葉にみる日本人の特性①				要点の確認、整理		4
5 大和言葉にみる日本人の特性②				要点の確認、整理		4
6 平家物語と源氏物語にみる日本人の特性				要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ		4
7 空気の研究を読む①				要点の確認、整理		4
8 空気の研究を読む②				要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ		4
9 日本人とユダヤ人を読む				要点の確認、整理		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 菊と刀を読む①	要点の確認、仲間同士の話し合い	4
11 菊と刀を読む②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
12 菊と刀を読む③	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
13 日本人の意識の変化、日本文化の普遍性	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
14 学びの確認と振り返り、実践へのヒント①	要点の確認、仲間同士の話し合い、整理	4
15 学びの確認と振り返り、実践へのヒント②	要点の確認、仲間同士の話し合い、まとめ	4
〔学習上の留意点・準備等〕 - 日本人の特性、日本文化を理解し、他の人たちと意見交換できるようにする。 - 社会の出来事について、日本人や日本文化とリンクさせて考えることができるようにする。		
〔成績評価方法と評価基準〕 - 基本的な知識の習得は筆記試験で確認、評価する〔6割〕。 - コミュニケーションスキル等は、授業の内容確認、整理を基にしたレポートを参考にして評価する〔4割〕。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業の整理を中心とするレポートは、コメントを付して返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK04	1 年次 前 期	講 義	2	斎藤 竜夫	特になし
科目名	音楽概論		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (6) (12)						
〔授業の概要〕 現在われわれの聴く音楽は子どもの曲も含めて大半は西洋音楽の語法によって成り立っている。そこで、この授業では西洋音楽史の視点から、その歴史的時点での名曲を多角的に分析する。それによって音楽の分析的な聴き方、楽しみ方を研究する。						
〔授業科目の到達目標〕 分析的な音楽聴取ができる さまざまな時代区分の音楽的特徴を理解できる						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション				音楽と歴史・宗教・哲学との関係の理解		4
2 中世とルネサンスの音楽				モノフォニーとポリフォニーの理解 キリスト教との関係		4
3 バロックの音楽 1 バロック音楽の感情表現				バロック音楽とそれ以前の音楽との比較		4
4 バロックの音楽 2 和声敵対違法の完成				通奏低音、カデンツの理解		4
5 古典派の音楽 1 形式原理				古典派とバロック音楽との比較		4
6 古典派の音楽 2 ソナタとシンフォニー				ソナタ形式による楽曲の分析		4
7 ロマン派の音楽 1 ロマン派の表現				古典派とロマン派の音楽との比較		4
8 ロマン派の音楽 2 性格的小品その他				性格的小品と標題音楽の理解		4
9 ロマン派の音楽 3 形式の拡大と発展				ロマン派音楽の形式・和声手法の理解		4
10 現代の音楽 1 ワーグナーとドビュッシー以降の音楽				機能 and 声とその拡大・破壊の理解		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 現代の音楽 2 モダニズムとポストモダニズム	現代音楽を取り巻く状況と可能性の理解	4
12 現代の音楽 3 ポピュラー音楽の発展（子どもの歌を含む）	芸術音楽とポピュラー音楽の理解	4
13 現代の音楽 4 現代社会とのかかわり	社会と音楽との関係性の考察	4
14 総合的分析	分析手法の理解	4
15 まとめ	分析的聴取の理解	4
〔学習上の留意点・準備等〕 ・西洋と日本の歴史を理解する ・簡単な哲学史を理解する ・さまざまな時代の音楽を聴取する		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業内レポート30％ 期末レポート70％		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業内レポートは添削し返却する。また、講義の内容理解に適した楽曲・参考資料について適宜示す。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK05	2 年次 後 期	講 義	2	福原 英起	『入門 憲法学 憲法原理から日本社会を考える』 京都憲法会議監修 法律文化社 『ポケット六法令和 8 年版』 有斐閣
科目名	日本国憲法		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (2) (3)						
〔授業の概要〕 憲法の全体構造を理解した上で、基本的人権の尊重、国民主権、恒久平和主義の憲法の 3 原則を基軸としながら、現代の人権状況を概観していく。さらに、立法、行政、司法の統治機構が、どのように人権保障の実現と関係しているのかについても学ぶ。普段、何気なく見過ごしてしまっている身近なところにも憲法問題が潜んでいることに気付けるようになることを目指したい。そして、現場に出てからの実践の中で、「人権」というフィルターを通して、目の前の事象や物事を捉えられ、アドボケイトできるようにしたい。						
〔授業科目の到達目標〕 ・人権が歴史的にどのように形成され、変遷してきたのかについて理解する。さらに、何故、憲法で基本的人権や国民主権、平和主義が保障されているのかについて、事例を通して人権感覚の修得につながるようになることを目的とする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 憲法と立憲主義				テキストのプロローグとエピローグを読んで理解を深める		4
2 憲法とは何か				テキストの第 1 章を読んで理解を深める		4
3 象徴天皇制				テキストの第 2 章を読んで理解を深める		4
4 幸福追求権・基本的人権の保障				テキストの第 3 章を読んで理解を深める		4
5 法の下での平等				テキストの第 4 章を読んで理解を深める		4
6 思想・良心の自由、信教の自由				テキストの第 5 章を読んで理解を深める		4
7 表現の自由				テキストの第 6 章を読んで理解を深める		4
8 経済的自由権				テキストの第 7 章を読んで理解を深める		4
9 社会権				テキストの第 8 章を読んで理解を深める		4
10 人身の自由				テキストの第 9 章を読んで理解を深める		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 平和主義	テキストの第10章を読んで理解を深める	4
12 国会	テキストの第11章を読んで理解を深める	4
13 内閣	テキストの第12章を読んで理解を深める	4
14 裁判所	テキストの第13章を読んで理解を深める	4
15 地方自治	テキストの第14章と授業で配布したすべての資料を活用して理解を深める	4
〔学習上の留意点・準備等〕 必ず指定のテキストを持参すること。授業を受けながら適時ノートをとること。 講義時に適宜資料を配布する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 定期試験（70％）、レポート（30％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 試験のポイントについて解説する。レポートや小テストを添削し返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK06	1 年次 前 期	講 義	2	福原 英起	『「なんとかする」子どもの貧困』 湯浅誠、角川新書 『社会福祉小六法2025〔令和7年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	子どもと人権		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (9) (10) (11)						
〔授業の概要〕 子どもの貧困率は、2015年現在、13.9%で全国に約280万人で7人に1人の割合となっている。この授業では、子どもを取り巻く国内外の人権問題を取り上げながら解説し、現状の理解を深めていく。さらに、社会や大人の責務として、日本国憲法や子どもの権利条約が幸福追求権や子どもの最善の利益の確保の保障を要請している点を踏まえながら、現代社会の問題状況を明確にし、将来を担う子どもの人権保障のあり方について考察していく。						
〔授業科目の到達目標〕 子どもを取り巻く現状とその問題に対する社会的取り組みを理解する。その際、「貧困」をキーワードとして、社会に貧困がある理由やそのマイナスの影響等について触れることで、法制度のはざまで奪われてしまう子どもの権利について概観する。そして、具体的な「貧困」解決のための取り組み事例を検討しながら、子どもの最善の利益に配慮した社会にどうすれば繋がるのかについて、各自が考察できるようにすることを目的とする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 「貧困」とは何か				指定テキストの第1章を読んで理解する。		4
2 「貧困率」と日本社会				指定テキストの第1章、配布資料を読んで理解する。		4
3 労働と貧困（子育て世帯）				指定テキストの第1章、配布資料を読んで理解する。		4
4 貧困が引き起こす子どもへの影響				指定テキストの第1章、配布資料を読んで理解する。		4
5 子どもの貧困対策法について				配布資料を読んで理解する。		4
6 多様に捉える子どもの貧困 (諸外国との比較を通して)				配布資料を読んで理解する。		4
7 すべての子どもへの見守りと支援 (保育所を中心に)				配布資料を読んで理解する。		4
8 社会的養護における子どもの現状				配布資料を読んで理解する。		4
9 ひとり親世帯				配布資料を読んで理解する。		4
10 生活保護世帯				配布資料を読んで理解する。		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 格差・貧困と学力	指定テキストの第2章、第4章、配布資料を読んで理解する。	4
12 若者の貧困	配布資料を読んで理解する。	4
13 子どもの貧困に取り組む企業の取り組み	指定テキストの第2章、第3章を読んで理解する。	4
14 子どもの貧困に取り組む自治体の取り組み	指定テキストの第2章、第3章、配布資料を読んで理解する。	4
15 貧困の連鎖を断ち切る取り組み	指定テキストの第4章、配布資料を読んで理解する。	4
〔学習上の留意点・準備等〕 指定テキスト、配布資料を持参し、適宜ノートを取る。		
〔成績評価方法と評価基準〕 期末レポート（70％）、ワークシート（30％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 ワークシートを添削し返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK07	1 年次 後 期	講 義	2	井山 弘幸	なし
科目名	自然科学概論		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (3) (4) (5) (6) (7) (8) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 自然科学はどのような知識なのか。身近な話題をとりあげながら、その客観性や実用性について考察する。適宜映像資料を用いて、科学とは何かという問題を追究する。						
〔授業科目の到達目標〕 自然科学について、正確で誇張のない現実的なイメージを形成すること。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 科学者という仕事。サイエンティスト誕生。				講義内容の復習		4
2 メンデルの本職は修道士。 科学者の本職とは				講義内容の復習		4
3 自然を研究する人の呼び名				講義内容の復習		4
4 大学や研究所はいつできたか				講義内容の復習		4
5 予言と予測のちがい				講義内容の復習		4
6 宇宙人は存在するか。宇宙物理学と異星人論。				講義内容の復習		4
7 公共の目的と社会の中の科学				講義内容の復習		4
8 科学と実用性				講義内容の復習		4
9 実験にはどんなものがあるか 医学はサイエンスか？				講義内容の復習		4
10 パスツールと感染理論。免疫とは何か。				講義内容の復習		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 芸術や文学の中の科学	講義内容の復習	4
12 サイエンスイメージ。ガリバーと科学者	講義内容の復習	4
13 サイエンスイメージ2。ファウストと魔法使い	講義内容の復習	4
14 サイエンスイメージ3。英雄科学者	講義内容の復習	4
15 科学と社会	講義内容の復習	4
〔学習上の留意点・準備等〕 講義中に私語をしないこと。ゲームをしないこと。あからさまに寝ないこと。		
〔成績評価方法と評価基準〕 講義での参加状況。授業態度が悪い場合は大きく減点する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 課題は講義時間中に提示。レポートは期間中は課されず、最終試験にもとづいて成績を決める。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AK08	1 年次 後 期	講 義	1	若井 由梨	授業中にプリント資料を配布する
科目名	体育講義		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕						
〔授業の概要〕 人生100年時代と呼ばれている長い人生において、より健康でより豊かな生活を営むためには、心と身体にかかわる基礎知識、健康・体力づくりの重要性を理解する必要がある。また運動能力や体力の二極化現象が課題となる現代において、幼児期におけるさまざまな運動が社会生活の変化に大きく影響しているということをふまえ、日々の運動の必要性を認識できるようにする。なお本授業は、高等学校の学修をより深め、大学、社会への円滑な移行を図るために必要な学修方法の習得等を目的とした内容とする。						
〔授業科目の到達目標〕 到達目標は以下のとおりである。 ①自身の身体の基礎知識や体力について理解することができる。 ②自身の健康観や運動の重要性に気づき、日常の実践活動に生かすことができる。 ③子どもの発育発達の基礎を理解できるようになる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	ガイダンス／体と心の発達			予習：シラバスをよく読んでおくこと		4
				復習：人の身心の発達についてまとめておく		
2	体育の目的とは－体育授業で何を学ぶか－			予習：自分の受けた体育授業のイメージを調べておく		4
				復習：体育科の位置づけについてまとめる		
3	健康とは何か－栄養・運動・休養の視点－			予習：自分の生活習慣を見返しまとめておく		4
				復習：自身の生活習慣の改善点を見つける		
4	運動・疲労・トレーニング			予習：トレーニングや疲労回復法について調べておく		4
				復習：運動と疲労の関係性についてまとめる		
5	姿勢と健康			予習：自分自身の疾病・傷害経験について思い起しておく		4
				復習：疾病予防と救急処置についてまとめる		
6	幼児期における運動の必要性			予習：幼児期における運動の必要性についてを調べておくこと		4
				復習：幼児期の子どもに提供できる運動事例をまとめる		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
7 幼児期の体力・運動能力、運動スキルの発達	予習：幼児期の体力・運動能力について調べておく	4
	復習：幼児期の運動スキルの発達についてまとめる	
8 起こりやすい病気と怪我、救急処置	予習：日々の生活の疾病・傷害について調べておく	4
	復習：疾病予防と救急処置についてまとめる	
9 まとめ（筆記試験）	予習：これまでの授業について振り返り	4
	復習：	
〔学習上の留意点・準備等〕 本授業では、授業の合間に学習の習熟度を図る小テストを実施する。 授業中にプリントを配布するため、資材保管用のファイルを一人一冊ずつ準備しておくこと。		
〔成績評価方法と評価基準〕 参加意欲（10％） 小テスト（60％） 最終レポート（30％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業用に用意するファイルを定期的に回収し、記載内容についてフィードバックを行います。		

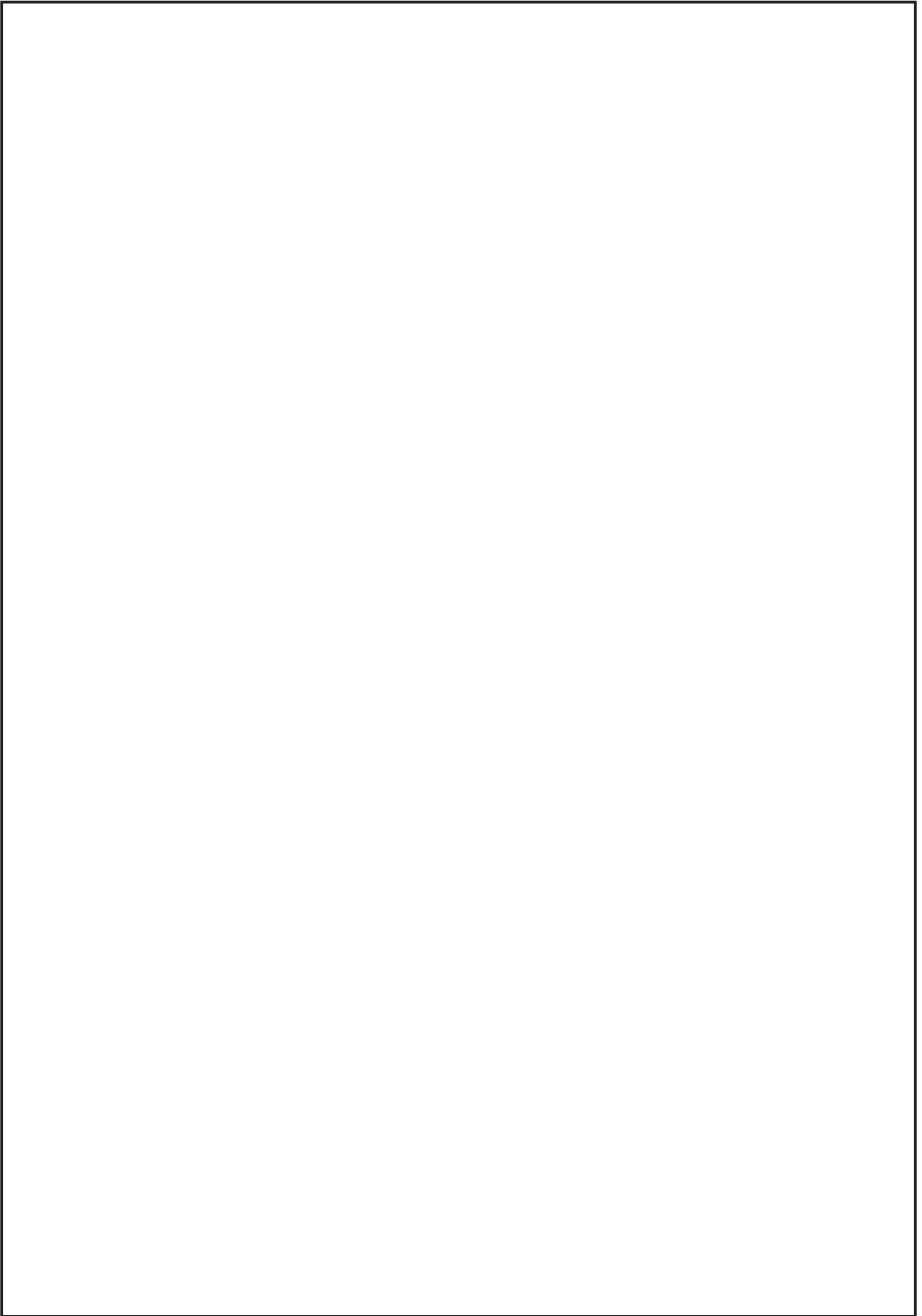
科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AJ09	1 年次 前 期	実 技	1	若井 由梨	な し
科目名	体育実技		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (3) (4) (8) (10) (11) (13)						
〔授業の概要〕 運動は健康で生き生きと生きていくために欠かせない大切な要素の一つである。何もかもが便利になり省エネ化された現代社会において、私たちは運動不足になりがちである。運動不足は様々な弊害をもたらす。生涯を通してスポーツに親しみ実践していけるかどうかは青年期の取り組みが大切であるため、この授業ではその第一歩として、基礎的な体力づくり運動や、リズム運動、ボール運動などを通して運動実践能力を高める。						
〔授業科目の到達目標〕 音のリズムに乗ってキビキビとダイナミックに動けるようになる。 ボール運動に親しみ、チームで協力し合ってゲームを楽しく行えるようになる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション／リズム運動① 基本の姿勢、ポジションが理解できる				予習：シラバスを読み授業の展開を把握		—
2 リズム運動② リズムに乗って動くことができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
3 リズム運動③ 基本のステップに乗って動くことができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
4 リズム運動④ 自分でカウントをとることができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
5 リズム運動⑤ 簡単なフレーズを覚えることができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
6 リズム運動⑥ 定型の動きを緩急つけて動くことができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
7 リズム運動⑦ 一つの曲を通して動くことができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
8 リズム運動⑧ 動きのつながりを意識して動くことができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
9 リズム運動⑨ 客観的な動きの見せ方を理解して動くことができる				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—
10 リズム運動⑩ 舞台上で動くダイナミックな表現について理解する				復習：授業の振り返り（ノート記入）		—

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 ボール運動① バレーボール 基礎技能、ゲームの仕方の理解	復習：授業の振り返り（ノート記入）	—
12 ボール運動② バレーボール ゲームの実践	復習：授業の振り返り（ノート記入）	—
13 ボール運動③ バスケットボール 基礎技能、ゲームの仕方の理解	復習：授業の振り返り（ノート記入）	—
14 ボール運動④ バスケットボール ゲームの実践	復習：授業の振り返り（ノート記入）	—
15 ボール運動⑤ ドッジボール・バドミントン 様々なスポーツ種目に触れる	—————	—
〔学習上の留意点・準備等〕 運動に適した身支度を整える。集合・整列をきちんと守る。仲間と協力して行動する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業への取り組み状況や態度80％ 課題への振り返りレポート20％		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業の振り返りのレポートについてコメントし返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2AE10	2 年次 通 年	演 習	2	マッツ・エングバリー	『Speaking of Childcare』 Peter Vincent / Naoko Nakazato 著 『Very Easy True Stories』 Sandra Heyer 著
科目名	英語会話		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (6) (11) (13)						
〔授業の概要〕 保育の場で使う英会話を学びます。 テキストは、外国の子どもたちと日本の子どもたちが共に学ぶ共に学ぶ国際的な保育園を舞台に、一人の実習生の体験を通して、様々な語彙や会話を学べるようになっていきます。英語は今日、世界共通言語になりつつありますので、これらの会話を身に付ければ保育現場だけではなく、いつでも、どこでも活用できます。 言語だけではなく、文化や習慣の違いにも目を向けます。 英会話は「習うより慣れろ」です。授業では積極的に声を出して練習しましょう。 英語の歌、幼児の手遊び唄、簡単なゲームなどな生の英語に触れる機会を多くして、たのしく英語に親しんでいきます。						
〔授業科目の到達目標〕 日常的な場面において英語でのコミュニケーションができるようになる。保育や幼児教育に関する語彙を増やす。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 S : Unit 1 Classroom English / Whats your name? 【質問と答え、現在形 (be動詞、一般動)】				予習 : S : Page 6-1 / Classroom Questions, Present Tense, School Items		1
2 V : Unit 1 Shopping Day				復習 : V : Page 1-6 / Questions, Grammar + Reading Practice (2)		1
3 S : Unit 2 Where are you from? 【現在形の質問と答え、音 (擬音語、擬態語)】				予習 : S : Page 12-17 / Wh-questions, Nationalities and Languages, Sounds		1
4 V : Unit 2 Mary Walks Home				復習 : V : Page 7-12 / Wh-questions, Nationalities, Languages, Reading Practice		1
5 S : Unit 3 Good morning! 【2語動詞、現在形と現在進行形、頻度】				予習 : S : Page 18-25 / Greetings, Real English, Two-Word Verbs, Do vs. Doing, Frequency		1
6 V : Unit 3 Elevator Romance				復習 : V : Page 13-18 / Do vs. Doing, + Reading Practice, Vocabulary		1
7 S : Unit 4 Are you OK? 【症状の説明、医療品】				予習 : S : Page 26-31 / Health, Symptoms		1
8 V : Unit 4 A Son for Mr. and Mrs. Aversa?				復習 : V : Page 19-21 / Health Talk + Reading Practice		1
9 S : Unit 5 What are you doing? 【特殊な動詞、現在進行形】				予習 : S : Page 32-37 / Special Verbs : need, want, know		1
10 V : Unit 5 Is There a Face on Mars?				復習 : V : Page 25-28 / Verb Practice + Reading Practice		1
11 S : Unit 6 How are you feeling? 【感情表現、気分を表す形容詞 (-ed形、-ing形)、否定の疑問文の答え方】				予習 : S : Page 38-45 / Feelings, -ed + -ing adjectives, Yes or No		1
12 V : Unit 6 Neighbors				復習 : V : Page 31-36 / Feelings + Adjectives + Reading Practice		1
13 S : Unit 7 What's she like? 【人についての表現、家系図】				予習 : S : Page 46-53 / Describe People		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
14 V : Unit 7 A Smart Mother	復習 : V : Page 37-42 / Descriptions + Reading Practice	1
15 S : Unit 8 Do's and don't's 【命令文、禁止、依頼、標識】	予習 : S : Page 54-62 / Commands (Do/Don't), Can vs. Could	1
16 V : Unit 8 Stuck!	復習 : V : Page 43-48 / Can/Could, Do/Don't + Reading Practice	1
17 S : Unit 9 Let's eat lunch! 【動詞letの使い方、表現(〜しよう、〜させる、〜してあげる)】	予習 : S : Page 68-73 / Suggestions, Translation	1
18 V : Unit 9 Binti to the Rescue	復習 : V : Page 49-54 / Let's + Reading Practice	1
19 S : Unit 10 What do you want to do? 【表現(〜したい、〜したくない)、遊びの言葉、反対語、表現(あいづち)、感嘆文】	予習 : S : Page 74-83 / Want to/Don't want to, "play", Reactions, Playground Words, Opposites	1
20 V : Unit 10 Where Is Mrs. Zimmer?	復習 : V : Page 55-60 / "Play" in English + Reading Practice, Reactions, Opposite Words	1
21 S : Unit 11 What do you have to do? 【助動詞、保護者へのメッセージ】	予習 : S : Page 84-91 / Should, Must, Need (Modal Verbs)	1
22 V : Unit 11 Fast Money	復習 : V : Page 61-66 / Modals + Word order + Reading Practice	1
23 S : Unit 12 I need to go potty 【表現(必ず〜する)、表現(〜してくれる?)】	予習 : S : Page 92-99 / Make sure, Can/Could	1
24 V : Unit 12 Returning a Favor	復習 : V : Page 67-72 / Can/Could + Reading Practice	1
25 S : Unit 13 Good job! 【過去形1、褒める表現】	予習 : S : Page 100-107 / Past tense, Giving compliments	1
26 V : Unit 13 Help! I Can't Find My Apartment!	復習 : V : Page 73-78 / Past tense conversation + Reading Practice	1
27 S : Unit 14 Injuries and emergencies 【体の部位、怪我、過去形2】	予習 : S : Page 108-116 / Parts of the Body, Accidents	1
28 V : Unit 14 A Big Tip	復習 : V : Page 79-84 / Body + Reading Practice	1
29 S : Unit 15 We're going to go outside 【未来形1.2、未来表現(現在進行形)】	予習 : S : Page 117-122 / Future tense, Plans	1
30 V : Review * S : Speaking of Childcare / V : Very Easy True Stories	復習 : S & V : Future talk + Reading Practice	1
*各テキスト1つのUnitを2回かけて終わらせる。		
〔学習上の留意点・準備等〕 テキストについているCDを繰り返し聞き、予復習をする。 授業中のペアワークなどのアクティビティーに積極的に参加する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 前期、後期のテスト60%、提出物20%、音読テスト20%		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 課題と小テストは添削して返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2AE11	2 年次 通 年	演 習	2		
科目名	中国語会話		担当形態			
			単 独			
今年度開講せず						



科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1BK01	1 年次 前 期	講 義	2	小川 崇	大桃伸一編『未来を拓く保育の創造』 学術図書出版社
科目名	保育原理		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (8) (9) (10) (11)						
〔授業の概要〕 現代社会において、乳幼児が成長していくためには、保育という営み、それも専門職としての保育ということが不可欠となっている。本講義では、専門職としての保育者に必要と考えられる、保育についての理念的なとらえ方、諸原理、また保育の歴史や思想、制度などについて学んでいく。そのことによって受講者が自分の言葉で保育について考え、語れるようになることを目指したいと思う。						
〔授業科目の到達目標〕 ・保育とはどのような営みであるか、理念・思想・歴史・制度・実践など様々な側面から理解する。 ・保育についての自分なりの見方・考え方（保育観）をもつ。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育とはどのような営みか				テキスト第2章を読んで理解を深める。		4
2 保育はどのように行われてきたか				テキスト第3章、第4章を読んで理解を深める。		4
3 保育はどのように考えられてきたか				テキスト第2章、第3章を読んで理解を深める。		4
4 保育はどこで行われているか① 幼稚園、保育所				テキスト第8章、第10章を読んで理解を深める。		4
5 保育はどこで行われているか② 認定こども園				テキスト第8章、第10章を読んで理解を深める。		4
6 保育者に求められるものは何か① 保育者の身につけるべき専門性				テキスト第7章、第12章を読んで理解を深める。		4
7 保育者の求められるものは何か② 保育者に求められる専門性				テキスト第7章、第12章を読んで理解を深める。		4
8 子どもの成長発達と子ども理解① 遊びと子ども				テキスト第5章、第6章、第7章を読んで理解を深める。		4
9 子どもの成長発達と子ども理解② 様々な活動と子ども				テキスト第5章、第6章、第7章を読んで理解を深める。		4
10 保育に関わる制度の理解① 教育との関わりから				テキスト第4章、第8章を読んで理解を深める。		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 保育に関わる制度の理解② 福祉との関わりから	テキスト第4章、第8章を読んで理解を深める。	4
12 子育て支援はどのように行われているか	テキスト第8章、第13章を読んで理解を深める。	4
13 児童虐待について考える	授業時に紹介する参考文献等を読んで理解を深める。	4
14 保育の現状と課題	テキスト第14章を読んで理解を深める。	4
15 まとめ		4
〔学習上の留意点・準備等〕 講義時に適宜参考文献を紹介する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 講義時の小レポート（15％）、中間レポート（40％）、期末レポート（45％）によって評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業時に提出する小レポートを、次回の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1BK02	1 年次 前 期	講 義	2	小川 崇	特に指定しない。 授業時に資料を配布する。
科目名	教育原理		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 本講義では、教育という営みを原理的に考察し、理解することを目標としている。原理的にとは、基本的なという意味と同時に根本的にという意味を含むが、本講義では教育という営みについて様々な観点から考察することで理解を深めていきたいと考えている。						
〔授業科目の到達目標〕 ・教育の意義・目的や社会的な役割について理解する。 ・子どもの発達における教育の重要性について理解する。 ・本講義を受講するまでに持っていた教育に対する見方のみでなく、様々な教育に対する見方を理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 ガイダンス 教育をどうとらえるか				授業をふりかえって理解を深める。		4
2 教育は何のためにあるのか				授業をふりかえって理解を深める。		4
3 学ぶということはどういくことか				授業をふりかえって理解を深める。		4
4 教育の歴史①（近代以前）				授業をふりかえって理解を深める。		4
5 教育の歴史②（近代以降）				授業をふりかえって理解を深める。		4
6 教育はどのように行われているか 教育の制度				授業をふりかえって理解を深める。		4
7 学校とはどのようなところか				授業をふりかえって理解を深める。		4
8 幼保小の連携				授業をふりかえって理解を深める。		4
9 教育者の役割とは何か				授業をふりかえって理解を深める。		4
10 インクルーシブ教育とは何か				授業をふりかえって理解を深める。		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 学校以外ではどのような教育が行われているか 生涯学習社会と教育	授業をふりかえって理解を深める。	4
12 現代的課題①	授業をふりかえって理解を深める。	4
13 現代的課題②	授業をふりかえって理解を深める。	4
14 現代的課題③	授業をふりかえって理解を深める。	4
15 授業のまとめとふりかえり	授業をふりかえって理解を深める。	4
〔学習上の留意点・準備等〕 授業時に資料を配布する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 中間レポート(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 講義後に提出する「感想」に対して次回の講義でフィードバックを行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1BK03	1 年次 後 期	講 義	2	福原 英起	『新保育ライブラリ子ども家庭福祉』 植木信一、北大路書房 『社会福祉小六法2025〔令和7年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	子ども家庭福祉		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2)						
〔授業の概要〕 最新の子どもの家庭福祉の動向をより正確に把握しながら、子どもの権利保障や子どもの最善の利益の視点をと おして、より有効な子ども家庭福祉のあり方について学ぶ。						
〔授業科目の到達目標〕 子ども家庭福祉の専門職者として必要な福祉サービスや制度および社会資源の理解はもとより、子ども家庭福祉 を現場や地域で具現化する主体でもあるという自覚を促すことを目的とする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 子ども家庭福祉の枠組みと概要				指定テキストの第1章を読んで理解を深める		4
2 子ども家庭福祉の専門職者と資格制度				指定テキストの第3章4節4. を読んで理解を深める		4
3 子ども家庭福祉の法律や制度				指定テキストの第3章2節を読んで理解を深める		4
4 子ども家庭福祉における保育制度				指定テキストの第4章1節を読んで理解を深める		4
5 児童福祉施設の概要				指定テキストの第3章4節2. を読んで理解を深める		4
6 子ども家庭福祉の相談機関				指定テキストの第3章4節1. を読んで理解を深める		4
7 子どもの健全育成のしくみと概要				指定テキストの第4章2節を読んで理解を深める		4
8 ひとり親家庭の福祉サービス				指定テキストの第4章5節を読んで理解を深める		4
9 児童虐待防止に関する動向と対策				指定テキストの第4章6節を読んで理解を深める		4
10 子どもの権利条約の概要				指定テキストの第2章3節を読んで理解を深める		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 子どもの権利保障と子どもの最善の利益	指定テキストの第2章2節を読んで理解を深める	4
12 子ども家庭福祉を支える地域組織活動と文化財	指定テキストの第6章3節を読んで理解を深める	4
13 子ども家庭福祉の歴史	指定テキストの第3章1節を読んで理解を深める	4
14 スクールソーシャルワークの意義	指定テキストの第4章7節を読んで理解を深める	4
15 子ども家庭福祉制度のまとめ	授業で配布したすべての資料を活用して理解を深める	4
〔学習上の留意点・準備等〕 必ず指定のテキストを持参すること。授業を受けながら適時ノートをとること。		
〔成績評価方法と評価基準〕 定期試験		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 試験のポイントについて適時解説する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1BK04	1 年次 前 期	講 義	2	福原 英起	『社会福祉 基本保育シリーズ④』 松原康雄・坪洋一・金子充 中央法規、 『社会福祉小六法2025〔令和7年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	社会福祉		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (8) (9) (12) (13)						
〔授業の概要〕 現代社会における子どもやその保護者を取り巻く現状は、虐待の増加、子どもの貧困等、子どもの人権が侵害されている事例が多数見受けられる。保育士はもっとも身近な存在であり、保育士に要求される役割と責任はますます大きくなっている。この授業では、社会福祉や子どもの権利条約の理念、制度と法体系、行財政と実施機関、社会福祉専門職等について学ぶ。						
〔授業科目の到達目標〕 子どもと携わる専門職である保育士として必要な社会福祉や子どもの権利条約の基本理念を基軸としながら、子どもとその家庭の構成員のウェルビーイングを実現していく際に、家庭と地域の社会資源とを結び付けられるようにすることを目的とする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 社会福祉の意義と歴史的変遷				テキスト第1章を読んで理解を深める		4
2 社会福祉の諸外国の動向				テキスト第15章を読んで理解を深める		4
3 社会福祉の中の子ども家庭福祉				テキスト第2章を読んで理解を深める		4
4 子どもの権利擁護と社会福祉				テキスト第3章を読んで理解を深める		4
5 家庭支援と社会福祉				テキスト第4章を読んで理解を深める		4
6 社会福祉の制度と法体系 (1) (社会福祉、低所得者、障害者関連)				テキスト第5章Step1を読んで理解を深める		4
7 社会福祉の制度と法体系 (2) (子ども、高齢者、地域関連)				テキスト第5章Step2、3を読んで理解を深める		4
8 社会福祉行財政と実施機関				テキスト第6章を読んで理解を深める		4
9 社会福祉施設と福祉サービス (1) (保健医療、介護、年金、生活保護)				テキスト第7章Step2－1まで読んで理解を深める		4
10 社会福祉施設と福祉サービス (2) (高齢者、障害者、子ども、社会手当)				テキスト第7章Step3－2まで読んで理解を深める		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 社会福祉の専門職・実施者	テキスト第8章を読んで理解を深める	4
12 社会保障および関連制度の概要	テキスト第9章を読んで理解を深める	4
13 社会福祉における利用者保護の仕組み	テキスト第12章を読んで理解を深める	4
14 少子高齢化社会への対応	テキスト第13章を読んで理解を深める	4
15 地域福祉の推進とネットワーク	テキスト第14章を読んで理解を深める	4
〔学習上の留意点・準備等〕 必ず指定のテキストを持参すること。授業を受けながら適時ノートをとること。 講義時に適宜資料を配布する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 定期試験（60％）、小テスト（20％）、レポート（20％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 試験のポイントについて解説する。 レポートや小テストを添削し返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1BK05	1 年次 前 期	講 義	2	久保田真規子	適宜プリント・資料配布
科目名	子ども家庭支援論		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 乳幼児の育ちの基盤である家族・家庭の意義と役割を押さえ、子育て家庭支援の重要性を理解する。現代社会の子どもと家庭を取りまく状況を踏まえ、家庭を支援する必要性及び目的を理解する。保育者の専門性や保育所・幼稚園・認定こども園の特性を生かした支援内容や方法を具体的に理解する。支援における現代社会の状況を、施策の展開、支援体制の現状について学び、今後の課題についても理解する。 子育て支援センター職員として実務経験がある教員が担当し具体的支援の実際を理解する。						
〔授業科目の到達目標〕 1. 家族・家庭の意義とその機能について理解する。 2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況等について理解し、説明できる。 3. 子育て家庭の支援のための基本視点/実践が理解できる。 4. 保育者の専門性を生かした子育て家庭を支援するための方法について理解できる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	イントロダクション：授業の計画や内容を理解する。 養成教育課程での本授業の位置づけを理解する。			予習：シラバスを読む		4
				復習：流れをつかむ		
2	家庭支援の意義① 基本／家族とは、家庭とは何か			予習：プリントを読む		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		
3	家庭の意義② 家庭をめぐる社会的環境の変化			予習：プリント課題		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		
4	家庭支援の意義③ 子育て支援の必要性			予習：プリント課題		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		
5	家庭支援の価値観 エンパワメント			予習：プリントを読む		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		
6	家庭への支援体制① 子育て支援事業の概要 児童福祉法・子ども子育て支援法など			予習：プリントを読む		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		
7	家庭への支援体制② 子育て家庭のための社会資源 子どもの権利擁護における保育者の役割を理解する。			予習：プリントを読む		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		
8	家庭への支援体制③地域子育て支援の実際			予習：プリントを読む		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		
9	保育者の行う子育て支援の内容と方法 (1)			予習：プリント課題		4
				復習：講義内容をノートにまとめる		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 保育者の行う子育て支援の内容と方法 (2)	予習：プリントを読む	4
	復習：講義内容をノートにまとめる	
11 保育者の行う子育て支援の内容と方法 (3)	予習：プリントを読む	4
	復習：講義内容をノートにまとめる	
12 保育者の行う子育て支援の内容と方法 (4)	予習：プリントを読む	4
	復習：講義内容をノートにまとめる	
13 支援の展開と機関連携① 地域子育て支援拠点での育児文化伝承	予習：プリントを読む	4
	復習：講義内容をノートにまとめる	
14 支援の展開と機関連携② 要保護が必要な子どもとその家庭への支援	予習：プリントを読む	4
	復習：講義内容をノートにまとめる	
15 これからの子ども家庭福祉	予習：プリントを読む	4
	復習：子ども家庭福祉の課題をノートにまとめる	

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1BK06	1 年次 前 期	講 義	2	福原 英起	『よりそい支える社会的養護Ⅰ』 中山政雄編著 教育情報出版 『社会福祉法六法2025〔令和7年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	社会的養護Ⅰ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 社会的養護は、今、大きな変革期を迎えている。2016年の児童福祉法の改正により、初めて「子どもの権利条約の精神」と「子どもの最善の利益」の文言が総則に盛り込まれることとなった。さらに、虐待を受けた子どもに対する社会的養護のあり方が模索されている。この講義では、「社会的養護の課題と将来像」、「新しい社会的養育ビジョン」を踏まえながら、保育士として必要な福祉サービスや制度、社会資源の理解と権利擁護に基づいた支援のあり方について学ぶ。						
〔授業科目の到達目標〕 社会的支援を受けて生活を送る子どもとその家族に関わる施設保育士として必要な社会的養護の理念と原理、現状、歴史、権利擁護とその取り組み等の理解を深める。さらに、理念が目指す社会的養護を具現化する上で、施設保育士の果たす役割について考察できるようにする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 社会的養護の基本理念と原理				指定テキストの第1章を読んで理解を深める。		4
2 社会的養護の歴史①（日本）				指定テキストの第2章、配布資料を読んで理解を深める。		4
3 社会的養護の歴史② （イギリス、ドイツ、スウェーデン）				指定テキストの第2章、配布資料を読んで理解を深める。		4
4 社会的養護の歴史③（アメリカ）				指定テキストの第3章、配布資料を読んで理解を深める。		4
5 子どもの権利擁護				指定テキストの第3章、配布資料を読んで理解を深める。		4
6 社会的養護の体系と実践				指定テキストの第4章を読んで理解を深める。		4
7 社会的養護の領域と概要 （児童養護施設、乳児院）				指定テキストの第5章、配布資料を読んで理解を深める。		4
8 社会的養護の領域と概要 （児童自立支援施設、児童心理治療施設）				指定テキストの第5章、配布資料を読んで理解を深める。		4
9 社会的養護の領域と概要（家庭養護）				指定テキストの第6章を読んで理解を深める。		4
10 社会的養護の領域と概要 （知的障害児施設、肢体不自由児施設、 重症心身障害児施設）				指定テキストの第7章を読んで理解を深める。		4

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 社会的養護の領域と概要 (児童発達支援センター)	指定テキストの第7章を読んで理解を深める。	4
12 社会的養護に関わる専門職と倫理	指定テキストの第8章を読んで理解を深める。	4
13 社会的養護に関わる専門機関	指定テキストの第8章を読んで理解を深める。	4
14 社会的養護とソーシャルワーク	指定テキストの第9章を読んで理解を深める。	4
15 施設の運営管理	指定テキストの第10章を読んで理解を深める。	4
〔学習上の留意点・準備等〕 必ず指定テキストを持参しノートを取る。配布資料を読む。		
〔成績評価方法と評価基準〕 定期試験（70％）、小テスト（30％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 小テストを添削して返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2BK02	2 年次 後 期	講 義	2	久保田真規子	『エピソード保育者論』(株)みらい
科目名	保育者論		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (5) (6) (7) (9) (12)						
〔授業の概要〕 1. 教職の意義、保育者の役割、職務内容を理解し、保育者の専門性と、自分が目指す保育者像を具体的に描く。 2. 映像・事例・新聞記事などの関連資料による現代社会の変化と課題を見つめ、保育者の役割を理解する。 幼稚園(元園長)・子育て支援施設職員の勤務経験を有する教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・教職の意義・保育者の役割、職務内容を理解し専門的知識を身につける。 ・現代社会における教育・保育の動向を理解し、保育者に求められる役割と資質・能力を理解する。 ・こどもの発達を理解し養護、教育を含めた保育者の職務の全体像を具体的にイメージできる。 ・園内外の専門家との連携、保護者理解を深め、自己研鑽する大切さを学ぶ。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 ガイダンス「保育者になる」ということ				予習：テキスト・実習生としての心構えを理解する。		4
				復習：実習の留意点を理解し実行する。		
2 教職の意義・保育者の役割、職務内容を理解				予習：テキストを読む。		4
				復習：ノートをまとめる。		
3 幼稚園教育要領改訂・保育所保育指針改定の方向性と保育者の存在意義				予習：テキストを読む。		4
				復習：ノートをまとめる。		
4 保育者の仕事、役割、職務内容(チームで保育をすること)を理解する				予習：テキストを読む。		4
				復習：ノートをまとめる。		
5 保育者に求められる資質 (1) 子どもの思い、育ちを理解する				予習：テキストを読む。		4
				復習：ノートをまとめる。		
6 保育者に求められる資質 (2) 保育者自身に期待される役割				予習：テキストを読む。		4
				復習：ノートをまとめる。		
7 保育者に求められる資質 (3) 文化、自然、安全への広い視野をもつこと				予習：テキストを読む。		4
				復習：ノートをまとめる。		
8 社会の変化と保育者の課題 (1) 保育者と家庭との信頼関係をつくるとは				予習：連絡帳の書き方について事前学習する		4
				復習：実際に所定の書式で記述する		
9 社会の変化と保育者の課題 (2) 現代社会の変化と I C T 活用の保育				予習：配布資料を参考に現代社会の課題を理解する。		4
				復習：新聞記事を読む。		
10 社会の変化と保育者の課題 (3) 子どもの育ちの危機と子育て支援				予習：テキストを読む。		4
				復習：ノートをまとめる。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 保育者の専門性を考える (1) 職務内容、研修、権利への基本的理解	予習：テキストを読む。	4
	復習：ノートをまとめる。	
12 保育者の専門性を考える (2) 保育者の倫理・不適切な保育の未然防止に向けて	予習：保育者の倫理綱領について読み込む	4
	復習：ノートをまとめる。	
13 さまざまな保育実践と自分がめざす保育① (学びあう保育者として)	予習：保育実践者からのメッセージと社会人としての心構えについて学ぶ	4
	復習：ノートまとめ・整理し提出をする。	
14 さまざまな保育実践と自分がめざす保育② (保育者の専門性の発達)	予習：テキストを読む。	4
	復習：感想を提出する。	
15 保育者・社会人へのメッセージ (まとめ)	予習：保育者として求められるキーワードをまとめる。	4
	復習：保育者の専門性のキーワードをまとめる。	

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1CK01	1 年次 後 期	講 義	2	稲 場 健	新乳幼児発達心理学 [第2版] ー子どもがわかる好きになる 福村出版
科目名	保育の心理学Ⅰ (保育の心理学)		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (9) (10) (11)						
〔授業の概要〕 人間の心理は年齢と共にさまざまな発達、変化が生じる。特に乳幼児期は最も変化の著しい時期であり、その後の発達の基礎が築かれる時期である。講義では心理学の知識を基にさまざまな観点から多面的に乳幼児の心理、発達の特徴を学ぶ。保育、幼児教育の現場での相談・援助経験がある臨床心理士、公認心理師の教員が担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 1 保育実践に関わる心理学の知識を習得する。 2 発達段階ごとの子どもの発達状況を理解する。 3 保育における発達援助、幼児理解を学ぶ。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 発達のしくみ・・・発達心理学とは				予習：テキストの序文・目次を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返り、テキストのp3～p4、p10～15を読み返す		
2 発達の様相・・・年齢ごとの発達の様相				予習：テキストの第1章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第1章を読み返す		
3 自分をとりまく世界の認識1・・・認知の発達				予習：テキストの第2章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第2章を読み返す		
4 自分をとりまく世界の認識2・・・思考の発達				予習：テキストの第2章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第2章を読み返す		
5 自分をとりまく人々との関わり ・・・愛着関係の発達				予習：テキストの第3章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第3章を読み返す		
6 自分を知る・・・自己の発達				予習：テキストの第4章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第4章を読み返す		
7 豊かな内的世界1・・・乳児期の情緒発達				予習：テキスト第5章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第5章を読み返す		
8 豊かな内的世界2・・・幼児期の情緒発達				予習：テキスト第5章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第5章を読み返す		
9 ことばとコミュニケーションの発達				予習：テキスト第6章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第6章を読み返す		
10 遊びの発達と友達関係				予習：テキスト第7章を読んでもらうこと		4
				復習：授業内容をふり返りテキストの第7章を読み返す		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 社会的認知と社会的行動の発達	予習：テキスト第8章を読んでもくること	4
	復習：授業内容をふり返りテキストの第8章を読み返す	
12 乳幼児保育と発達	予習：テキスト第9章を読んでもくること	4
	復習：授業内容をふり返りテキストの第9章を読み返す	
13 さまざまな発達の障害① ～発達の障害とは、精神機能の発達の障害～	予習：テキスト第10章を読んでもくること	4
	復習：授業内容をふり返りテキストの第10章を読み返す	
14 さまざまな発達の障害② ～身体的障害、ことばの障害など～	予習：テキスト第10章を読んでもくること	4
	復習：授業内容をふり返りテキストの第11章を読み返す	
15 まとめ	予習：前回は配布した資料を読んでもくること	4
	復習：授業内容をふり返り配布資料を読み返す	
〔学習上の留意点・準備等〕		
・ 随時プリントを配布し理解を補足する。 ・ 毎回、小テストを実施し、理解を確認する。		
〔成績評価方法と評価基準〕		
・ 講義時における小テスト40%、レポート60%。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕		
・ 毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。小テストは、講義内で振り返り及び解説を行い、疑問点、質問点についてコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2CK02	2 年次 後 期	講 義	2	稲 場 健	新基本保育シリーズ9 「子ども家庭支援の心理学」(中央法規出版)、 監修・児童育成協会、編集・白川佳子・福丸由佳
科目名	子ども家庭支援の 心理学		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (9) (10) (11)						
〔授業の概要〕 受精の瞬間から死に至るまで、人間は生涯にわたって発達する。この授業では、初期経験の重要性や発達課題等に焦点を当てながら、生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を学んでいく。また、子どもの発達を支える家族・家庭の意義や機能、現代の社会的状況を学び、子どもと家族・家庭を包括的に捉える視点の習得を図る。そして、親子関係や家族関係について発達の視点から理解できるよう、目指していく。他にも、子どもの健康に関わる問題について学ぶことを通して、子どもの精神保健に関する基礎的な知識の習得を図る。保育、幼児教育の現場での相談・援助経験がある臨床心理士、公認心理師の教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。 ・家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。 ・子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。 ・子どもの精神保健とその課題について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	生涯発達①乳児期の発達	予習：シラバスを読み、授業の展開を把握してくる。				4
		復習：テキスト第1講を読み返す。				
2	生涯発達②幼児期の発達	予習：テキスト第2講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				
3	生涯発達③学童期の発達	予習：テキスト第3講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				
4	生涯発達④青年期の発達	予習：テキスト第4講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				
5	生涯発達⑤成人期・中年期の発達	予習：テキスト第5講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				
6	生涯発達⑥高齢期の発達	予習：テキスト第6講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				
7	家族・家庭の意義と機能	予習：テキスト第7講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				
8	家族関係・親子関係の理解	予習：テキスト第8講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				
9	子育ての経験と親としての育ち	予習：テキスト第9講を読んでくる。				4
		復習：前回の小テストの振り返りを行う。				

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 子育てを取り巻く社会的状況	予習：テキスト第10講を読んてくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
11 ライフコースと仕事・子育て	予習：テキスト第11講を読んてくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
12 多様な家庭とその理解	予習：テキスト第12講を読んてくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
13 特別な配慮を要する家庭	予習：テキスト第13講を読んてくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
14 子どもの生活・生育環境とその影響	予習：テキスト第14講を読んてくる。	4
	復習：前回の小テストの振り返りを行う。	
15 子どものこころの健康に関わる問題	予習：テキスト第15講を読んてくる。	4
	復習：今までの学習内容の整理、振り返りを行う。	
〔学習上の留意点・準備等〕 ・ 随時プリントを配布し理解を補足する。 ・ 毎回、小テストを実施し、理解を確認する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 小テスト40%、レポート60%。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。小テストは授業内で振り返り及び解説を行い、疑問点、質問点についてコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2CE03	2 年次 前 期	演 習	1	稲場 健	適宜、資料を配布する
科目名	保育の心理学Ⅱ (子どもの理解と援助)		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (8) (9) (10) (11) (12)						
〔授業の概要〕 この授業では、保育の心理学Ⅰで学んだ知識や基本となる援助を踏まえながら、子ども理解の意識や基本となる考え方を、子どもの体験過程に着目することを通して学んでいく。事例を用いたディスカッション、グループワークを行い、子どもに起きている体験がどのようなものなのかを具体的に検討することを通して子どもを理解しようとしていきたい。子どもを理解するための具体的な方法についても学びながら、子どもの理解に基づいた援助や関わりの基本となる考え方が理解できることを目指す。保育、幼児教育の現場での相談・援助経験がある臨床心理士、公認心理師の教員が担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・保育実践において、子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解する。 ・子どもの体験や学びの過程において子どもを理解する上での基本的な考え方を理解する。 ・子どもを理解するための具体的な方法について、その基礎を理解する。 ・子どもの理解に基づく、保育の援助や制度の基本について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	保育における子ども理解の基礎と意義			予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連箇所を読む。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
2	子どもに関わる姿勢、態度の基本 ～子どもへのまなざしと共感的理解～			予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連箇所を読む。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
3	子どもを理解する視点①－生活や学びを通して (グループワーク、ディスカッション)			予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連箇所を読む。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
4	子どもを理解する視点②－保育の環境に着目して (グループワーク、ディスカッション)			予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連箇所を読む。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
5	子どもを理解する視点③ －子ども相互の関わりと関係 (グループワーク、ディスカッション)			予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連箇所を読む。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
6	子どもを理解する視点④－集団に着目した育ち (グループワーク、ディスカッション)			予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連箇所を読む。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
7	子どもを理解する視点⑤ －葛藤やつまづきへの関わり (グループワーク、ディスカッション)			予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連箇所を読む。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
8	子ども理解のための観察・記録・省察			予習：事前に配布した資料を読んでくる。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		
9	子ども理解のための連携－職員間の対話 (グループワーク、ディスカッション)			予習：事前に配布した資料を読んでくる。		1
				復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 子ども理解のための連携－保護者との情報共有 (グループワーク、ディスカッション)	予習：事前に配布した資料を読んてくる。	1
	復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。	
11 発達の課題に応じた援助と関わり① ～事例検討・個人差に着目して～ (グループワーク、ディスカッション)	予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連個所を読む。	1
	復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。	
12 発達の課題に応じた援助と関わり② ～事例検討・個と集団の関係に着目して～ (グループワーク、ディスカッション)	予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連個所を読む。	1
	復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。	
13 特別な配慮を要する子どもの理解と援助 (グループワーク、ディスカッション)	予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連個所を読む。	1
	復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。	
14 発達の連続性と環境の変化、移行、就学支援 (グループワーク、ディスカッション)	予習：保育の心理学Ⅰテキストの関連個所を読む。	1
	復習：授業内容を振り返る。配布資料を読み返す。	
15 まとめ－子ども理解と援助とのつながり	予習：今までの学習内容の整理をしてくる。	1
	復習：この回でまとめた内容の振り返りを行う。	
〔学習上の留意点・準備等〕 授業に適宜、参考文献を紹介する。グループワーク、ディスカッションにおいては、考えたり、発言したりすることが理解を深めることにつながるため、積極的に取り組む心構えをもって臨むこと。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業内課題40％、レポート60％。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 適宜、質問タイムを設け、質問に応じる。授業内で取り組む課題についても解説を行うと共に、疑問点、質問点についてコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1CK04	1 年次 前 期	講 義	2	俣田真紀子	子どもの保健 中根淳子／佐藤直子 編著2,200円(ななみ書房) 適宜資料配布
科目名	子どもの保健		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (5)						
〔授業の概要〕 子どもの保健は胎生期から始まり、すべての生まれてきた子どもは、健やかに育つ権利を有する。子どもの健全な発育を支援し、健康増進を図るために、発育・発達を理解し、健康状態の把握・評価を行い、阻害する恐れのある疾患や健康に関する現状や課題を理解し、適切な対応や予防策が講じられるように学習する。 地方自治体の保健衛生業務の経験を有する教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保険について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 子どもの健康と保健の意義 子どもの定義、健康の概念、子どもに関する保健行政のあゆみ				予習：シラバスを読み、概要、目標、内容などを把握しておく。		4
				復習：教科書P9～13と資料の見直し。		
2 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題と児童虐待防止				予習：資料、教科書P13～16を読んで理解を深める。		4
				復習：虐待の現状、早期発見と防止にどう関わるのかを整理しておく。		
3 子どもの発育と発達 (1) 身体発育と評価について				予習：配布資料、教科書P19～29を読み、理解を深める。		4
				復習：発育の経過と評価の方法を理解しておく。		
4 子どもの発育・発達 (2) 生理機能・感覚機能の発達について				予習：配布資料、教科書P30～38を読み理解を深める。		4
				復習：生理機能・感覚機能の発達について整理し、見直しておく。		
5 子どもの発育・発達 (3) 運動の発達と評価について				予習：配布資料、教科書P38を読み理解を深める。		4
				復習：発達の原則、原始反射との関連性、観察ポイントと発達の経過を理解する。		
6 子どもの発育・発達と保健 (4) 精神機能の発達と評価について				予習：配布資料を読み理解を深める。		4
				復習：情緒、言語、社会性の発達と発達の評価の方法を理解する。		
7 子どもの発育・発達と保健 (5) 子どもの食と栄養について				予習：配布資料、教科書P45～46を読み理解を深める。		4
				復習：乳汁栄養・離乳食・幼児食への保健的配慮を見直しておく。		
8 健康状態の把握 (1) 健康診断、健康観察、一般状態と体温・脈拍・呼吸の観察について				予習：配布資料、教科書P59～62を読み理解を深める。		4
				復習：健康観察のポイントを見直しておく。		
9 健康状態の把握 (2) 身体測定の方法と成長曲線による評価と保護者との情報共有について				予習：配布資料、教科書P64～69を読み理解を深める。		4
				復習：測定方法の実際、パーセントタイル値(成長曲線)・カウプ指数等の評価を理解する。		
10 子どもの疾病の予防と適切な対応 (1) 子どもの病気の特徴、感染症について				予習：配布資料、教科書P73～84を読み理解を深める。		4
				復習：授業内容を見直し、整理しておく。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 子どもの疾病の予防と適切な対応 (2) 免疫・アレルギー、消化器疾患について	予習：配布資料、教科書P84～90を読み理解を深める。	4
	復習：授業内容を見直し、整理しておく。	
12 子どもの疾病の予防と適切な対応 (3) 循環器、血液系、内分泌・代謝性疾患について	予習：配布資料、教科書P90～97を読み理解を深める。	4
	復習：授業内容を見直し、整理しておく。	
13 子どもの疾病の予防と適切な対応 (4) 神経系、腎・泌尿器、先天性疾患について	予習：配布資料、教科書P90～98を読み理解を深める。	4
	復習：授業内容を見直し、整理しておく。	
14 子どもの疾病の予防と適切な対応 (5) 感染症法、学校保健安全法で定める疾患と予防について	予習：配布資料を読み理解を深める。	4
	復習：学校保健安全法による予防対策を見直しておく。	
15 子どもの疾病の予防と適切な対応 (6) 予防接種と子どもの疾病に対する国の対応について	予習：配布資料を読み理解を深める。	4
	復習：授業内容を見直し、予防接種について整理しておく。	
〔学習上の留意点・準備等〕 限られた時間内で、専門用語も多々ある中で多くのことを学ぶので、前もって予習をしておくことが望ましい。 復習は教科書、配布資料を活用する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業態度、定期試験で評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業中の課題等について添削をして返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2CE05	2 年次 前 期	演 習	1	竹中 僚子	子どもの食生活 (第5版) ー栄養・食育・保育ー 上田玲子 編著 ななみ書房
科目名	子どもの食と栄養 I		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (8) (9)						
〔授業の概要〕 健康な食生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本知識を学び、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。 食育の基本とその内容を理解し、地域社会・文化との関わりの中での保育者の役割について理解する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・ 栄養、食生活の基本を理解し、説明できる。 ・ 子どもの発達に応じた栄養学の意義と食生活の果たす役割を理解し、説明できる。 ・ 現代の子どもの食の状況と課題について知り、対処するための知識を習得する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション 食物アレルギー (ビデオ視聴)	予習：シラバスを読み授業の展開を把握する				1
		復習：テキスト第8章p. 152～156を読んでもくる				
2	子どもの心身の健康と食生活 子どもの食生活の現状と課題	予習：テキスト第1章p. 11～19を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
3	子どもの発育・発達と食生活 食べることに関わる臓器とその作用	予習：テキスト第2章p. 21～34を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
4	栄養と食事の基礎知識 ①栄養の意味と栄養素種類、体内での役割	予習：テキスト第3章p. 35～41を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
5	栄養と食事の基礎知識 ②糖質の種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 41～43を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
6	栄養と食事の基礎知識 ③脂質の種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 43～45を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
7	栄養と食事の基礎知識 ④たんぱく質の種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 45～47を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
8	栄養と食事の基礎知識 ⑤無機質の種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 48を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
9	栄養と食事の基礎知識 ⑥ビタミンの種類、機能、子どもの体内での役割	予習：テキスト第3章p. 47を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				
10	栄養と食事の基礎知識 ⑦食事摂取基準、エネルギー代謝	予習：テキスト第3章p. 40とp. 50～61を読んでもくる				1
		復習：プリントの内容、練習問題を復習する				

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 成長段階別に見た栄養と食生活 ①乳児期の栄養と食生活	予習：テキスト第4章p. 73～88を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
12 成長段階別に見た栄養と食生活 ②離乳期栄養	予習：テキスト第4章p. 89～103を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
13 成長段階別に見た栄養と食生活 ③幼児期の栄養と食生活の特性	予習：テキスト第4章p.105～112とp.117を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
14 成長段階別に見た栄養と食生活 ④気になる食事行動、食生活における問題と対応	予習：テキスト第4章p. 113～117を読んでくる	1
	復習：プリントの内容、練習問題を復習する	
15 前期のまとめ	予習：全配布プリントの整理、内容を理解してくる	1
	復習：各項目の設問について復習する	
〔学習上の留意点・準備等〕 配布プリントの整理、復習を行ない授業内容の理解を深める。		
〔成績評価方法と評価基準〕 プリント復習レポート（50％） レポート（50％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 練習問題は解答し説明する。提出されたレポートは個別に添削指導する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2CE06	2 年次 後 期	演 習	1	竹中 僚子	子どもの食生活 (第5版) ー栄養・食育・保育ー 上田玲子 編著 ななみ書房
科目名	子どもの食と栄養Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (8) (9)						
〔授業の概要〕 子どもの発育発達に応じた食材選択、調理方法、献立作成、安全管理を実践し体験することにより、前期で学んだ「子どものための食生活」の知識を確かなものにする。さらに実習を通して保育現場での様々な取り組みを学び、その中での保育者の「食」に関わる役割を理解する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・子どもの発育発達に応じた食事提供の方法を調理実習で習得し、実践する力を身に付ける。 ・食事中の事故発生の防止、対処法を調理実習で習得し、実践する力を身に付ける。 ・献立作成、食事指導を習得し、実践する力を身に付ける。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 調理実習オリエンテーション No1 かつお節出汁の取り方				予習：予定表、衛生管理のプリントを読んてくる		1
				復習：資料プリントで復習する		
2 基礎調理1 子どもの発育・発達に応じた食事 No2 さつまいもご飯・みそ汁・だし巻き卵 3 (和風出汁の取り方、使い方を学ぼう)				予習：レシピプリントを読んて実習の手順を理解してくる		1
				復習：資料プリントで復習する		1
4 基礎調理2 子どもの発育・発達に応じた食事 No3 コンソメスープ・肉のピカタ 5 (洋風スープの取り方、肉の調理方法を学ぼう)				予習：レシピプリントを読んて実習の手順を理解してくる		1
				復習：資料プリントで復習する		1
6 幼児期の食事1 子どもの偏食 No4 ムニエル、人参ポタージュスープ 7 (魚、野菜嫌いを改善する方法を考えよう)				予習：レシピプリントを読んて実習の手順を理解してくる		1
				復習：資料プリントで復習する		1
8 乳児期の食事 発育・発達に応じた離乳食 No5 おかゆ・豆腐と野菜のペースト等 9 (離乳初期、離乳中期の食事の作り方を学ぼう)				予習：レシピプリントを読んて実習の手順を理解してくる		1
				復習：資料プリントで復習する		1
10 幼児期の食事2 子どもの咀嚼力 No6 ひじきご飯・けんちん汁・青菜のごま和え 11 (食材の選択、野菜の切り方を学ぼう)				予習：レシピプリントを読んて実習の手順を理解してくる		1
				復習：資料プリントで復習する		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
12 幼児期の食事3 間食作り No7 じゃがいも餅・豆腐白玉・果汁寒天	予習：レシピプリントを読んで実習の手順を理解してくる	1
13 (間食の役割、食物アレルギー対策) (誤嚥・誤飲事故対策を学ぼう)	復習：資料プリントで復習する	1
14 幼児期の食事の献立作成 (保育施設での昼食、おやつ献立を考える)	予習：テキスト第9章p. 167～181 テキスト第10章p. 183～208を読んでくる	1
15 (保育施設での食事指導を考える)	復習：課題プリントに記入した献立、指導方法を復習する	1
〔学習上の留意点・準備等〕 実習プリント、学習内容をまとめた資料プリントを配布し毎回の課題を理解する。 身支度、実習室を整えることで衛生管理について理解する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 定期試験（50％） レポート（50％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 毎時間、実習後に実習プリント、資料プリントの重要ポイントの確認を行う。 レポート課題に対する個別指導を行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DK01	2 年次 前 期	講 義	2	新保 憲子	幼稚園教育要領解説(H30年版・文部科学省)・随時講義内容資料を配布
科目名	カリキュラム論 (保育の計画と評価)		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (5) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 ・元幼稚園教諭・保育園保育士・幼稚園延長経験を活かし、園運営・保育実習の具体例を示す。また、学生自ら保育・教育ビジョンを作成することを通し、全体的計画、カリキュラム・マネジメントについて具体的に指導を行う。 ・カリキュラムを実践していく保育士・幼稚園教諭としての資質能力の向上を目指し、具体的な保育実践例を読み解き、幼児教育の理解を深める授業を行う。						
〔授業科目の到達目標〕 ・保育所・幼稚園・認定こども園の運営には、カリキュラム・マネジメントが必要であることを理解する。 ・保育所・幼稚園・認定こども園の役割の重要性を理解する。 ・カリキュラム・マネジメントにおける教育的意義を知り、幼児教育の重要性を理解する。 ・保育・教育ビジョン作成のグループワーク、発表を通し、保育士・幼稚園教諭としての知識・実践力・責任ある態度を身に付ける。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション・保育園、幼稚園の役割 (法令の理解・幼稚園教育要領の理解)	予習：シラバスを読む。テキスト総則を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
2	幼児教育の意味と重要性	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
3	幼児教育の教育課程・指導計画の基本	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
4	幼児教育の総合的教育の意味と実践 (健康領域の視点から深める)	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
5	幼児教育の総合的教育の意味と実践 (言葉・表現領域の視点から深める)	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
6	幼児教育の総合的教育の意味と実践 (年少・年中児表現から深める) (グループワーク)	予習：子ども主体の劇とは何かを考える				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
7	幼児教育の総合的教育の意味と実践 (年長児表現から深める) (グループワーク)	予習：子ども主体の劇とは何かを考える				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
8	幼児教育の総合的教育の意味と実践 (環境領域の視点から深める) (グループワーク)	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
9	幼児教育の総合的教育の意味と実践 (人間関係領域の視点から深める) (グループワーク)	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				
10	環境を通して行う教育とは (グループワーク)	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む				4
		復習：配布資料を再読し、理解を深める				

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 幼児における共同体験の重要性 （保育・教育ビジョンの作成） （グループワーク）	予習：テキストから、協同体験の意味を読み取る	4
	復習：配布資料を再読し、理解を深める	
12 保幼小架け橋期の意味と重要性 （保育・教育ビジョンの作成） （グループワーク）	予習：授業内容に関するテキスト部分を読む	4
	復習：配布資料を再読し、理解を深める	
13 保幼小架け橋期の接続計画と実際 （保育・教育ビジョンの作成） （グループワーク）	予習：学生が体験した幼小連携の体験を書き出す	4
	復習：配布資料を再読し、理解を深める	
14 保護者連携・地域連携の計画と実際 （保育・教育ビジョンの作成） （グループワーク）	予習：学生が体験した地域連携の体験を書き出す	4
	復習：配布資料を再読し、理解を深める	
15 保育・教育ビジョン作成の発表と意見交換 （プレゼンテーション）	予習：グループ発表の打ち合わせをする	4
	復習：振り返りをする	
〔学習上の留意点・準備等〕		
・講義内容に即した保育現場の実際写真・動画を活用し、学生の理解を深める。		
・講義内容をわかりやすくまとめた資料を準備し、学生自身の振り返りに役立つようにする。		
・保育・教育ビジョン作成における具体的な視点を示す。		
〔成績評価方法と評価基準〕		
課題・授業内レポート（50％） グループワークへの取り組み姿勢（30％）		
授業に対する姿勢・意欲・態度（20％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕		
・課題レポートを添削し返却する。レポートの内容は、必要に応じて学生に紹介する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE02	1 年次 前 期	演 習	1	永井裕紀子	渡邊英則・大豆生田啓友編著 「保育内容総論」ミネルヴァ書房
科目名	保育内容総論Ⅰ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (9)						
〔授業の概要〕 幼児教育は、園生活全体を通して総合的に指導するという教育の基本を理解するとともに、子どもが園での遊びや活動を通じて何を経験しているのか。保育者はどのような意図をもって子どもが遊び活動する環境を構成し、人的環境としてどう子どもとかわっているのかについて学ぶ。また、5領域のねらいと内容とのつながりを認識しながら、子どもが各発達段階における遊びや活動の積み重ねの中で「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」に近づいていくことを理解する。						
〔授業科目の到達目標〕 幼稚園教育の基本・各領域のねらい及び内容と保育内容の全体構造を理解する。 子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解する。 保育の基本を含めた保育内容の多様な展開について学ぶ。 保育内容の歴史的変遷について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 幼児教育・保育の基本について				幼稚園教育要領解説 p p 2－27を読み理解する。		1
2 子どもの育ちと遊び (VTR視聴・グループワーク)				幼稚園教育要領解説 p p 28－44を読み理解する。		1
3 子どもの育ちと遊びと環境構成・保育者の役割				幼稚園教育要領解説 p p 248－259を読み理解する。		1
4 「幼稚園教育要領」等における保育内容の捉え方				幼稚園教育要領解説 p p 45－49を読み理解する。		1
5 子ども理解と評価の考え方				幼稚園教育要領解説 p p 50－53を読み理解する。		1
6 指導計画案の作成の理解				テキストを読み理解する。		1
7 遊びや生活を通して学ぶということ				テキストを読み理解する。		1
8 養護と教育が一体的に展開する保育				テキストを読み理解する。		1
9 子どもの主体性を尊重する保育				テキストを読み理解する。		1
10 環境を通して行う保育				テキストを読み理解する。		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 個と集団の育ちを支える保育 保育内容の歴史概観	テキストを読み理解する。	1
12 家庭や地域との連携をふまえた保育	テキストを読み理解する。	1
13 小学校との接続をふまえた保育 保育の多様な展開	テキストを読み理解する。	1
14 指導計画案に基づく保育の実践（模擬保育）	遊びの構想を考える。	1
15 実践の振り返り（評価・改善）グループ討議	グループ討議を通しての気づきをまとめる。	1
〔学習上の留意点・準備等〕 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、解説とともに家庭学習において目を通しておくこと。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業態度・提出物（10％）・模擬保育実践（50％）・筆記試験（40％）から評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 個別または各授業の最後に行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE03	1 年次 後 期	演 習	1	永井裕紀子	幼稚園教育要領・保育所保育指針 津金美智子ら 新・保育実践を支える健康 福村出版 2018
科目名	健康指導法		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (5) (8) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 本授業では、幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うための環境をつくるために必要な知識・技術を身に付けることを目指す。さらに、乳幼児期の健康にかかわる生活習慣、身体の発育、生理的機能の発達についての基本的な知識の理解を深め、適切な指導方法を身に付けることを目指すものである。						
〔授業科目の到達目標〕 ・幼稚園教育要領の領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達・学びの過程を理解した上で、領域「健康」に関する具体的な指導場面を想定し、保育を構想する力を身に付ける。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育における「健康」とは (身体の発育と生理的機能の発達)				テキストを読んで理解を深める。		1
2 基本的生活習慣の形成を支える援助 (健康指導・給食指導)				テキストを読んで理解を深める。		1
3 健康管理と安全能力を育む援助 (交通安全・防災)				テキストを読んで理解を深める。		1
4 健康な心と体を育む保育の構想 (計画立案と教材研究)				学んだことを基に保健指導を考える。		1
5 健康な心と体を育む保育の構想 (保育指導実践1)				考えた保健指導を実践する。		1
6 健康な心と体を育む保育の構想 (保育指導実践2)				考えた保健指導を実践する。		1
7 健康な心と体を育む保育の構想 (教育課程と行事)				テキストを読んで理解を深める。		1
8 多様な動きの経験を促す遊び・運動1 (計画)				多様な動きを取り入れた運動遊びを計画する。		1
9 多様な動きの経験を促す遊び・運動2 (実践1)				多様な動きを取り入れた運動遊びを計画する。		1
10 多様な動きの経験を促す遊び・運動2 (実践2)				多様な動きを取り入れた運動遊びを計画する。		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 保育場面における健康指導と保護者支援	テキストを読んで理解を深める。	1
12 子どもの病気とケア	テキストを読んで理解を深める。	1
13 乳児期における人権教育としての性	資料を読み、理解を深める。	1
14 情緒の発達とこころの健康	テキストを読み、理解を深める。	1
15 保育者の精神的健康と備え	資料を観て理解を深める。	1
〔学習上の留意点・準備等〕 ・模擬的に保育者になって実践を行う。見通しをもって教材を準備すること。 ・随時、参考資料・参考文献を紹介する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 実践と中間レポート（60％）、期末試験（40％）によって評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 講義時に出された質問・疑問等の内容を確認し、随時、講義で説明・コメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE04	1 年次 後 期	演 習	1	久保田真規子	テキストなし
科目名	人間関係指導法		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (5) (6) (8) (9) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、理解を深める。さらに乳幼児の発達を理解し、子どもが、主体的に、対話的に遊びを通して学ぶプロセスを、学生自身が学ぶ。 元幼稚園園長・子育て支援職員の現場経験を踏まえ、具体的な指導場面を想定し、学生が保育者の援助・留意点を踏まえつつ保育を構想する方法を身に付ける。						
〔授業科目の到達目標〕 ・幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容を理解する。 ・幼児の発達を理解し「あそび」を通し、相手を尊重し考え、人として繋がる育ちのプロセスを理解する。 ・人間関係の具体的な保育場面を想定し、保育を構想・実践する方法を身に付ける。 ・人的環境としての保育者の役割を理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	幼稚園教育要領の領域「人間関係」のねらいと内容をつかむ			予習：幼稚園教育要領を読む 復習：ノートを整理し事例をまとめる。		1
2	子どもの育ちと人間関係の理解 ～発達段階と人間関係の重要性を知る			予習：資料を読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。		1
3	保育者との信頼関係から友達関係へ ～入園期～集団生活への育ち			予習：資料を読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。		1
4	自立を育む 援助 (3～5歳児の育ちと環境構成)			予習：資料を読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。		1
5	遊びの中で気付く他者の気持ち ～いざこざの場面から～			予習：資料を読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。		1
6	幼児期の終わりまでに育って欲しい姿から規範意識を育む教師の視点			予習：資料を読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。		1
7	ルールのある遊びの中で学ぶとは ～鬼ごっこ遊び～			予習：鬼ごっこ遊びについてルールを考え実践し考察する。 復習：演習を通して学んだ保育者の配慮をまとめ提出する。		1
8	体と心が育つ ～鬼ごっこ遊び～			予習：資料を読む。 復習：ノートを整理し事例をまとめる。		1
9	児童文化財を使用した人間関係指導法 (1) 作成・演習			予習：指導案の作成 復習：パネルシアター作成・指導案修正		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 パネルシアターを介した人間関係指導法 (2) 計画・指導計画案立案	予習：指導案の作成	1
	復習：パネルシアター作成・指導案修正	
11 模擬保育・ロールプレイと振り返りの視点	予習：模擬保育実践から応答的な関わりを学ぶ	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
12 保育者の援助と留意点について	予習：資料を読む。	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
13 多様性の尊重と子ども理解	予習：実践から計画・立案・実践目考察を学ぶ。	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
14 地域・保護者との人間関係	予習：資料を読む。	1
	復習：ノートを整理し事例をまとめる。	
15 現代における人間関係の特徴と課題 (子ども・おとな) まとめ	予習：現代社会の人間関係の課題について事前に新聞記事等調べる。	1
	復習：人間関係指導法のキーワードをまとめる	
〔学習上の留意点・準備等〕		
・配布資料・ノートを整理し、小課題を記述し理解を補足する。		
・動きながら遊びを通じて、人間関係のねらいを理解し、指導案の立案・考察する力を身に付ける。		
〔成績評価方法と評価基準〕		
定期試験(70%)、提出物(20%)、グループワーク参加姿勢態度(10%)		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕		
・ワークシートを活用し考え、発表し、仲間の考えを聴きコミュニケーション能力を高める。		
・動きながら学び、遊びを通じた、指導案の立案・実践・考察と課題を取り上げコメントをする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE05	2 年次 後 期	演 習	1	永井裕紀子	事例で学ぶ保育内容領域「環境」 無藤隆監修 萌文書林 2,160円/幼稚園教育要領/保育所保育 指針/幼保連携型認定こども園教育・保育要領
科目名	環境指導法		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (5) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 保育内容に示された領域「環境」のねらいや内容を理解する。また、事例やVTR視聴を通して子どもが周囲の様々な環境と関わる姿に触れながら、子どもが体験するものについて考察し、子どもを取り巻く環境の重要性を理解する。さらにディスカッションや模擬保育実践を行いながら、子どもの好奇心や探求心を育て支える保育者の役割について学ぶ。						
〔授業科目の到達目標〕 ・ 幼児教育の基本、各領域のねらい及び内容と保育内容の全体構造を理解する。 ・ 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点及び小学校教育とのつながりを理解する。 ・ 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「環境」にかかわる保育を構想し実践する力を身に付ける。 ・ 子どもの好奇心や探求心を育て支える保育者の役割について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション／幼児教育の基本				テキスト第1章1～6の内容を理解する		1
2 領域「環境」のねらいと内容 子どもの育ちと現代の環境・求められる環境				テキスト第1章7の内容を理解する		1
3 子どもと自然との関わり				テキスト第4章1の内容を理解する		1
4 秋の植物調べ				テキスト第4章2の内容を理解する		1
5 子どもと自然との関わりを促し支える保育者の 役割と環境				テキスト第4章3の内容を理解する		1
6 子どもと動植物との関わり				テキスト第4章4の内容を理解する		1
7 命を伝える保育の実践				テキスト第4章5の内容を理解する		1
8 子どもと数量や図形との関わり				テキスト第6章3～5の内容を理解する		1
9 子どもと文字や標識との関わり				テキスト第6章1・2の内容を理解する		1
10 数量や文字に関わる遊びの構想と実践				テキスト第5章1～3の内容を理解する		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 科学遊びの構想と実践	テキスト第5章4・5の内容を理解する	1
12 子どもと文化的習慣や行事と国際理解	テキスト第7章1・2の内容を理解する	1
13 日本の伝統的な遊びに挑戦する	テキスト第7章3・4の内容を理解する	1
14 子どもの好奇心・探求心を育て支える保育者の援助と環境（VTR視聴）	テキスト第8章1の内容を理解する	1
15 子どもの好奇心・探求心を育て支える保育者の援助と環境（まとめ）	テキスト第8章2の内容を理解する	1
〔学習上の留意点・準備等〕 実習などで領域「環境」の視点から子どもや保育者の援助を観察した事例をまとめておくとよい。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業課題への取り組み状況や態度50％・定期試験50％		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 課題には翌週の授業で発表する時間を設け、コメントをします。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE06		演 習	1	久保田真規子	保育内容「言葉」と指導法（中央法規）
科目名	言葉指導法	1 年次 前 期	担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕						
【知識】(9)(11) 【技能】(3)(4) 【態度】(1)(5) 【実践】(3)(4)(6)						
〔授業の概要〕						
保育内容の領域としての「言葉」に関する「ねらい」「内容」の知識と、乳幼児への指導の内容・方法を理解する。豊富な事例を通し、具体的な子どもの姿から言葉の発達を理解し、保育としての子どもとの関わり方を学ぶ。元幼稚園園長、元子育て支援施設職員、絵本セラピストの実践者が保育・教育場面を想定し、授業を担当する。領域「言葉」の理論の理解と言葉で表現する実践力を身につける内容である。						
〔授業科目の到達目標〕						
・保育内容領域としての「言葉」に関する「ねらい」「内容」と、乳幼児への指導の内容・方法を理解する。 ・乳幼児期の具体的な子どもの発達の姿から言葉の発達を理解し、保育としての子どもとの関わり方を学ぶ。 ・子どもの遊びの姿から子どもと言葉、人との関係性、具体的援助を学ぶ。 ・言語教材、児童文化財から年齢・育ちを理解した実践力を身に付ける。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション 「言葉指導法」の意義と内容				予習：シラバスを読む		1
				復習：講義内容をまとめる		
2 人間と言葉				予習：教科書を読む		1
				復習：講義内容をまとめる		
3 幼稚園教育要領、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領、保育所保育指針に示される教育・保育の基本的な考え方				予習：教育要領等に目を通す		1
				復習：ノートをまとめる		
4 領域「言葉」の「ねらい」及び「内容」				予習：教育要領等の領域「言葉」に目を通す		1
				復習：教育要領等を見直し理解を深める		
5 0歳から5歳までの言葉の発達 ① 乳児期 (視聴覚教材)				予習：教科書を読む		1
				復習：講義内容をまとめる		
6 0歳から5歳までの言葉の発達 ① 幼児期 (視聴覚教材)				予習：教科書を読む		1
				復習：講義内容をまとめる		
7 言葉のやりとりが生まれる環境				予習：言葉と遊びについて調べる		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
8 言葉と児童文化財				予習：児童文化財について調べる		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
9 絵本の読み方聞かせ方 ①				予習：絵本を準備する		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
10 絵本の読み方聞かせ方 ②				予習：絵本を準備する		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 絵本セラピー ～地域活動から見えること～	予習：絵本を準備する	1
	復習：講義内容をノートにまとめる	
12 絵本以外の児童文化財	予習：教科書を読む	1
	復習：講義内容をまとめる	
13 言葉の発達を捉える視点と援助の実際 ～言葉と考える力～	予習：教科書を読む	1
	復習：講義内容をまとめる	
14 言葉と環境	予習：教科書を読む	1
	復習：講義内容をまとめる	
15 まとめ	15回の授業を振り返り子どもの言葉の発達と、絵本の関係、言葉で表現をする具体的な方法について考察する	1
〔学習上の留意点・準備等〕 幼児期の言葉の体験の一つに絵本があります。色々な絵本に出会い親しんでおきましょう。		
〔成績評価方法と評価基準〕 ・授業課題への取り組み（言語教材・授業内レポート）60％・期末レポート40％		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 ・言語教材・授業内レポートを取り上げコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE07	1 年次 前 期	演 習	1	久保田真規子 新保 憲子	適宜プリント・資料配布
科目名	表現指導法		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (6) (9) (11)						
〔授業の概要〕 この授業では、乳幼児の発達に必要な乳幼児の成長過程における多様な表現に関しての感性を育む方法を学ぶ。創造性を育てるために幅広く表現の意義とその必要性を理解するとともに、表現の基礎となる基本的な動きを習得する。また、表現の教育の意味を理解し、表現遊びやリズムカルな表現をすることを通して、表現することの楽しさをとらえることができるようにする。						
〔授業科目の到達目標〕 子どもの成長過程における多様な表現に関して感性を育て、想像力や創造性を育てるために、幅広く表現の意義とその必要性を説明できる。さらに、表現の内容・目的について理解し保育の実践・展開や、適切な活動ができる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション				予習：シラバスを読む		1
				復習：授業の流れをつかむ		
2 表現とは				予習：プリントを読む		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
3 子どもの遊びと表現 0 から 2 歳児（未満児）				予習：プリント課題		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
4 子どもの遊びと表現 3 から 5 歳児（以上児）				予習：プリント課題		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
5 子どもの遊びと表現 ルールのある遊び ・ 3 歳児の子どもの遊びとは				予習：プリントを読む		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
6 子どもの遊びと表現 ルールのある遊び ・ 4 ・ 5 歳児の子どもの遊びとは				予習：プリントを読む		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
7 子どもの遊びと表現 ルールのある遊び 道具を使った遊び				予習：プリントを読む		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
8 身近な素材を用いた表現活動 子どもの表現の理解				予習：プリントを読む		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
9 身近な素材を用いた表現活動 （写真から見る）子どもの表現の理解				予習：絵本調べ		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		
10 表現活動（ストーリーテリング）				予習：ワークの内容を事前に調べる		1
				復習：講義内容をノートにまとめる		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 表現活動（リトミック）	予習：ワークの内容を事前に調べる	1
	復習：講義内容をノートにまとめる	
12 表現活動（リトミック）	予習：ワークの内容を事前に調べる	1
	復習：講義内容をノートにまとめる	
13 表現活動（言語教材と実践）	予習：言語教材と実践	1
	復習：実践内容をノートにまとめる	
14 表現活動（言語教材と実践）	予習：言語教材と実践	1
	復習：実践内容をノートにまとめる	
15 まとめ	予習：プリントを読む	1
	復習：課題をノートにまとめる	

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE08	1 年次 通 年	演 習	2	斎藤竜夫(前期) 佐藤晶子(後期)	幼児のための音楽教育 新・声楽指導教本 教育芸術社
科目名	音楽表現		担当形態			
			オムニバス			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (6) (9) (10) (11)						
〔授業の概要〕 さまざまな環境や状況に応じた「子どもとともに楽しむ音楽表現」のあり方を研究する。そのために必要となる音楽と表現の知識・技術（生活の中の音楽表現、歌唱・器楽、音楽聴取、創造的音楽活動）を学び、それを自在に応用する手法を身につける。						
〔授業科目の到達目標〕 いろいろな楽曲の理解と的確な表現ができる 明朗な発声で歌を歌うことができる 子どもの音楽的発達と表現を理解する						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 音楽理論 1 音楽の 3 要素・学園歌について				旋律・律動・和声について理解する		1
2 音楽理論 2 音価と音高				音価・音高を理解し楽譜が読める		1
3 音楽理論 3 拍子				拍子を理解し楽譜が読める		1
4 ソルフェージュ 1 リズム・視唱				新声楽指導教本P7～P21の内容を理解・実践する		1
5 ソルフェージュ 2 視唱・ハーモニー				上記P22～P31及びP35を理解・実践する		1
6 発声の基礎 1 理論				上記P36～P39を理解する		1
7 発声の基礎 2 実践				P42～P47を理解・実践する		1
8 音階 1 2、3、5 音音階				わらべうたの音階を理解し歌える		1
9 音階 2 長音階と短音階				長音階と短音階を理解する		1
10 調性				子どもの歌でよく使われる調性を理解する		1
11 子どもの歌 1 4～7 月				幼児のための音楽教育P31～P66が歌える		1
12 子どもの歌 2 8～11月				上記P59～P98が歌える		1
13 子どもの歌 3 12～3 月				上記P99～P132が歌える		1
14 歌唱表現 1 読譜・練習				各自読譜し歌えるように練習する		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
15 歌唱表現 2 実践	全体合唱ができる	1
16 子どもの歌 4 愛唱歌	幼児のための音楽教育P141～P166が歌える	1
17 合唱表現 1 選曲・読譜	選曲した曲の読譜・練習	1
18 合唱表現 2 読譜・練習	正しい発声・音程で歌う	1
19 合唱表現 3 パート練習・全体練習	ハーモニーを考慮した練習をする	1
20 合唱表現 4 グループ発表	グループ発表の準備・反省	1
21 子どもの発達と音楽表現 1 音楽的成長と発達	幼児のための音楽教育P6～P11を理解する	1
22 子どもの発達と音楽表現 2 音楽的活動について	上記P12～P17を理解する	1
23 子どもと楽器 1 演奏技法	上記P18～P22を理解する	1
24 子どもと楽器 2 手作り楽器	手作り楽器について学び、製作する	1
25 リトミック 1 理論	配布資料を理解する	1
26 リトミック 2 実践	実践の準備・反省	1
27 創作 1 旋律	旋律作法を理解する	1
28 創作 2 和音	和音連結を理解する	1
29 創作 3 発表	グループ発表の準備・反省	1
30 総合演習	理論と実践を多面的に理解する	1
〔学習上の留意点・準備等〕 ソルフェージュ能力は非常に重要である。予習・復習を怠らないこと。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業内発表20％ 前期試験40％ 後期試験40％		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業内発表は発表後全体討論を行う。定期試験は結果の内容についてコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE09	1 年次 通 年	演 習	2	斎藤竜夫他	歌唱教材伴奏法 幼児のための音楽教育 教育芸術社
科目名	ピアノ表現Ⅰ		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (2) (6) (9)						
〔授業の概要〕 子どもと音楽表現活動を楽しむために必要なピアノ演奏技法を習得する。ピアノの個人レッスンに加え、グループ授業で弾き歌いのためのコード奏法、コード理解のための音楽理論も同時に学ぶ。 Ⅰ 個人レッスン（弾き歌い） 1対1の個人レッスンによってピアノの演奏技術の体得並びに向上を目指す。学生は担当教員と相談した上、進度に合わせてバイエル・ツエルニー・ソナチネ・インヴェンション等を教材として学ぶ。 Ⅱ グループワーク（音楽理論） 基本的な音楽理論（楽典）の学習と、それを踏まえてコード理論を学習する。 上記Ⅰ・Ⅱの内容を総合した弾き歌いの実践として、実際の保育現場において需要の高い曲を実習する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・ピアノ演奏技法を習得する ・子どもの歌の弾き歌いができる ・コード奏法を習得する						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 長音階の理解				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
2 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調音階の理解				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
3 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏 (1) (歌唱教材伴奏法p4～5)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
4 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏 (2) (同上p6～7)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
5 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏 (3) (同上p8～9)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
6 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴによる和音伴奏 (4) (同上p10～12)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
7 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏 (1) (同上p14～15)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
8 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏 (2) (同上p16～17)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
9 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏 (3) (同上p18～19)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
10 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏 (4) (同上p20～21)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
11 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 8分音符 (1) (同上p22～23)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
12 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 8分音符 (2) (同上p24～25)				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
13 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 記譜法 (1) 大譜表	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
14 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 記譜法 (2) さまざまなリズム	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
15 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の主要3和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
16 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の固有和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
17 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のカデンツ	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
18 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて (1) 指ひろげ (歌唱教材伴奏法p48～49)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
19 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて (2) 指ひろげ (同上p50～51)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
20 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて (3) 跳躍と左手の指ひろげ (同上p52～53)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
21 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて (4) 指かえ (同上p54～55)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
22 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 指使いについて (5) 指またぎと指くぐり (同上p56～57)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
23 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた (1) (幼児のための音楽教育 4・5月)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
24 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた (2) (同上 6・7月)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
25 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた (3) (同上 8・9月)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
26 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた (4) (同上 10・11月)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
27 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた (5) (同上 11・12月)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
28 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた (6) (同上 1・2月)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
29 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 子どものうた (7) (同上 3月)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
30 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調のまとめ	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
〔学習上の留意点・準備等〕 ピアノの個人練習は毎日行うこと。また音楽理論の理解は子どもと音楽表現活動を行ううえで必須である。		
〔成績評価方法と評価基準〕 音楽理論試験25% 課題曲の合格曲数と進捗75%		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 個人レッスンでは毎回課題を与え、それにコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE10	1 年次 通 年	演 習	2	村 木 薫	随時プリント資料を配布
科目名	造形表現 I		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (5) (6) (10)						
〔授業の概要〕 造形表現に関する基礎的な知識や技能を身につけるとともに、保育内容を理解し、造形あそびを展開するために必要な知識や技術を習得する。美しいとはどういうことか、子どもの絵の発達といった内容を実際の制作を通して学び、造形表現の楽しさや喜びを知る。						
〔授業科目の到達目標〕 造形活動を通じて様々な技法の理解を深める。 造形活動を通して子どもの表現の理解を深める。 パネルに色彩構成する中で色彩感覚を高める。 パネルシアターなどの課題に取り組み、保育の組み立てを深める。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 造形表現概説 なぜ子どもは絵を描くのだろう				予習：シラバスを読み、授業の展開を把握		1
				復習：オリエンテーション内容、資料の見直し		
2 植物のスケッチ (春の草花を水彩画で描いてみよう)				予習：周辺の植物を観察する		1
				復習：周辺の植物と確認する		
3 植物のスケッチ (着色・講評)				予習：再度観察する		1
				復習：作品を鑑賞する		
4 事例研究 1 (フロッターージュについて)				予習：		1
				復習：作品を鑑賞する		
5 事例研究 2 (フロッターージュを用いた作品制作)				予習：事前に作品テーマを考えておく		1
				復習：作品を鑑賞する		
6 事例研究 3 (3 原色について)				予習：3 原色について調べる		1
				復習：作品を鑑賞する		
7 事例研究 4 (にじみ、ぼかし、ドリップング)				予習：		1
				復習：作品を鑑賞する		
8 事例研究 5 (マースキング、スクラッチ)				予習：		1
				復習：作品を鑑賞する		
9 事例研究 6 (ボディペインティング)				予習：		1
				復習：作品を鑑賞する		
10 事例研究を生かした紙芝居制作 1				予習：絵本の紹介・ストーリーを考える		1
				復習：		
11 事例研究を生かした紙芝居制作 2				予習：		1
				復習：作品の鑑賞		
12 事例研究を生かした紙芝居制作 3				予習：		1
				復習：作品の鑑賞		
13 紙芝居発表				予習：発表の準備		1
				復習：全員の作品を鑑賞する		
14 グラデーション演習 (下絵作り)				予習：作品を見て、構想を練る		1
				復習：作品を鑑賞する		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
15 グラデーション演習 (着色)	予習：作品を見て、構想を練る 復習：作品を鑑賞する	1
16 色彩構成演習 (写実と抽象について)	予習：作品のテーマを探す 復習：資料の見直し	1
17 色彩構成演習 (パネルボードに水張り)	予習：作品のテーマを探す 復習：資料の見直し	1
18 色彩構成演習 (下絵制作)	予習：作品のテーマを探す 復習：作品を鑑賞する	1
19 色彩構成演習 (着色)	予習：資料の見直し 復習：作品を鑑賞する	1
20 色彩構成演習 (着色及び講評)	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
21 植物を用いた平面構成 (材料への関わり)	予習：事前に秋の植物観察を行う 復習：作品を鑑賞する	1
22 植物を用いた平面構成 (色・素材から言葉へ)	予習：事前に秋の植物採取を行う 復習：作品を鑑賞する	1
23 紙版画制作 (なぐり描きから形の発見へ)	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
24 紙版画制作 (版制作)	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
25 紙版画制作 (刷り)	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
26 事例研究 7 (土粘土での表現)	予習：資料の見直し 復習：作品を鑑賞する	1
27 パネルシアターの制作 (オリジナルの物語を考える)	予習：制作テーマの資料集め 復習：作品を鑑賞する	1
28 パネルシアターの制作 (スケッチ・下絵制作)	予習： 復習：各作品の意見交換をする	1
29 パネルシアターの制作 (着色)	予習： 復習：各作品の意見交換をする	1
30 発表会・講評会	予習： 復習：作品を鑑賞する	1
〔学習上の留意点・準備等〕 随時プリントを配布し、理解を補足する。 課題提出にあたり提出締め切りは必ず守る。 自分の制作だけでなく他の学生の作品をよく見るようにし、お互いの意見交換を行う。		
〔成績評価方法と評価基準〕 提出課題（70％）スケッチブック（20％）小レポート（10％）を併せて評価する		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 ・毎回の授業後に作品の鑑賞会や簡単な講評会を行う。 ・ひとつの作品について感想を述べる小レポートを実施し、自由に鑑賞しあう雰囲気を作っている。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE11	2 年次 前 期	演 習	1	若井 由梨	授業内容に応じて適宜配布
科目名	身体表現 I		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (6) (8) (11) (13)						
〔授業の概要〕 人生の基礎を培う幼児期においては、心が豊かに解放されるからだを獲得することが重要である。本授業ではダンス(身体表現)の領域からアプローチし、リズムダンスや即興表現を通してひらかれた身体を用いて、さまざまな手がかりによる実践的な指導法を学ぶ。また保育者として基礎的な運動技能を身につけ、仲間とコミュニケーションを取りながら身体を使って表現することの楽しさについて理解を深める。						
〔授業科目の到達目標〕 ・保育における身体表現の特性について理解し、自らの言葉で説明することができる。 ・仲間とコミュニケーションを取りながら、身体を使って表現することの楽しさを実感できる。 ・幼児期の運動発達を理解し、保育者に必要な運動技能を身につけている。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション			予習：シラバスを読み、授業の展開を把握		1
				復習：		
2	ミュージカルでの表現方法① 音を手がかりとした表現			予習：前時授業に提示された内容を予習する。		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
3	ミュージカルでの表現方法② 物語の題材を手がかりにした表現			予習：前時授業に提示された内容を予習する。		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
4	ミュージカルでの表現方法③ 心情を手がかりにした表現			予習：前時授業に提示された内容を予習する。		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
5	ミュージカルでの表現方法④ 振付のある動きの表現方法			予習：前時授業に提示された内容を予習する。		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
6	ミュージカルでの表現方法⑤ 舞台演出の工夫			予習：前時授業に提示された内容を予習する。		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
7	保育における身体表現の特性（講義）			予習：		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
8	身体的コミュニケーションの実践			予習：前時授業に提示された内容を予習する。		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
9	現代の子どもたちにおける運動文化（講義） 外部講師による講義			予習：前時授業に提示された内容を予習する。		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 多様な動きを育む運動実践の紹介（実践） 外部講師による実技	予習：前時授業に提示された内容を予習する。	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
11 からだオーケストラ／ボディパーカッション	予習：前時授業に提示された内容を予習する。	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
12 日常的な動きを用いた即興／〇〇体操の創作	予習：前時授業に提示された内容を予習する。	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
13 幼児曲を用いたリズムダンスの創作 言葉やイメージを手がかりに	予習：前時授業に提示された内容を予習する。	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
14 幼児曲を用いたリズムダンスの発表 グループ発表・実技テスト	予習：前時授業に提示された内容を予習する。	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
15 まとめ 学習内容の総括	予習：前時授業に提示された内容を予習する。	1
	復習：本授業における到達目標の自己評価	
</		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE12	1 年次 前 期	演 習	1	久保田真規子	適宜プリント・資料配布
科目名	言語表現		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (4) (5) (2) (4) (5) (1) (3) (4) (6)						
〔授業の概要〕 講義形式の学びから乳幼児の言葉の発達の基本的な概念を学びます。その後、幼児の姿に沿う具体的な指導の在り方について実践的に考えます。言葉で表現する具体的な遊びや、絵本・紙芝居など言葉が育つ指導方法と環境について学びます。元幼稚園園長、元子育て支援施設職員、絵本セラピストの実践者が保育・教育場面を想定し、授業を担当する。領域「言葉」の理解と言言葉で表現する力を身につける内容です。						
〔授業科目の到達目標〕 領域「言葉」の目的内、ねらい、内容について0歳から5歳までの具体的な子どもの姿と結びつけながら理解します。保育者の役割について理解し幼児期に育む言葉に対する感覚を理解します。そして、表現する力を養うため、実践力と保育を構想する力を学生自らが磨きます。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 「言語表現」の意義と内容				予習：事前配布資料を読む		1
				復習：講義内容をまとめ課題を調べる。		
2 0歳から5歳までの言語の発達 (視聴覚教材)				予習：事前配布資料を読む		1
				復習：講義内容をシートにまとめる。		
3 言葉で表現する楽しさを感じる遊びとは (教材研究)				予習：言葉遊びについて調べる		1
				復習：講義内容をノートにまとめる。		
4 言葉のやりとりが生まれる環境 (視聴覚教材)				予習：言葉遊びについて調べる		1
				復習：講義内容をノートにまとめる。		
5 言語表現と児童文化財				予習：絵本の読み聞かせについて調べる		1
				復習：アンケートに回答 講義内容をまとめる		
6 絵本の読み方聞かせ方①				予習：好きな絵本を準備する①		1
				復習：講義内容をまとめる。		
7 絵本の読み方聞かせ方②				予習：好きな絵本を調べる②		1
				復習：講義内容をまとめる。		
8 絵本セラピー ～地域活動から見えること～				予習：児童文化財を調べる		1
				復習：絵本リストを作成する		
9 発達段階に合わせた絵本の選び方 1				予習：事前配布資料を読む		1
				復習：講義内容をまとめる		
10 発達段階に合わせた絵本の選び方 2				予習：事前配布資料を読む		1
				復習：講義内容をまとめる		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 絵本以外のお話 ～昔語り・素話～	予習：昔話について調べる	1
	復習：講義内容をまとめる	
12 テーマに合わせた絵本選び1	予習：テーマに合わせた絵本2冊準備する	1
	復習：絵本リストを作成する	
13 テーマに合わせた絵本選び2	予習：テーマに合わせた絵本2冊準備する	1
	復習：講義内容をまとめる	
14 テーマに合わせた絵本選び3	予習：テーマに合わせた絵本2冊準備する	1
	復習：絵本リストを作成する	
15 まとめ	15回の授業を振り返り子どもの言葉の発達と、絵本の関係、言葉で表現をする具体的な方法について考察をします。	1
〔学習上の留意点・準備等〕 幼児期の言葉の体験の一つに絵本があります。色々な絵本に出会い親しんでおきましょう。		
〔成績評価方法と評価基準〕 レポートの内容（50％）実習への取り組み（50％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 実習で発表する内容についてコメントします。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DK13		講 義	2	鷺尾智恵子	保育所保育指針（厚労省） 乳児保育（ミネルヴァ書房） 0・1・2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活（郁洋舎）
科目名	乳児保育 I		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (5) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 労働人口減少や人材の社会的活躍の期待・個人意志尊重など妊娠出産育児を取り巻く環境の変化がある。それに伴い出産数の減少がありながらも、低年齢から保育を依頼する機会も増え乳幼児保育の重要性が高まっている。乳幼児保育の意義・目的と役割・現状と課題について学ぶ。地域での子育て支援の現場での体験や保育現場の状況を集め関心や理解が深まる内容とする。学びながら乳児とその家族に対する愛情と尊敬の念が高まり乳児保育を理解する授業とする。 助産師としての実務経験を有する教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 (1) 乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について学ぶ。 (2) 保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 (3) 3歳未満児の発育・発達を踏まえた3歳未満児の保育の内容と運営体制について理解する。 (4) 乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について学ぶ。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	(1)	第1章 乳児保育の意義 レッスン1 乳児保育の役割	○シラバスを読み、授業の展開を把握 ○テキストの活用法を確認		4	
			予習：P 1～11（ミネルヴァ）			
			復習：授業内容の振り返り			
2	(2)	レッスン2 乳児保育の現状 ・保育者の役割の重要性	予習：P 12～22（ミネルヴァ）		4	
			復習：インシデント①～⑥からの学びをまとめておく			
3	(3)	第2章 3歳児未満の発達と保育 レッスン3・4 ・ヒトの発達と保育の営み（0歳児前期）	予習：P 25～31（ミネルヴァ） 記号1～13（郁洋舎）		4	
			復習：授業内容の振り返り			
4		・ヒトの発達と保育の営み（0歳児後期）	予習：P 31～38（ミネルヴァ） 記号14～42（郁洋舎）		4	
			復習：授業内容の振り返り			
5		・ヒトの発達と保育の営み（1歳児前期）	予習：P 39～45（ミネルヴァ） 記号43～75（郁洋舎）		4	
			復習：授業内容の振り返り			
6		・ヒトの発達と保育の営み（1歳児後期）	予習：P 39～45（ミネルヴァ） 記号76～99（郁洋舎）		4	
			復習：授業内容の振り返り			
7		・ヒトの発達と保育の営み（2歳児）	予習：P 45～51（ミネルヴァ） 記号100～137（郁洋舎）		4	
			復習：授業内容の振り返り			
8		・ヒトの発達と保育の営み（2歳児）	予習：P 45～51（ミネルヴァ） 記号138～171（郁洋舎）		4	
			復習：授業内容の振り返り			
9		レッスン5 乳児や家庭を取り巻く環境と 子育て支援	予習：P 52～67（ミネルヴァ）		4	
			復習：課題について自分の考えをまとめておく			

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕			
授 業 内 容		事前事後学修の内容	所要時間
10	レッスン6　さまざまな施設と乳児の保育	予習：P67～83(ミネルヴァ)	4
		復習：課題について整理しておく	
11	第3章　乳児の保育内容 レッスン7　乳児の保育形態 ・一人ひとりを大切にする保育、担当制の保育と実際	予習：P85～94(ミネルヴァ)	4
		復習：エピソード・インシデントを通して自分の考えをまとめておく	
12	レッスン8　乳児の環境構成 ・室内環境をとおして期待できる育ち ・安全面に配慮した室内環境	予習：P95～99　P106～109(ミネルヴァ)	4
		復習：課題について自分の考えをまとめておく	
13	・基本的生活習慣の習得と保育者の関わり ・入園期の保育実践と配慮ポイント	予習：P99～105(ミネルヴァ)	4
		復習：授業内容の振り返り	
14 (4)	レッスン14 保護者とのパートナーシップを高める	予習：P179～192(ミネルヴァ)	4
		復習：インシデント①・②からの学びをまとめておく	
15 (4)	レッスン15　関係機関との連携	予習：P193～199(ミネルヴァ)	4
		復習：課題について調べ、まとめておく	
〔学習上の留意点・準備等〕 学習内容のまとめ・振り返りを行い内容の理解を深める機会とする。課題に対して情報収集し自身の意見を持つ。 地域で生活する乳幼児に関心をもち観察する視点を持つことを意識する。			
〔成績評価方法と評価基準〕 試験（60％）　　　課題への取り組み（20％）　　　授業態度（20％）積極性・学習意欲			
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 ・試験及び授業後の課題等の提出については添削後返却する。			

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE14	1 年次 後 期	演 習	1	畠山 裕子	保育所保育指針（厚労省） 乳児保育（ミネルヴァ書房） 乳児保育Ⅰ・Ⅱ（萌文書林）
科目名	乳児保育Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (5) (8) (10) (11)						
〔授業の概要〕 乳児保育Ⅰにおいて履修した基本的理論を踏まえ、乳児期における遊びや生活の具体的な配慮や方法の実践的な理解を深める。テキストを活用し、演習・グループワークを通して一人ひとりを大切にする援助の実際や保育の専門性を学ぶ。人形を用いての具体的な援助の仕方を学び、実践につながる保育技術の習得を目指す。元保育園園長の教員が園運営例、保育実践例を用いてカリキュラム・マネジメントを指導する。						
〔授業科目の到達目標〕 (1) 3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 (2) 養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について理解する。 (3) 演習を通して、乳児保育における配慮の実際について具体的に理解を深める。 (4) 上記(1)～(3)を踏まえ、乳児保育の計画の作成について、具体的に理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション 乳児保育の専門性			シラバスを読み、授業の展開を把握		1
2	乳児保育の基本 保育者の受容的で応答的な関わり			予習：テキストⅠ・Ⅱ P19～P23、P141～P148 保育指針 P13～ 復習：授業内容の振り返り		1
3	乳児保育の遊びと援助の実際① 0歳児			予習：テキストⅠ・Ⅱ P103～P122 乳児保育 P110～P113 復習：授業内容の振り返り		1
4	乳児保育の遊びと援助の実際② 1歳児			予習：テキストⅠ・Ⅱ P119～P129 復習：授業内容の振り返り		1
5	乳児保育の遊びと援助の実際③ 2歳児			予習：テキストⅠ・Ⅱ P131～P137 復習：授業内容の振り返り		1
6	生活と援助の実際① 食事			予習：テキストⅠ・Ⅱ P165～P174 復習：授業内容の振り返り		1
7	生活と援助の実際② 排泄・着脱			予習：テキストⅠ・Ⅱ P175～P178 復習：授業内容の振り返り		1
8	生活と援助の実際③ 睡眠・清潔			予習：テキストⅠ・Ⅱ P179～P184 復習：授業内容の振り返り		1
9	乳児保育における健康と安全			予習：テキストⅠ・Ⅱ P155～P164 P191～P192 復習：授業内容の振り返り		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 長期的指導計画と短期的指導計画		1
	復習：授業内容の振り返り	
11 集団・個別の指導計画		1
	復習：授業内容の振り返り	
12 乳児保育を支える連携 職員間・保護者	予習：テキストⅠ・Ⅱ P151～P153	1
	復習：授業内容の振り返り	
13 発達や興味に即した環境構成 (グループワーク)	予習：環境構成について調べる	1
	復習：課題についてまとめる	
14 発達や興味に即した環境構成 (個人製作発表)	予習：課題発表の準備をする	1
	復習：課題発表の振り返り	
15 乳児保育Ⅱのまとめ	授業内容を振り返り、気づきをまとめる	1
〔学習上の留意点・準備等〕 学習したことについて振り返りを行い、学びを確実なものにする。課題について自ら考え、他の学生と協力して問題解決をし発表できるようにする。随時授業ノートや配布物を整理する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 試験（60％） 課題への取り組み（20％） 授業態度（20％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 試験及び授業内容の確認をし、疑問点を解消する。試験及び課題の添削後返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE15		演 習	1	俣田真紀子	子どもの健康と安全 中根淳子／佐藤直子編著 2,200円 (ななみ書房) 適宜資料配布
科目名	子どもの健康と安全	1 年次 後 期	担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3)						
〔授業の概要〕 「子どもの保健」で学んだことに基づいて、健康と安全の確保に必要な、保育環境への援助、衛生管理、事故防止、安全・危機管理、体調不良時の対応、感染症対策、疾病や障害のある子どもの対応などを具体的に学び、このような保健活動を円滑に推進するには、組織的に取り組む保健計画が必要であることを理解する。子育てのパートナーとして、理論に基づいた実践ができる保育者になることを目指す。保健師として地方自治体の保健業務の経験を有する教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 1. 保育環境の援助ができるように理解する。 2. 衛生管理、事故防止、安全・危機管理ができるように理解する。 3. 体調不良時の対応が適切にできるように理解する。 4. 感染症対策が実施できるように理化する。 5. 個別的配慮を要する子どもへの対応が適切にできるように理解する。 6. 保健計画の立案及び評価ができるように理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育環境及び援助 保育環境・個別対応と集団全体の健康安全管理について				予習：シラバスを読み、概要、目標、内容などを把握しておく。		1
				復習：教科書P9～11までと資料の見直し。		
2 保育における健康安全管理の実践 (1) 衛生管理について				予習：教科書P15～23を読み、理解を深める。		1
				復習：現場の衛生管理の実施方法を整理しておく。		
3 保育における健康安全管理の実践 (2) 事故防止及び安全対策について				予習：教科書P25～28を読み、理解を深める。		1
				復習：事故死因、発生状況、発達段階から予想される事故などを整理しておく		
4 保育における健康安全管理の実践 (3) 危機管理・災害への準備				予習：教科書P29～33を読み、理解を深める。		1
				復習：授業内容を見直し整理をしておく。		
5 体調不良等に対する適切な対応 (1) 発熱・嘔吐・下痢・咳・発疹・脱水・けいれんについて				予習：資料、教科書P37～51を読み、理解を深める。		1
				復習：授業を見直し、どのような手当をするのか整理しておく。		
6 体調不良等に対する適切な対応 (2) 応急手当：創傷処置・頭部打撲・脱臼・鼻出血・やけどなどについて				予習：資料、教科書P54～57を読み、理解を深める。		1
				復習：授業を見直し、どのような手当をするのか整理しておく。		
7 体調不良等に対する適切な対応 (3) 応急手当：誤飲・誤嚥・溺水・熱中症・食物アレルギー緊急対応について				予習：資料、教科書P58～66を読み、理解を深める。		1
				復習：授業を見直し、どのような手当をするのか整理しておく。		
8 体調不良等に対する適切な対応 (4) 応急手当：救急処置及び救急蘇生法について				予習：資料、教科書P67～74を読み、理解を深める。		1
				復習：授業を見直し、心肺蘇生の方法、気道異物除去方法などを整理しておく。		
9 感染症対策 小テストの実施、集団発生の予防・投薬について				予習：資料、教科書P79～87を読み、理解を深める。		1
				復習：授業を見直し、感染症の流行を防ぐ方法を整理しておく。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 保育における保健的対応の基本的な考え方について	予習：資料、教科書P89～110を読み、理解を深める。	1
	復習：授業を見直し、内容を整理しておく。	
11 個別な配慮を必要とする子どもへの対応（1）慢性疾患（腎疾患・糖尿病・循環器）、アレルギー疾患の子どもについて	予習：資料、教科書P89～117を読み、理解を深める。	1
	復習：授業を見直し、内容を整理しておく。	
12 個別な配慮を必要とする子どもへの対応（2）精神疾患、発達障害、医療ケアを必要とするの子どもについて	予習：資料、教科書P89～117を読み、理解を深める。	1
	復習：授業を見直し、内容を整理しておく。	
13 個別な配慮を必要とする子どもへの対応（3）障害のある子どもの対応について	予習：資料、教科書P117～119を読み、理解を深める。	1
	復習：授業内容を見直し、整理しておく。	
14 健康安全管理に実施体制（1）小テストの実施、職員間の連携と組織的取組・保健活動の計画	予習：資料、教科書P121～126を読み、理解を深める。	1
	復習：授業内容を見直し、整理しておく。	
15 健康安全管理に実施体制（2）母子保健・地域保健と保育、家庭・専門機関・地域との連携について	予習：資料、教科書P127～136を読み、理解を深める。	1
	復習：授業内容を見直し、整理しておく。	
〔学習上の留意点・準備等〕 「子どもの保健」は復習をしておく。限られた時間内で、多くの実践的なことを学ぶので、前もって予習をしておくことが望ましい。授業中はその場でやってみたり、デモンストレーションなどを取り入れるので、協力的な態度を希望する。復習は教科書、配布資料を活用する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業態度、定期試験で評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 まとめの小テストを実施し、添削をして返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE16	2 年次 前 期	演 習	1	小川 崇	特に指定しない。 適宜資料を配付する。
科目名	障害児保育 I		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 「障害」の有無に関わらず、すべての子どもたちが豊かな乳幼児期を保障するためには、「障害児(者)」に対する保育や教育がどのように展開されており、そこでは何が大切なものとして考えられてきたかということ、また障害についての基礎的な知識を学ぶことは欠かせない。本演習では障害の定義、障害を取り巻く社会や制度について学び、障害に対する理解を深め、また障害児(者)とどのように関わっていけばよいのかを考えていきたい。						
〔授業科目の到達目標〕 ・「障害」とは一般的にどのような状態なのかを理解する。 ・個別の「障害」について理解を深める。 ・以上のことを踏まえた上で、「障害児(者)」とどのように関わっていけばよいのかということをも自分なりに考える。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 障害をどう考えるか				授業内容をふりかえり理解を深める		1
2 障害児保育を支える理念 ノーマライゼーション				授業内容をふりかえり理解を深める		1
3 障害児保育を支える理念 インテグレーション、インクルージョン				授業内容をふりかえり理解を深める		1
4 障害概念の理解				授業内容をふりかえり理解を深める		1
5 「医療モデル」と「社会モデル」				授業内容をふりかえり理解を深める		1
6 障害の理解 身体障害				授業内容をふりかえり理解を深める		1
7 障害の理解 知的障害				授業内容をふりかえり理解を深める		1
8 障害の理解 発達障害 広汎性発達障害				授業内容をふりかえり理解を深める		1
9 障害の理解 発達障害 自閉症				授業内容をふりかえり理解を深める		1
10 障害の理解 発達障害 学習障害				授業内容をふりかえり理解を深める		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 障害の理解 発達障害 注意欠陥・多動症	授業内容をふりかえり理解を深める	1
12 障害児保育の方法	授業内容をふりかえり理解を深める	1
13 障害児保育の実際	授業内容をふりかえり理解を深める	1
14 幼保小の連会	授業内容をふりかえり理解を深める	1
15 全体のまとめとふりかえり	授業内容をふりかえり理解を深める	1
〔学習上の留意点・準備等〕 授業時に適宜参考文献を紹介する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業時の小レポート(15%)、中間レポート(40%)、期末レポート(45%)		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業時に提出する小レポートを、次回の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE17	2 年次 後 期	演 習	1	小川 崇	特に指定しない。 適宜資料を配付する。
科目名	障害児保育Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 「障害」の有無に関わらず、すべての子どもたちに豊かな乳幼児期を保障するためには、「障害児(者)」に対する保育や教育がどのように展開されており、そこでは何が大切なものとして考えられてきたか、また障害についての基礎的な知識を学ぶことは欠かせない。ここでは、障害児保育Ⅰでの学習を踏まえて、グループごとにテーマを設定し、調べ、考えたことを発表して質疑応答を行うことで、障害ということ、また障害児(者)とどのように関わるかについての理解を深めていきたい。						
〔授業科目の到達目標〕 ・ 障害児保育Ⅰでの学習を踏まえた上で、グループ内で協力してテーマを設定し、調べ、発表する。 ・ 上記の過程で、障害児(者)とどのように関わったらよいかという自分なりの考えをより深める。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 グループ作り						
2 テーマ学習 1 障害とスポーツ				テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる		1
3 テーマ学習 2 障害と表現				テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる		1
4 テーマ学習 3 障害とアート				テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる		1
5 テーマ学習 4 障害者の就労				テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる		1
6 テーマ学習 5 障害者の就労支援				テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる		1
7 テーマ学習 6 障害と命の選別				テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる		1
8 テーマ学習 7 出生前診断				テーマについてグループで話し合った内容をふりかえる		1
9 発表準備 発表テーマの決定				決定したテーマについて調べる		1
10 発表準備 発表テーマについて調べる				決定したテーマについて調べる		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕			
授 業 内 容		事前事後学修の内容	所要時間
11 発表準備 配付資料の作成		発表のための配付資料を作成する	1
12 発表 1 1、2 班		自他のグループの発表をふりかえる	1
13 発表 2 3、4 班		自他のグループの発表をふりかえる	1
14 発表 3 5、6 班		自他のグループの発表をふりかえる	1
15 まとめと全体のふりかえり	↓		
〔学習上の留意点・準備等〕 授業時に適宜参考文献を紹介する。グループワークに関しては、グループ内で協力して課題を行うこと。			
〔成績評価方法と評価基準〕 授業時の小レポート(10%)、中間レポート(40%)、グループワーク(50%)			
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業に提出する小レポートを、次の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。			

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE18	1 年次 後 期	演 習	1	福原 英起	『よりそい支える社会的養護Ⅱ』 中山正雄監修、教育情報出版 『社会福祉小六法2025〔令和7年版〕』 ミネルヴァ書房
科目名	社会的養護Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 「保育」の対象は、就学前の乳幼児だと思われることが多いが、社会的養護の現場では18歳未満、場合によっては22歳までの利用が可能となっている。そのため、従来の乳幼児に対する専門性と併せて、学童以上の子どもや大人に対する「施設保育士」としての専門性についても理解できるようにしたい。						
〔授業科目の到達目標〕 前期で履修した「社会的養護Ⅰ」の理念、思想、歴史、制度等を踏まえ、施設保育士として必要な福祉サービスや制度、社会資源の理解と、関係機関との連携・協働のあり方について、事例を基に検討を行いながら、専門職者としての自覚を促すことを目的とする。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 社会的養護の機能と枠組み				指定テキストの序章を読んで理解を深める。		1
2 社会的養護の課題				指定テキストの第1章を読んで理解を深める。		1
3 社会的養護を利用する子どもの権利擁護				指定テキストの第2章を読んで理解を深める。		1
4 社会的養護に関わる保育士の倫理および責務				指摘テキストの第3章を読んで理解を深める。		1
5 社会的養護における記録と評価				指摘テキストの第4章を読んで理解を深める。		1
6 施設入所と個別支援計画				指摘テキストの第5章を読んで理解を深める。		1
7 社会的養護施設における支援 (児童養護施設、乳児院)				指摘テキストの第6章を読んで理解を深める。		1
8 社会的養護施設における支援 (児童自立支援施設、児童心理治療施設)				指摘テキストの第6章を読んで理解を深める。		1
9 障害児入所施設における支援 (福祉型)				指摘テキストの第7章を読んで理解を深める。		1
10 障害児入所施設における支援 (医療型)				指摘テキストの第7章を読んで理解を深める。		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 児童発達支援センターの支援 (福祉型、医療型)	指摘テキストの第8章を読んで理解を深める。	1
12 基本的生活習慣、学習・学校に関わる専門的 技術	指摘テキストの第9章、第10章を読んで理解を深める。	1
13 対人関係・社会生活に関わる専門的技術	指摘テキストの第11章を読んで理解を深める。	1
14 家庭支援のためのソーシャルワーク	指摘テキストの第12章を読んで理解を深める。	1
15 里親委託児童の支援	指摘テキストの第13章を読んで理解を深める。	1
〔学習上の留意点・準備等〕 必ず指定テキストを持参すること。授業時の演習に積極的に参加することで、他者との相互理解を図る。		
〔成績評価方法と評価基準〕 定期試験（70％）、授業時の演習課題の提出（30％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 演習時のポイントについて適宜解説を行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE19	2 年次 後 期	演 習	1	渡 邊 彩	子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」 立花直樹ら、晃洋書房、2025年発行予定。
科目名	子育て支援		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (8) (9) (11)						
〔授業の概要〕 子育て支援の基礎となる専門的知識を理解するとともに、子育て支援における関係機関との連携、保護者への保育の指導の在り方、保護者理解、子育て支援における計画・記録・評価について演習を通して学ぶ。 教育現場での経験があり、地域での子育て支援に携わっている教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・保育者の行う保育の専門性を背景とした、保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援についての基本的な知識を理解する。 ・保育士の行う子育て支援について、様々な場面や対象に即して考察し、支援内容と方法について具体的に理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育とともに行う子育て支援				テキストを読んで理解を深める。		1
2 保護者との相互理解と信頼関係の形成				テキストを読んで理解を深める。		1
3 支援のニーズへの気づきと多面的な理解				テキストを読んで理解を深める。		1
4 子ども・保護者が他者と関わる機会・場の提供				テキストを読んで理解を深める。		1
5 子ども・保護者に関する情報の把握とカンファレンス (1)				テキストを読んで理解を深める。		1
6 子ども・保護者に関する情報の把握とカンファレンス (2)				テキストを読んで理解を深める。		1
7 支援の計画と実践				テキストを読んで理解を深める。		1
8 地域資源を活用した子育て支援				テキストを読んで理解を深める。		1
9 保育所の特性を活用した子育て支援				テキストを読んで理解を深める。		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 課題を抱える保護者への子育て支援 (1)	テキストを読んで理解を深める。	1
11 課題を抱える保護者への子育て支援 (2)	テキストを読んで理解を深める。	1
12 課題を抱える保護者への子育て支援 (3)	テキストを読んで理解を深める。	1
13 子育て支援のプログラム案の検討とポスター制作	テキストを読んで理解を深める。	1
14 まとめと今後の課題 (1) (ポスター発表と講評)	資料を観て理解を深める。	1
15 まとめと今後の課題 (2) (全体のふりかえり)	資料を観て理解を深める。	1
〔学習上の留意点・準備等〕 ・随時、参考資料・参考文献を紹介する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 中間レポート(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 講義後に出された質問・疑問等の内容を整理し、次回以降の講義で説明・コメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1FE01	1 年次 後 期 2 年次 通 年	演 習	3	全専任教員	各種資料 保育教職実践演習カルテ
科目名	保育・教職実践演習		担当形態 複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 本授業は教職・保育職を円滑にスタートできるよう、保育者として最小限必要な資質・能力を身につけることをねらいとしている。将来保育者となる上で、自己にとって何が課題であるかを自覚し、不足している知識や技能等を補い定着が図れるよう、ロールプレーイング、グループ討議、事例研究、現地調査、模擬保育などの方法を用いて授業を構成する。1年次後期は個々に研究領域を選び、研究テーマを設定する。研究テーマに応じて仮の所属ゼミの配属となる。2年次には所属ゼミの教員から指導を受けながら研究結果を個人またはグループで成果をまとめ、発表する。研究テーマに応じて所属ゼミ（仮）が決定する。 ※本授業科目の前半は、高等学校から大学への円滑な移行を図るために必要な学修方法の習得等を目的とした授業内容になっている。						
〔授業科目の到達目標〕 ・社会性や対人関係能力が身についている。 ・聴く、メモを取る、要点をまとめる等の力が身についている。 ・論理的思考力が身についている。 ・レポート・論文等で記述するためのスキルが身についている。 ・プレゼンテーションの技法が身についている。 ・保育者としての使命感や責任感、教育的愛情が身についている。 ・幼児理解や学級経営が身についている。 ・保育内容や指導力が身についている。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション 保育・教職実践演習個人カルテの作成・記入			予習：シラバスを読み、授業の展開を把握 復習：		1
2	研究領域別オリエンテーション			予習：自己の課題を検討（研究テーマ） 復習：		1
3	個別に研究テーマと目的について考える			予習：自己の課題を検討（研究テーマ） 復習：研究テーマと目的の検討		1
4	個別に研究方法、研究計画について考える			予習：研究方法・研究計画の立案 復習：		1
5	個別に研究形態について考える			予習：研究形態の検討 復習：		1
6	研究テーマに沿ってグループ（個人）編成をする			予習：研究形態の検討 復習：		1
7	グループまたは個人研究活動① 研究目的・方法の検討（グループワーク）			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
8	グループまたは個人研究活動② 研究内容の検討（グループワーク）			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
9	グループまたは個人研究活動③ 研究計画の立案（グループワーク）			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
10	グループまたは個人研究活動④ テーマ報告会抄録の原案作成(グループワーク)			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
11	グループまたは個人研究活動⑤ テーマ報告会抄録の第二校作成(グループワーク)			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
12	グループまたは個人研究活動⑥ テーマ報告会抄録の最終校正作成(グループワーク)			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
13	テーマ報告会の運営準備			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
14	テーマ報告会（第1グループ）			予習：発表準備 復習：発表結果のふり返り		1
15	テーマ報告会（第2グループ）			予習：発表準備 復習：発表結果のふり返り		1
16	グループまたは個人研究活動 先行研究			予習： 復習：ゼミ内テーマ報告会のふり返り		1
17	グループまたは個人研究活動 各テーマについて先行研究調査等を行い研究方法を具体的に学ぶ			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
18	グループまたは個人研究活動 研究テーマに応じた文献を探す			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1
17	グループまたは個人研究活動 文献を読み込む			予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
20 グループまたは個人研究活動 専門的用語・意味を理解する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
21 グループまたは個人研究活動 文献リスト・資料を整理する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
22 グループまたは個人研究活動 進捗状況をゼミ内発表	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
23 グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する(観察による方法)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
24 グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する(質問紙等による方法)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
25 グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する(面接による方法)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
26 グループまたは個人研究活動 具体的に研究方法を検討し実施する(実践による方法)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
27 グループまたは個人研究活動 中間発表会の準備 ポスター作成(前半)・演奏プログラムの検討	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
28 グループまたは個人研究活動 中間発表会の準備 ポスター作成(後半)・演奏リハーサル	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
29 卒業研究中間発表会(第1グループ)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：発表結果のふり返し	1
30 卒業研究中間発表会(第2グループ)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：発表結果のふり返し	1
31 保育・教職実践演習個人カルテの記入	予習：グループまたは個人研究活動 復習：様々な研究方法で収集した結果を集計する(文献によるもの)	1
32 グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する(観察によるもの)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
33 グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計する(質問紙等によるもの)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
34 グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する(面接によるもの)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
35 グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する(事例によるもの)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
36 グループまたは個人研究活動 様々な研究方法で収集した結果を集計し考察する(実践によるもの)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
37 グループまたは個人研究活動 個別研究レポートを作成する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
38 グループまたは個人研究活動 研究発表会の発表要旨を検討する	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
39 グループまたは個人研究活動 研究発表会のポスターを作成する(前半)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
40 グループまたは個人研究活動 研究発表会のポスターを作成する(後半)	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
41 ゼミ内研究発表会	予習：グループまたは個人研究活動 復習：グループまたは個人研究活動	1
42 保育・教職実践演習個人カルテの記入	予習：カルテの記入項目を確認 復習：	1
43 卒業研究発表会 (第1グループ・ポスター発表)	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返し	1
44 卒業研究発表会 (第2グループ・ポスター発表)	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返し	1
45 卒業研究発表会(第3グループ・演奏)	予習：発表準備 復習：発表結果のふり返し	1
〔学習上の留意点・準備等〕 ゼミ担当の教員と履修カルテの記入を通して自己の学習成果をチェックしながら、保育者として必要な能力を身につける。主体的に活動を進める。		
〔成績評価方法と評価基準〕 3回の発表会(テーマ報告会、中間発表会、卒業研究発表会)のプレゼンテーション力・研究過程の取り組み状況・研究成果(100%)を踏まえ、到達目標と照らし成績評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 保育・教職実践演習の履修カルテにゼミ担当教員が所見を記入し返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2BE09	2 年次 後 期	演 習	1	田代 健一	『演習・保育と相談援助』 (第2版)監修 前田 敏雄 株式会社みらい
科目名	保育相談の実際		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (8) (9) (10) (11) (13)						
〔授業の概要〕 保育における相談援助の知識と技術を身につけることにより、福祉専門職の自覚を形成し、保育者として必要なソーシャルワークのあり方を修得する。また、現在の子どもを取り巻く社会状況を理解・考察し、問題意識を常に持つ姿勢を忘れない保育者を目指す。 4～5名でグループワークを行い、自分たちの意見をまとめて発表し、また他者の意見を傾聴する。 児童相談所での勤務経験を有する教員が相談の実践例を用いて相談援助の過程を指導する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・生活課題の種類と背景が考察できるようになる。 ・援助に必要な身近な社会資源が理解できるようになる。 ・福祉の専門性に基づく事例の対応方法が理解できるようになる。 ・福祉専門用語が理解できるようになる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 授業・テキストの概要説明				予習：テキストの序文・目次等を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
2 保育と相談援助				予習：テキストの第1章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
3 相談援助とは何か				予習：テキストの第2章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
4 相談援助の過程と連携				予習：テキストの第3章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
5 相談援助者になるために（自己覚知）				予習：テキストの第4章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
6 相談援助者になるために（他者理解）				予習：テキストの第5章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
7 基本的態度、コミュニケーションスキル				予習：テキストの第6章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
8 非言語的コミュニケーションの理解				予習：テキストの第6章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
9 相談援助者になるために（記録）				予習：テキストの第7章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		
10 生活課題の把握				予習：テキストの第8・9章を読んでもくこと		1
				復習：キーワードの内容・意味を整理すること		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 相談援助の過程（インテークとアセスメント）	予習：テキストの第10章を読むこと	1
	復習：キーワードの内容・意味を整理すること	
12 相談援助の過程（援助計画）	予習：テキストの第11章を読むこと	1
	復習：キーワードの内容・意味を整理すること	
13 相談援助の過程（実施、評価）	予習：テキストの第11章を読むこと	1
	復習：キーワードの内容・意味を整理すること	
14 児童虐待の事例	予習：テキストの第15章を読むこと	1
	復習：キーワードの内容・意味を整理すること	
15 まとめ	配布資料を参考にしてソーシャルワークについて理解を深める	1
〔学習上の留意点・準備等〕 ・グループワークを通じて他者理解を促進する。 ・随時プリントを配布して理解を深める。		
〔成績評価方法と評価基準〕 ・中間レポート(50%)、期末レポート(50%)によって評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 講義中や講義後に出された質問・疑問等の内容を整理し、次回以降の講義で説明・コメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2BE10		講 義	2	外山 武夫	配布資料をテキストとして使用
科目名	特別支援教育概論		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (8) (10)						
〔授業の概要〕 発達障害などの特別な支援を必要とする子どもの具体的な特性や心身の発達についての基本的な知識を学ぶ。加えて、学習や生活における自立に向けての具体的な支援方法や個別の支援計画の作成などについても学ぶ。また、様々な制度を知るとともに、家庭や関係機関と連携した支援体制の構築や組織的対応の必要性についても理解する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・ 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ・ 特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 ・ 特別な教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 現在の特別支援教育の制度 ・ 障害者の権利に関する条約、発達障害者支援法				事前：図書館やインターネット等を利用し、「合理的配慮」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
2 特別支援教育の対象 (1) ・ A S D (自閉症スペクトラム症) の理解と支援				事前：図書館やインターネット等を利用し、「ASD (自閉スペクトラム症)」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
3 特別支援教育の対象 (2) ・ A D H D (注意欠如多動症)、L D (学習障害) の理解と支援				事前：図書館やインターネット等を利用し、「ADHD (注意欠如多動症)」「LD (学習障害)」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
4 特別支援教育の対象 (3) ・ I D (知的発達症) の理解と支援				事前：図書館やインターネット等を利用し、「ID (知的発達症)」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
5 特別支援教育の対象 (4) ・ 視覚障害の理解と支援 (視覚障害疑似体験と補装具等体験)				事前：図書館やインターネット等を利用し、「視覚障害」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
6 特別支援教育の対象 (5) ・ 聴覚障害の理解と支援 (聴覚障害疑似体験と補装具等体験)				事前：図書館やインターネット等を利用し、「聴覚障害」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
7 特別支援教育の対象 (6) ・ 肢体不自由の理解と支援 (肢体不自由疑似体験と補装具等体験)				事前：図書館やインターネット等を利用し、「肢体不自由」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
8 特別支援教育の対象 (7) 特別支援教育の内容と方法 (1) ・ 病弱の理解と支援 ・ 行動観察の方法				事前：図書館やインターネット等を利用し、「病弱」「行動観察」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
9 特別支援教育の内容と方法 (2) ・ 「構造化」の理解と活用方法				事前：図書館やインターネット等を利用し、「構造化」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		
10 特別支援教育の内容と方法 (3) ・ 障害受容と保護者支援				事前：図書館やインターネット等を利用し、「障害受容」について調べる。		2
				事後：配布資料を読む。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 特別支援教育の内容と方法 (4) ・「困った」行動の意味と支援	事前：図書館やインターネット等を利用し、「問題行動」について調べる。	2
	事後：配布資料を読む。	
12 特別支援教育の内容と方法 (5) ・認知の偏り、不器用さの理解と支援	事前：図書館やインターネット等を利用し、「認知の偏り」「不器用」について調べる。	2
	事後：配布資料を読む。	
13 特別支援教育の内容と方法 (6) ・発達評価に基づく理解	事前：図書館やインターネット等を利用し、「発達評価」について調べる。	2
	事後：配布資料を読む。	
14 特別支援教育の内容と方法 (7) ・「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の作成意義と活用方法	事前：幼稚園教育要領や小・中・高学習指導要領を読み、「個別の指導計画」「個別の教育支援計画」の記述箇所を探す。	2
	事後：配布資料を読む。	
15 特別支援教育とインクルーシブ教育 ・連携支援体制構築の必要性和方法 ・特別な教育的ニーズの理解と対応	事前：図書館やインターネット等を利用し、「特別支援教育コーディネーター」「ギフテッド(Gifted)」「2E (twice-exceptional)」「HSC (The Highly Sensitive Child)」を調べる。	2
	事後：配布資料を読む。	
〔学習上の留意点・準備等〕		
・シラバスの「 」内に授業のキーワードを記述したので、事前に調べておく。		
・毎時間講義に使用するプレゼンシートの抜粋を印刷して配布するので、授業後の学習に活用する。		
・体験を可能な限り取り入れるので、服装等に注意する。		
〔成績評価方法と評価基準〕		
・毎授業後に提出する演習シート (40%)		
・定期試験 (60%)		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕		
・毎授業後に演習シートを記入して提出する。演習シートはコメントを入れ次授業時に返却する。		
・定期試験時は配布した資料のみ持込み可とするので、しっかりと読み込み保存しておく。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2CE07		演 習 担当形態 単 独	2	稲場 建	子どもの理解と保育・教育相談（第2版） （みらい）、小田豊・秋田喜代美編
科目名	幼児理解と教育相談					
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 教育の基本となる幼児理解の意義や考え方、原理や発達の知識などを理解し、その基礎的態度や姿勢を学ぶと共に、幼児理解の方法としての観察や記録、個と集団の人間関係やその背景の理解を具体的な事例などで学び理解する。また、教育相談の意義や考え方、カウンセリングマインドの重要性を理解し、教育相談における基礎的な理論と知識及び姿勢、技法を学ぶと共に、教育相談の具体的な進め方や、組織的な連携の重要性と意義を発達課題や事例などを通して具体的に理解する。保育、幼児教育の現場での相談・援助経験がある臨床心理士、公認心理師の教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・幼児理解の意義や考え方、その原理を理解する。 ・観察、記録の方法及び個と集団の関係を捉える基礎的な方法を理解する。 ・教育相談の意義や考え方及び基礎的な理論を理解する。 ・カウンセリングマインドの重要性及びカウンセリングの基礎的な技法について理解する。 ・教育相談の進め方及び組織的な連携の重要性と意義について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	幼児理解の意義 ～基礎的な姿勢や態度～			予習：シラバスを読み、授業の展開を把握しておく。 復習：テキスト第1章を読み返す。		1
2	幼児理解の視点 ～子どもの行為の意味や発達の原理～			予習：テキスト第2章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
3	幼児理解における「発達」と「育ち」について			予習：テキスト第5章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
4	幼児理解における「発達段階」と「発達過程」について			予習：テキスト第2章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
5	幼児理解と援助の方法 ～かかわりと理解と修正について～			予習：前日に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
6	幼児理解から生まれる「ねらい」と援助について			予習：前日に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
7	幼児理解における観察の意義と目的			予習：前日に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
8	幼児理解における記録の意義と目的			予習：前日に配布した資料を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
9	幼児理解のための園内研修、カンファレンスの意義			予習：テキスト第8章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
10	カンファレンスのあり方 ～事例をもとにディスカッションしてみる～			予習：テキスト第8章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
11	障害のある子どもの理解と対応について① ～状況、背景の理解、保護者理解～			予習：テキスト第4章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
12	障害のある子どもの理解と対応について② ～個と集団、個別指導、関係者連携～			予習：テキスト第4章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1
13	カウンセリングマインドと幼児理解 ～事例を通して考える問題行動や不適応の意味～			予習：テキスト第1章を読んでくる。 復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
14 カウンセリングマインドと保護者理解 ～事例を通して考える保護者との関わり～	予習：テキスト第1章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
15 家庭支援、子育て支援の必要性について ～保護者への対応、基礎的な態度の理解～	予習：テキスト第3章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
16 教育相談の意義と課題について ～グループワークを通しての検討～	予習：テキスト第8章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
17 相談を支える心理学の基礎的理論① ～発達段階など～	予習：テキスト第2章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
18 相談を支える心理学の基礎的理論② ～発達課題など～	予習：テキスト第2章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
19 相談を支える心理学の基礎理論③ ～精神分析、認知行動療法など～	予習：前回に配布した資料を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
20 相談におけるカウンセリングマインドの重要性と技法① ～ロールプレイ・つながることと見守ること～	予習：テキスト第6章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
21 相談におけるカウンセリングマインドの重要性と技法② ～ロールプレイ・受容と共感～	予習：テキスト第6章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
22 相談と子どものアセスメント	予習：テキスト第5章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
23 相談における危機介入 ～対応と関係者連携のあり方～	予習：テキスト第7章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
24 相談体制と連携のあり方① ～組織的対応と連携～	予習：テキスト第7章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
25 相談体制と連携のあり方② ～地域の医療・福祉等の外部専門機関との連携～	予習：テキスト第7章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
26 相談事例検討① ～目標の立て方、進め方～	予習：テキスト第2部事例編を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
27 相談事例検討② ～情報共有と支援など～	予習：テキスト第2部事例編を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
28 保護者理解と支援 ～保護者のニーズ把握と情報共有、連携～	予習：テキスト第3章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
29 子ども理解と相談支援 ～受容・傾聴・共感的理解など～	予習：テキスト第5、6章を読んでくる。	1
	復習：ノート等を基に授業内容を振り返り、整理する。	
30 支援者自身のメンタルヘルスと課題・まとめ	予習：前回に配布した資料を読んでくる。	1
	復習：今までの学習内容の整理、振り返りを行う。	
〔学習上の留意点・準備等〕 ・ 随時プリントを配布し、理解を補足する。 ・ ロールプレイ、グループワーク、ディスカッションにおいては、考えたり、発言したりすることが理解を深めることにつながるため、積極的に取り組む心構えをもって臨むこと。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業内課題40%、レポート60%。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 毎回、質問タイムを設け、質問に応じる。授業内で取り組む課題についても解説を行うと共に、疑問点、質問点についてコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2CE07	2 年次 前 期	演 習	1	俣田真紀子	適宜プリント配布
科目名	子どもの保健実習		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (5) (6)						
〔授業の概要〕 子どもの保健Ⅰ（１年次）で学んだことに基づき、乳幼児の健全な発育・発達の支援と、心身活動の中で生じる事故や異常な状態に対する適切な手当や処置ができるように、理論に基づいた実践的技術を理解する。さらに子どもの心身の健康増進や安全を確保するための施設や地域社会の取り組みについても理解する。 保健師として地方自治体の保健衛生業務の経験を有する教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 1 子どもの健康増進、感染・事故防止の適切な対応について具体的に学ぶ。 2 施設における子どもの健康及び安全の実施体制について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育者の健康管理を考える。 自身の健康管理の認識を深める。				予習：シラバスを読み、授業の概要、目標、内容を理解する。		1
				復習：子どもの保健を読み、自身の健康管理を認識する。		
2 熱中症予防対策を考える、脱水時の補液のつくり方 熱中症予防の啓発が出来るように。				予習：配布資料を読み、熱中症予防について自己学習をしておく。		1
				復習：作成した熱中症予防啓発の指導案を見直しておく。		
3 身体発育の評価をする。 成長曲線、カウプ指数を用いた発育評価ができるように。				予習：配布資料の例題に取り組む。		1
				復習：成長曲線、カウプ指数を用いた発育評価ができるように見直しておく。		
4 精神発達を評価する (1) 1.6歳、3歳児のチェックポイントとM-CHATの内容を理解する。				予習：配布資料を読み、自己学習をしておく。		1
				復習：授業を見直し、チェックポイントとM-CHATの内容を理解する。		
5 精神発達を評価する (2) M-CHATの活用と保護者への対応を考える。				予習：配布資料を読み、自己学習をしておく。		1
				復習：ASD児特有な常同行動の観察、保護者への対応を整理する。		
6 身体の清潔、沐浴、座浴 沐浴、座浴を実習する。 お尻の清潔保持を考える。				予習：配布資料を読み、実習の準備を整えておく。		1
				復習：実習での気づき、工夫、反省点を整理して見直す。		
7 電法・温電法、冷電法の実際、オブラートの使い方 水枕、氷嚢、湯たんぽの作り方、当て方等を実習する				予習：配布資料を読み、実習の内容を理解し、準備を整えておく。		1
				復習：実習での気づき、工夫、反省点を理解して見直す。		
8 包帯法 三角巾の使い方 基本的な取扱い、腕、下肢の包帯法を実習する。				予習：配布資料を読み、実習の内容を理解しておく。		1
				復習：三角巾の基本的な取り扱いができるように反復練習をする。		
9 乳幼児の養護 抱き方、おんぶの仕方 衣服の着脱、排泄の世話				予習：配布資料を読み、実習の内容を理解しておく。		1
				復習：実習での気づき、工夫、反省点を整理して見直す。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 乳幼児の歯の健康 乳幼児のむし歯の現状 歯のケアの実際	予習：配布資料を読み、実習の内容を理解しておく。	1
	復習：実習での気づき、工夫、反省点を整理し見直す。	
11 感染防止（1） 予防接種計画を立案する。 グループで検討、計画案を提出する。	予習：配布資料を読み、理解を深めておく。	1
	復習：計画案の内容に誤りがないか、見直しておく。	
12 感染防止（2） 計画の見直し、実施記録から指導内容を考える。 保護者、子どもへの手洗い指導を考える。	予習：配布資料を読み、指導内容を考えてみる。	1
	復習：計画の見直し、手洗い指導の内容を整理しておく。	
13 日常的な事故、災害、危機管理（1） ヒヤリハットから事故防止、SIDS、窒息、アレルギー誤食を考える。	予習：配布資料からヒヤリハットの体験内容を理解しておく。	1
	復習：グループ討議をした事故防止の内容を整理しておく。	
14 日常的な事故、災害、危機管理（2） どんな初期行動をとらせるか、避難訓練に役立つ遊び等を考える。	予習：配布資料を読み、理解を深めておく。	1
	復習：グループ討議をした初期行動や遊びの内容について整理しておく。	
15 日常的な事故、災害、危機管理（3） 施設の安全管理を考える。	予習：配布資料を読み、理解を深めておく。	1
	復習：グループ討議をした施設の安全管理の内容を整理しておく。	
〔学習上の留意点・準備等〕 授業では、グループ討議がスムーズに展開するように、課題の事前学習の実施や当日の話し合いなど、協力的な態度を希望する。また、授業の内容は1回限りであるため、欠席は『気付きができない。』『体験ができない。』ことになるので、遅刻、欠席のないように心がけてください。配布資料を活用すること。		
〔成績評価方法と評価基準〕 理論に基づいたグループ討議や実習を通して、認識や技術を深めるものであることを考慮し、定期試験で評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 提出物は添削をして返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE20	2 年次 前 期	演 習	1	久保田真規子	・『知のゆりかご 子どもの姿からはじめる領域環境』
科目名	保育内容総論Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (5) (6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 幼稚園教育要領、保育所保育指針を踏まえ、園生活全体を視野に入れ、保育のねらい・保育内容の基本的理解と実践の統合を目指す。受講生が実習計画を立案・実践、反省・考察を繰り返すことを通し、教材研究や技術の取得、記録の方法を学ぶ内容である。子どもの発達と「養護と教育」を踏まえた保育を観る視点を育み、環境構成・保育実践に磨きをかけることを目標とする。元幼稚園園長・子育て支援施設職員の経験を有する教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・幼稚園教育要領、保育所保育指針を理解し園生活を通し総合的に子どもをとらえる視点を身につける。 ・乳幼児の実態に則した保育内容の・計画・留意点をつかむ。 ・保育者の役割や環境構成の課題をPDCAサイクルで考察する。 ・具体的保育事例から五領域のねらい及び内容とのつながりを理解し「遊び」を通し、協働を学ぶ。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション				予習：シラバスを読む。		1
				復習：実習日誌・指導案を整理する。		
2 園生活を通し総合的に子どもをとらえる				予習：教科書を読む。		1
				復習：実習日誌・指導案から事例を取り出す。		
3 子どもの遊びを捉える視点〈視聴覚教材〉				予習：教科書を読む。		1
				復習：ノートをまとめる。		
4 幼児教育の環境構成と実践				予習：サブテキストを読む		1
				復習：ノートをまとめる。		
5 保育環境の人的・物的環境の関わりと分析				予習：テキストを読む		1
				復習：ノートをまとめる。		
6 遊びと五領域のねらいと内容のつながり				予習：テキストを読む		1
				復習：ノートをまとめる。		
7 活動を分析し子どもの姿をとらえる				予習：自身の活動をまとめる。		1
				復習：ノートをまとめる。		
8 支援を必要とする子ども(個と集団)				予習：テキストを読む		1
				復習：ノートをまとめる。		
9 あそびで育つ人間関係① (多様な保育活動から)				予習：様々な遊びを調べる		1
				復習：ノートをまとめる。		
10 あそびで育つ人間関係② (主体的なあそび)				予習：グループで話し合う		1
				復習：ノートをまとめる。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 あそびと五領域の関係 (協同的なあそび)	予習：テキストを読む	1
	復習：ノートをまとめる。	
12 保育内容を深める遊び・児童文化財の理解	予習：テキストを読む	1
	復習：ノートをまとめる。	
13 保育内容を深める遊び・児童文化財の作成	予習：児童文化財を調べる。	1
	復習：児童文化財を作成する。	
14 五領域の理解と指導計画案の作成	予習：児童文化財を作成する。	1
	復習：指導案を作成する。	
15 模擬保育の振り返りと実践の考察	予習：模擬保育で実践する。	1
	復習：実践を考察する。	

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE21	2 年次 前 期	演 習	2	鷲尾智恵子	テキスト利用無し 必要時「プリント配布」
科目名	乳児保育Ⅲ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (8) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 地域社会の中での乳児保育支援の連携がどのように行われているのか、具体的な事例を挙げながら対応の実際を理解する機会とする。 支援の連携と必要性を学ぶことで保育者の役割の重要性に気づき、支援につながる思考・行動を取ることが出来ることを学べる授業としていく。 助産師としての実務経験を有する教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 (1) 地域社会での支援の連携と必要性を理解する。 (2) 多様な保育施設の保育者として、自身の置かれた施設での支援の役割と重要性に気づく。 (3) 支援につながる思考を身に着けることが出来る。 (4) 支援の具体的な計画を立てることが出来、行動できる力が身につく。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 妊産婦の支援・病院 (医師・助産師・看護師・栄養士)				予習：妊娠出産に関心を持ち情報を収集する。		1
				復習：授業内容を整理する。		
2 妊産婦の支援・行政 (保健師・助産師・栄養士・歯科衛生士・児童福祉課)				予習：妊婦産婦の支援に関心を持ち情報を収集する。		1
				復習：授業内容を整理する。		
3 新生児から2カ月児の特徴 乳児の発達				予習：新生児の特徴について理解しておく		1
				復習：授業内容を整理する。		
4 産後うつ・育児相談の多様性①				予習：産後の心の変化について関心を持ち情報を得ておく。		1
				復習：授業内容を整理する。		
5 育児相談事業・育児相談の多様性②				予習：育児の悩みの多様性に関心を持ち内容を調べる。		1
				復習：授業内容を整理する。		
6 育児は育自・育児相談の多様性③				予習：育児の悩みの多様性に関心を持ち内容を調べる。		1
				復習：授業内容を整理する。		
7 ベビーマッサージ他				予習：親子のふれ合いに関心を持つ		1
				復習：授業内容を整理する。		
8 育児支援の輪 子育て支援センター・学習館・児童館、コミュニティー 女のスペース新潟長岡・子育て応援グループ他				予習：子育て支援の施設・団体についての情報を得ておく。		1
				復習：授業内容を整理する。		
9 育児相談の基礎 (自分の思考の傾向を知る)				予習：心理学の関連資料等目を通しておく。		1
				復習：授業内容を整理する。		
10 育児相談の基礎 (オムツはずし、睡眠リズム)				予習：乳児の発育発達関連資料に目を通しておく。		1
				復習：授業内容を整理する。		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 育児相談の基礎 （0才～のほめ方しかり方）	予習：乳児の発育発達の関連資料等に目を通しておく。	1
	復習：授業内容を整理する。	
12 育児相談の基礎 （イヤイヤ期とは）	予習：乳児の発育発達の関連資料等に目を通しておく。	1
	復習：授業内容を整理し振り返りをしておく。	
13 育児相談の基礎 （乳幼児期からの性教育）	予習：乳児の発育発達の関連資料等に目を通しておく。	1
	復習：授業内容を整理し振り返りをしておく。	
14 育児相談の基礎 （きょうだい関係について）	予習：乳児の発育発達の関連資料等に目を通しておく。	1
	復習：授業内容を整理し振り返りをしておく。	
15 まとめ 子育ての基本は乳児期	予習：授業内容を整理しておく。	1
	復習：支援の在り方・方向について自分なりの考えをまとめておく。	
〔学習上の留意点・準備等〕 社会の子育ての問題に関心を持つ。 心理・コミュニケーション論の振り返りをしておく。		
〔成績評価方法と評価基準〕 課題内容（80％） 授業姿勢（20％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 課題等について添削後返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE22	1 年次 後期・集中 2 年次 前 期	演 習	3	斎藤竜夫・村木 薫 若井由梨・吉田裕子	資料を配布・DVD等使用
科目名	表現活動指導法		担当形態 複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (6) (9) (10) (11)						
〔授業の概要〕 本授業はミュージカルの制作を課題としている。脚本作りからロールプレイングを通じた役柄作り、また舞台全体を制作し発表する中で、さまざまな表現技法の習熟を図り、保育者としての実践的指導力を高めることを目的に行う学生主体のアクティブラーニング型の授業である。指導形態は5名の教員が、一斉授業とグループワークを併用して展開する。制作した作品は地域社会に発表し、評価を仰ぐことにしている。						
〔授業科目の到達目標〕 ・ミュージカルの役柄に応じた表現力を身につける。 ・保育者に必要な表現力とその指導法を身につける。 ・ミュージカル練習や舞台作り・発表にかかわる様々な係活動を通じて自主性、責任感、協調性、コミュニケーション能力、問題解決能力等を身につける。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション ミュージカル台本配付 係活動の説明及び希望調査書配付			台本の読み込み		1
2	オーディション 内容の発表 オーディション 歌の練習			歌の練習 DVDの視聴		1
3	オーディション歌・ダンスの練習			各自でダンスの練習		1
4	オーディション キャスト希望用紙配付・提出締切日提示 オーディション個別練習			オーディション課題練習		1
5	係の決定 リーダー選出 係ごとに活動内容の確認			オーディション課題練習		1
6	オーディションのタイムスケジュール発表 オーディション個別練習			オーディション課題練習		1
7	オーディション 結果発表日提示			オーディション課題練習		1
8	台本の読み合わせ			台本の読み込み		1
9	子どもワールドのプログラム編成 舞台の構成、登場・退場方向の確認			歌、セリフ、ダンス練習		1
10	クラス別子どもワールド発表・鑑賞			歌、セリフ、ダンス練習		1
11	全体舞台通し練習			歌、セリフ、ダンス練習		1
12	キャスト別練習① ダンスの振り付けモチーフの創作 歌唱練習			歌、セリフ、ダンス練習		1
13	キャスト別練習② 各自振り付けモチーフ発表 振り付けの全体創作 歌唱練習			歌、セリフ、ダンス練習		1
14	キャスト別練習③ ダンスの振り付け練習歌唱練習			歌、セリフ、ダンス練習		1
15	キャスト別練習④ ダンスの隊形習 歌唱練習			歌、セリフ、ダンス練習		1
16	キャスト別練習成果の発表及び課題提示			歌、セリフ、ダンス練習		1
17	係別活動			係別活動内容の把握		1
18	2月集中授業 シーン別練習Ⅰ S 1 ～ S ()			グループ又は個人練習		1
19	2月集中授業 シーン別練習Ⅰ S () ～ S ()			グループ又は個人練習		1
20	2月集中授業 シーン別練習Ⅰ S () ～ S ()			グループ又は個人練習		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
21 2月集中授業 シーン別練習Ⅰ S()～S()	グループ又は個人練習	1
22 春季集中授業1日目 シーン別練習Ⅱ S1～S()	グループ又は個人練習	1
23 春季集中授業1日目 シーン別練習Ⅱ S()～S()	グループ又は個人練習	1
24 春季集中授業1日目 シーン別練習Ⅱ S()～S()	グループ又は個人練習	1
25 春季集中授業1日目 シーン別練習Ⅱ S()～S()	グループ又は個人練習	1
26 春季集中授業2日目 通し止め練習(前半)	グループ又は個人練習	1
27 春季集中授業2日目 通し止め練習(後半)	グループ又は個人練習	1
28 春季集中授業2日目 シーン別練習Ⅲ S1～S()	グループ又は個人練習	1
29 春季集中授業2日目 シーン別練習Ⅲ S()～S()	グループ又は個人練習	1
30 春季集中授業3日目 シーン別練習Ⅲ S()～S()	グループ又は個人練習	1
31 春季集中授業3日目 シーン別練習Ⅲ S()～S()	グループ又は個人練習	1
32 春季集中授業3日目 通し止め練習(前半)	グループ又は個人練習	1
33 春季集中授業3日目 通し止め練習(後半)	グループ又は個人練習	1
34 春季集中授業4日目 駄目だし練習(前半)	グループ又は個人練習	1
35 春季集中授業4日目 駄目だし練習(後半)	グループ又は個人練習	1
36 春季集中授業4日目 衣装を着て全体通し練習	グループ又は個人練習	1
37 春季集中授業4日目 衣装を着て全体通し練習及び照明・音響等の舞台上の確認	グループ又は個人練習	1
38 衣装を着てシーン別練習Ⅳ S1～S()	グループ又は個人練習	1
39 衣装を着てシーン別練習Ⅳ S()～S()	グループ又は個人練習	1
40 衣装を着てシーン別練習Ⅳ S()～S()	グループ又は個人練習	1
41 衣装を着てシーン別練習Ⅳ S()～S()	グループ又は個人練習	1
42 学内全体通し練習	グループ又は個人練習	1
43 会館リハーサル	グループ又は個人練習	1
44 ミュージカルの発表	レポートの記入	1
45 レポート提出及び係別記録ノートのまとめ	係別活動記録の整理	1
〔学習上の留意点・準備等〕 練習はアップホールだけでなく様々な教室で行われる。練習計画表等の配布物は保管し、時間帯や練習内容に留意して行動すること。各自、各グループの主体的活動が重視される。		
〔成績評価方法と評価基準〕 レポート(30%)、発表および授業への参加態度・姿勢(練習・係活動)(70%)を総合的に評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 練習課題や練習内容が決まった後は発表まで各自・各グループの話し合いや練習を常に継続すること。また、係活動においても話し合いや主体的取り組みを計画的に行うことが常に要求される。練習内容について常時アドバイス等を行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)	
科目コード	2DE23	2 年次 通 年	演 習	2	斎藤竜夫他	歌唱教材伴奏法 幼児のための音楽教育 教育芸術社	
科目名	ピアノ表現Ⅱ		担当形態				
			複 数				
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (2) (6) (9)							
〔授業の概要〕 子どもと音楽表現活動を楽しむために必要なピアノ演奏技法を習得する。ピアノの個人レッスンに加え、グループ授業で弾き歌いのためのコード奏法、コード理解のための音楽理論も同時に学ぶ。 Ⅰ 個人レッスン（弾き歌い） 1 対 1 の個人レッスンによってピアノの演奏技術の体得並びに向上を目指す。学生は担当教員と相談した上、進度に合わせてバイエル・ツエルニー・ソナチネ・インヴェンション等を教材として学ぶ。 Ⅱ グループワーク（音楽理論） 基本的な音楽理論（楽典）の学習と、それを踏まえてコード理論を学習する。 上記Ⅰ・Ⅱの内容を総合した弾き歌いの実践として、実際の保育現場において需要の高い曲を実習する。1 コマ 90 分を前半と後半に分けて授業を行う。A 組は前半個人レッスン・後半は 2 組に分かれてグループワークを行う。B 組は前半グループワーク、後半に個人レッスンを行う。							
〔授業科目の到達目標〕 ・ピアノ演奏技法を習得する ・子どもの歌の弾き歌いができる ・コード奏法を習得する							
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕							
授 業 内 容					事前事後学修の内容		所要時間
1	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の各和音（歌唱教材伴奏法p100～101）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
2	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ハ長調の曲の編曲（1）概説				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
3	進度に合わせた個人レッスン グループワーク 編曲の実際（1）（歌唱教材伴奏法p114）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
4	進度に合わせた個人レッスン グループワーク 編曲の実際（2）（同上p115）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
5	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調音階の理解				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
6	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏（1） （歌唱教材伴奏法p26～27）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
7	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏（2） （同上p28～29）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
8	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のⅠ・Ⅴ・Ⅴ7による伴奏（3） （同上p30～31）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
9	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調の主要3和音				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
10	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調の固有和音				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
11	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のうた（歌唱教材伴奏法を用いて）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1
12	進度に合わせた個人レッスン グループワーク ト長調のうた （幼児のための音楽教育を用いて）				課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
13 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
14 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅶによる伴奏 (1) (歌唱教材伴奏法p32～33)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
15 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅶによる伴奏 (2) (同上p34～35)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
16 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調のⅠ・Ⅴ・Ⅶによる伴奏 (3) (同上p36～37)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
17 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調の主要3和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
18 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調の固有和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
19 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調のうた (歌唱教材伴奏法を用いて)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
20 進度に合わせた個人レッスン グループワーク へ長調のうた (幼児のための音楽教育を用いて)	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
21 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ニ長調音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
22 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ニ長調の主要3和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
23 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ニ長調の固有和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
24 進度に合わせた個人レッスン グループワーク その他の長音階	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
25 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 短音階の理解	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
26 進度に合わせた個人レッスン グループワーク イ短調の音階と主要3和音	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
27 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 愛唱歌の伴奏	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
28 進度に合わせた個人レッスン グループワーク 編曲法の実践	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
29 進度に合わせた個人レッスン グループワーク ピアノを用いた効果音について	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
30 進度に合わせた個人レッスン グループワーク まとめ	課題曲を演奏し技能を高める テキスト・配布資料を読み理解を深める	1
〔学習上の留意点・準備等〕 ピアノの個人練習は毎日行うこと。また音楽理論の理解は子どもと音楽表現活動を行ううえで必須である。		
〔成績評価方法と評価基準〕 音楽理論試験25% 課題曲の合格曲数と進捗75%		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 個人レッスンでは毎回課題を与え、それにコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE24	2 年次 後 期	演 習	1	村 木 薫	随時プリント資料を配布
科目名	造形表現Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (5) (6) (10) (11)						
〔授業の概要〕 造形表現Ⅰを継承し、さらに子どもたちの豊かな思いを具現化や形にする資質・能力を高める。そのために造形遊びとして展開するための素材や教材の開発を行い、生活の周りにあるさまざまな素材感や教材感を豊かにする。この授業では、特に紙素材や自然素材、その他さまざまな素材に挑戦し、自分の造形表現領域を拡げることが目的とし、保育者としての造形活動を豊かなものとする。						
〔授業科目の到達目標〕 紙や自然素材を使った造形活動を通じて様々な技法の理解を深める。 紙や自然素材を使った造形活動を通して子どもの表現の理解を深める。 紙や自然素材を使った造形遊びを通して、保育の組み立てを深める。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 ガイダンス、乳幼児のさまざまな造形表現紹介				予習：シラバスを読み、授業の展開を把握		1
				復習：ガイダンス内容、資料の見直し		
2 紙素材による造形遊び（グループ分け）				予習：紙素材を集める		1
				復習：グループ別にテーマを選定する		
3 新聞紙、チラシ、和紙、牛乳パックなどの素材別制作				予習：テーマを探す		1
				復習：他のグループ作品を鑑賞する		
4 造形遊びへの展開・制作・指導案作成（グループ別）				予習：紙素材の加工法を探る		1
				復習：他のグループ作品を鑑賞する		
5 造形遊びへの展開・制作・指導案作成（グループ別）				予習：紙素材の加工法を探る		1
				復習：他のグループ作品を鑑賞する		
6 造形遊びへの展開発表・講評会				予習：紙素材の加工法を探る		1
				復習：他のグループ作品を鑑賞する		
7 自然素材による造形遊び（グループ分け）				予習：自然素材を集める		1
				復習：他学生の作品を鑑賞する		
8 テーマ別制作（素材研究）				予習：自然素材を集める		1
				復習：他学生の作品を鑑賞する		
9 各グループに分かれたテーマ別制作指導案作成				予習：作品を見て、構想を練る		1
				復習：他学生の作品を鑑賞する		
10 各グループに分かれたテーマ別制作指導案作成				予習：作品を改良する		1
				復習：他学生の作品を鑑賞する		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 中間発表会・講評会	予習：作品を改良する	1
	復習：他のグループ作品を全員で鑑賞する	
12 各グループに分かれたテーマ別制作	予習：前作品を見て、構想を練る	1
	復習：他のグループ作品を鑑賞する	
13 各グループに分かれたテーマ別制作	予習：作品を見て、構想を練ったり、手直しを行う	1
	復習：他のグループ作品を鑑賞する	
14 各グループに分かれたテーマ別制作	予習：作品を見て、構想を練ったり、手直しを行う	1
	復習：他学生の作品を全員で鑑賞する	
15 学内に作品設置および講評会	予習：作品を見て、手直しを行う	1
	復習：他グループの作品を全員で鑑賞する	
課題例 A 植物、石などを使った立体表現 B 植物を使った絵画 C モビール制作 D 紙や自然素材で物語制作 E 和紙による造形 F 紙による家具制作 など		
〔学習上の留意点・準備等〕 随時プリントを配布するので理解を補足する。 課題提出にあたり提出締め切りは必ず守る。 自分の作品だけでなく他の学生の作品をよく見るようにし、お互いの意見交換を行う。		
〔成績評価方法と評価基準〕 制作課題（80％） レポート・指導案（20％）を併せて評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 ・毎回の授業後に作品の鑑賞会や簡単な講評会を行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DE25	2 年次 後 期	演 習	1	若井 由梨	授業中に適宜プリントを配布する
科目名	身体表現Ⅱ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (6) (9) (10) (11)						
〔授業の概要〕 本授業では、身体表現Ⅰにおいて培った表現技術を発展させ、仲間と協力し合いながらオペレッタ（劇遊び）制作に取り組み、限られた空間の中で体全身で音楽やイメージに合わせて踊ったり演じたりする総合表現を実践的に学ぶ。最終的には地域の子どもたちと一緒に楽しめる遊び場を企画し、運動あそび体験の提供やオペレッタ作品を披露したりし、これまでの学修を振り返りながら保育現場に活かされる知識や技能を習得する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・グループワークにおいて、率先して自らの役割を見つけ、協力して課題を解決できる。 ・オペレッタの活動を通して保育者としての援助の基礎を身につけている。 ・これまでの知識や実践経験を活かし、地域の幼児や親子と一緒に楽しめる運動遊びやリズム遊びを考案することができる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション				予習：シラバスを読み、授業の展開を把握		1
				復習：		
2 戸外遊び【秋】 外遊び				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
3 オペレッタ制作① グループ作りと題材の決定				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
4 オペレッタ制作② 台本作りとダンス・歌の場面決定				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
5 オペレッタ制作③ 言葉を使った表現				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
6 オペレッタ制作④／運動遊びの考案 声や身体を使った表現				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
7 オペレッタ制作⑤／運動遊びの考案 イメージを手がかりにした表現				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
8 オペレッタ制作⑥／運動遊びの考案 発表練習				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
9 オペレッタ制作⑦／運動遊びの考案 発表練習				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		
10 オペレッタ発表本番 地域の子どもたちといっしょに遊ぼう				予習：前時につたえられた内容を調べる		1
				復習：授業の振り返り（ノート記入）		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 親子ダンスの実践指導法	予習：前時につたえられた内容を調べてくる	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
12 素材を活用した運動遊び・リズム遊び 光を使って	予習：前時につたえられた内容を調べてくる	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
13 素材を活用した運動遊び・リズム遊び カラーフラッグを使って	予習：前時につたえられた内容を調べてくる	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
14 戸外遊び【冬】 雪遊び	予習：前時につたえられた内容を調べてくる	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
15 まとめ 学習内容の総括	予習：前時につたえられた内容を調べてくる	1
	復習：授業の振り返り（ノート記入）	
〔学習上の留意点・準備等〕 実技運動ができる運動着を着用（ジャージ・Tシャツ等）する。運動靴は特に必要ではない。 振り返りのワークシート記載のため、毎時筆記用具を持参する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 実技テスト：グループによるオペレッタ作品を発表することで実技面を評価する（50％） 参加意欲：授業中の態度および最終レポート課題（50％）で評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業時間の他、課題に対する個別指導を行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DE26	1 年次 後 期	実 習	1	若井 由梨	授業内容に応じて適宜配布
科目名	レクリエーション実習Ⅰ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (2) (3) (4) (6) (10) (11) (13)						
〔授業の概要〕 レクリエーション支援は健康づくりや高齢者・障がい者福祉、子育て支援、保育、教育、地域づくり、環境教育など、幅広い領域で行われている。本授業は遊びの援助（レクリエーション支援）を行う上で必要となるコミュニケーション技法や集団を対象としたレクリエーション活動の展開法を身につけることにより保育者としての援助力を身につけることを目的とし、実践的に学ぶ。						
〔授業科目の到達目標〕 ・集団をリードし、一体感を生み出し、楽しい時間を演出するための基礎的技能が身についている。 ・1対1、1体集団等の場面で、コミュニケーションを促進するための基礎的技能が身についている。 ・対象や支援の目的に合わせたプログラムを展開するための基礎的技能が身についている。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション／レクリエーションとは			予習：シラバスをよく読んでおくこと		1
				復習：授業の進め方について理解しておくこと		
2	様々なアクティビティの体験① ーアイスブレイクの技法ー			予習：授業内容に関するテキスト部分を読み、内容理解する		1
				復習：授業で取り上げたレクの目的・手法についてまとめておく		
3	様々なアクティビティの体験② ー円形コミュニケーションー			予習：授業内容に関するテキスト部分を読み、内容理解する		1
				復習：授業で取り上げたレクの目的・手法についてまとめておく		
4	様々なアクティビティの体験③ ーリズム遊び・からだ遊びー			予習：授業内容に関するテキスト部分を読み、内容理解する		1
				復習：授業で取り上げたレクの目的・手法についてまとめておく		
5	外部レク活動への参加（準備）			予習：レクリエーションにおける様々な目的について調べておく		1
				復習：授業で取り上げた実施内容についてまとめておく		
6	外部レク活動への参加 （チャレンジ・ザ・ゲーム）			予習：		1
				復習：参加したレク実施内容について記録しておく		
7	外部レク活動への参加 （廃材を使った遊び）			予習：		1
				復習：参加したレク実施内容について記録しておく		
8	外部レク活動への参加 （リズム運動）			予習：		1
				復習：参加したレク実施内容について記録しておく		
9	外部レク活動への参加 （講演会）			予習：		1
				復習：参加したレク実施内容について記録しておく		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 様々なアクティビティの体験④ ーインディアカー	予習：	1
	復習：授業で取り上げたレクの目的・手法について まとめておく	
11 様々なアクティビティの体験⑤ ーバンブーダンスー	予習：	1
	復習：授業で取り上げたレクの目的・手法について まとめておく	
12 様々なアクティビティの体験⑥ ー戸外遊びレクー	予習：	1
	復習：授業で取り上げたレクの目的・手法について まとめておく	
13 指導演習 レッツ！レクリーダー（第1グループ）	予習：	1
	復習：授業で提案されたレクについてまとめておく	
14 指導演習 レッツ！レクリーダー（第2グループ）	予習：	1
	復習：授業で提案されたレクについてまとめておく	
15 指導演習 レッツ！レクリーダー（第3グループ） 受講者全員でフォークダンス	予習：	1
	復習：授業で提案されたレクについてまとめておく	
〔学習上の留意点・準備等〕 事前事後学習は必ず行うこと。配布資料は整理しておくこと。		
〔成績評価方法と評価基準〕 レポート（30％）、最終課題（50％）、授業の参加態度（20％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 各自の指導演習終了時に、具体的に支援についてコメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2EJ01	2 年次 前 期	実 習	2	田代 健一	『保育士養成課程 五訂 福祉施設 実習ハンドブック』喜多一憲他監修、 吉村美由紀他編、みらい
科目名	保育実習Ⅰ (施設)		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕 「保育実習Ⅰ(施設)」は、保育所以外の児童福祉施設だけではなく、知的障害者施設などでの実習も含まれている。 1 年次で修得した「社会福祉」、「社会的養護Ⅰ」、「子ども家庭福祉」、「社会的養護Ⅱ」等の福祉関連科目で 学んだ知識を、実習を通して深めることを目的とする。特に、この実習で初めて障害児・者に接する学生も少なく ない。実習を通して、施設・利用者の理解と専門職としての施設保育士の役割と理解を深める。						
〔実習の到達目標〕 児童福祉施設（保育所以外）について理解する。 利用者について理解する。 制度・政策について理解する。 自己課題を明確にする。 施設の今後の課題と展望について理解する。 他の社会資源・専門職との連携・協働について理解する。 地域に対する施設の役割について理解する。						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 施設の役割と機能 (1) 施設における子ども（利用者）の生活と 保育士の援助や関わり (2) 施設の役割と機能				1 実習中に気付きや疑問については、なるべくそ の場で職員に聞いて解決するように努める。 2 実習日誌には、日課に沿って作業内容を記入す るだけではなく、職員の利用者に対する支援の 様子や変化、利用者とのやりとり、支援に対す る考察や疑問、利用者との関わりを通しての感 想等を記載できるようにする。		
2 子ども（利用者）理解 (1) 子ども（利用者）の観察とその記録 (2) 個々の状況に応じた援助や関わり						
3 施設における子ども（利用者）の生活と環境 (1) 計画に基づく活動や援助 (2) 子ども（利用者）の心身の状態に応じた 生活と対応 (3) 子ども（利用者）の活動と環境 (4) 健康管理、安全対策の理解						
4 計画と記録 (1) 支援計画の理解と活用 (2) 記録に基づく省察・自己評価						
5 専門職としての保育士の役割と倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理						

〔学習上の留意点・準備等〕 児童福祉施設等及び障害児・者通所施設等における10日以上の実習により行う。
〔成績評価方法と評価基準〕 実習施設での評価(60%)と、巡回指導教員からの報告、実習日誌の記録内容、各種提出物等の評価(40%)を総合して評価する。
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1EJ02	1 年次 後 期	実 習	2	永井裕紀子	配布資料
科目名	保育実習Ⅰ (保育所)		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕 1 月下旬から 2 月上旬にかけて行われる 1 2 日間の保育所実習である。実習形態は参加実習である。保育所保育の実際に触れ、乳幼児の発達と保育士の職務内容を体験的に学ぶとともに保育所の役割や機能を具体的に理解する。						
〔実習の到達目標〕 ・ 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 ・ 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ・ 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ・ 保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。 ・ 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育所の役割と機能 (1) 保育所における子どもの生活と保育士の援助や関わり (2) 保育所保育指針に基づく保育の展開				・ 実習日誌をまとめながら 1 日の保育を振り返り、気づきや疑問を明確にすること。また、翌日の実習の目標を明確にすること。 ・ 実習中の疑問については、その日のうちに担当職員に質問し、疑問を解決できるようにすること。		
2 子どもの理解 (1) 子どもの観察とその記録による理解 (2) 子ども発達過程の理解 (3) 子どもへの援助や関わり						
3 保育内容・保育環境 (1) 保育の計画に基づく保育内容 (2) 子どもの発達過程に応じた保育内容 (3) 子どもの生活や遊びと保育環境 (4) 子どもの健康と安全						
4 保育の計画・観察・記録 (1) 全体的な計画と指導計画及び評価の理解 (2) 記録に基づく省察・自己評価						
5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 保育士の業務内容 (2) 職員間の役割分担や連携 (3) 保育士の役割と職業倫理						

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1EE04	2 年次 前 期	演 習	1	田代 健一	『保育士養成課程 五訂 福祉施設 実習ハンドブック』 喜多一憲 他監修 吉村美由紀 他編 みらい
科目名	保育実習指導Ⅰ (施設)		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 保育実習Ⅰ（施設）は必修科目であり、保育所以外の施設の実習である。これまで学んだ「社会福祉」「社会的養護Ⅰ」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅱ」等の福祉関連科目で学んだ知識を実習を通して体験的に理解し深めることを目的とする。実習で初めて障害児・者に接する学生が多いが、事前、事後指導を通じ、個別的理解とその対応の重要性を理解すると共に、保育士の施設での基本的な姿勢等を確認し認識する貴重な学習の機会である。保育所以外の児童福祉施設等で実務経験を有する教員が実践的な対応や関わりを指導する。						
〔授業科目の到達目標〕 1 保育所以外の児童福祉施設等の概要を理解する。 2 施設の利用者の状態や支援、対応について理解する。 3 利用者への個別的理解に基づく援助・支援のあり方を理解する。 4 施設の状況や課題、問題点、制度政策等について理解する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 概要説明、実習先伝達				予習：テキストの第1部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
2 施設実習の目的・意義				予習：テキストの第Ⅰ，2部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
3 施設実習の目的・心構え (実習施設の調査)				予習：テキストの第2部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
4 保育士の役割				予習：テキストの第1部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
5 児童福祉施設の理解1 (知的障害施設)				予習：テキストの第2部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
6 児童福祉施設の理解2 (児童養護施設)				予習：テキストの第3部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
7 児童福祉施設の理解3 (乳児院・肢体不自由児施設)				予習：テキストの第4，7部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
8 実習日誌の記録1 (知的障害施設関係)				予習：テキストの第3部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
9 実習日誌の記録2 (その他の施設関係)				予習：テキストの第3部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		
10 施設実習の目標設定				予習：テキストの第4部を読んでくこと		1
				復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 事後指導 1 実習報告、事後自己評価	予習：テキストの第 5 部を読んでもくこと	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
12 事後指導 2 グループ討議（同種施設）	予習：テキストの第 5 部を読んでもくこと	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
13 事後指導 3 グループ討議（異種施設）	予習：テキストの第 5 部を読んでもくこと	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
14 事後指導 4 グループ発表	予習：テキストの第 5 部を読んでもくこと	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
15 まとめ	予習：テキストの第 7 部を読んでもくこと	1
	復習：ふり返り「キーワード」の内容の整理記録	
〔学習上の留意点・準備等〕		
・実習先の施設の情報を収集し事前学習を行うこと。		
・意見交換を通じ多面的理解を図る。		
〔成績評価方法と評価基準〕		
・毎回の各授業の提出物を評価する。		
・提出物の評価（100％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕		
・実習については適宜必要に応じ個別指導を実施する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1EE04	1 年次 後 期	演 習	1	永井裕紀子 松延 毅	配布資料
科目名	保育実習指導Ⅰ (保育所)		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (6) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 事前指導では、保育所の保育に実習生として参加し子どもと関わるこの意味について考えながら実習の心得について学ぶ。また、子どもが示す様々な姿をどう捉え、保育者(実習生)として子どもとどう関わればよいのか。子どもを見る視点と保育者の援助について理解を深めつつ、それを記録に活かす力を養う。教材研究では、保育者役や子ども役になる体験を通して、子どもを主体とした遊びの展開について理解する。事後学習では実習の自己評価を行いながら自己課題を明確にし、次の実習への展望がもてるようにしたい。 保育士として保育所に勤務経験のある教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 実習の意義や心得について理解し、社会人としてのマナーを身に付ける。 子どもを見る視点について理解する。 保育記録の方法や内容を理解する。 実習を通して求められる保育者像について考える。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 授業の概要、実習の進め方、実習園の情報収集				保育所保育指針解説 第1章 1. 保育所保育に関する基本原則(1)～(3)を読む		1
2 保育所とは・実習時期の保育				保育所保育指針解説 第1章 1. 保育所保育に関する基本原則(4)・(5)を読む		1
3 教育実習Ⅰの振り返り、先輩の実習体験から学ぶ、実習の目標設定				保育所保育指針解説 第1章 2. 養護に関する基本的事項(1)・(2)を読む		1
4 実習日誌の確認				保育所保育指針解説 第1章 3. 保育の計画及び評価(1)・(2)を読む		1
5 実習日誌を書いてみる (VTR視聴)				保育所保育指針解説 第1章 3. 保育の計画及び評価(3)～(5)を読む		1
6 実習日誌を書いてみる				保育所保育指針解説 第1章 4. 幼児教育を行う施設として共有すべき事項を読む		1
7 教材研究と実践(絵本)				保育所保育指針解説 第2章 幼児保育に関わるねらい及び内容を読む		1
8 教材研究と実践の振り返り				保育所保育指針解説 第2章 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容を読む		1
9 子ども観と援助 登園				保育所保育指針解説 第2章 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容を読む		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 子ども観と援助 遊び	保育所保育指針解説 第2章 保育の実施に関して留意すべき事項を読む	1
11 子ども観と援助 食事	保育所保育指針解説 第3章 健康及び安全の1・2を読む	1
12 子ども観と援助 午睡	保育所保育指針解説 第3章 健康及び安全の3・4を読む	1
13 実習のオリエンテーション	実習園とのオリエンテーション結果を訪問担当教員に報告する	1
14 実習に関わる留意事項 (実習の心得・人権の考慮・守秘義務)	プリント「実習に関わる留意事項」を理解する	1
15 実習中の連絡方法、実習後の日誌提出、礼状	実習中の連絡方法、実習事後の取り組み内容を理解する	1
16 実習の振り返り・個別面談	保育者としての自分を振り返る	1
〔学習上の留意点・準備等〕 実習園によって実習の方法は異なる。各自が実習園の実習方針を理解し、分からないことがあれば教員に相談するなど“ほう・れん・そう”を大切にすること。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業への取り組み(20%)・提出物(80%)によって評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 個別または各授業の最後に行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2EJ05		実 習	2	永井裕紀子	配布資料
科目名	保育実習Ⅱ		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕 8月に行われる12日間の保育所実習である。実習形態は参加実習・責任実習(部分・一日)である。保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育の計画・実践・省察・評価について総合的、具体的に学ぶ。						
〔実習の到達目標〕 ・保育所の役割や機能について具体的な実践を通して理解を深める。 ・子どもの観察や関わりの視点を明確にすることを通して保育の理解を深める。 ・子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 ・保育の計画・実践・観察・記録及び自己評価等について実際的に取り組み、理解を深める。 ・保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 ・実習における自己の課題を明確化する。						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育所の役割と機能の具体的展開 (1) 養護と教育が一体とな行われる保育 (2) 保育所の社会的役割と責任				・実習日誌をまとめながら1日の保育を振り返り、気づきや疑問を明確にすること。また、翌日の実習の目標を明確にすること。 ・実習中の疑問については、その日のうちに担当職員に質問し、疑問を解決できるようにすること。		
2 観察に基づく保育の理解 (1) 子どもの心身の状態や活動の観察 (2) 保育士等の動きや実践の観察 (3) 保育所の生活の流れや展開の把握						
3 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 (1) 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 (2) 入所している子どもの保護者に対する子育て支援及び地域の保護者等に対する子育て支援						
4 指導計画の作成・実践・観察・記録・評価 (1) 全体的な計画に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程の理解 (2) 作成した指導計画に基づく保育実践と評価						
5 専門職としての保育士の役割と職業倫理 (1) 多様な保育の展開と保育士の業務 (2) 多様な保育の展開と保育士の職業倫理						

〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
実 習 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
6 自己課題の明確化		
〔学習上の留意点・準備等〕 ・実習園の保育方針を尊重し、園長及び担当職員の指示に従って行動すること。 ・守秘義務を守ること。 ・子どもの安全に留意して実習すること。 ・事前指導での指示や注意事項を厳守すること。 ・分からないことは園長及び担当職員に尋ねるなど”ほう・れん・そう”を大切にすること。 ・指導計画の作成については、担当職員とよく相談をすること。		
〔成績評価方法と評価基準〕 実習巡回指導教員からの報告(20%)、園から評価(80%)を総合して評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 実習終了後の事後指導(個別面談)にて行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2EE06		演 習	1	永井裕紀子 松延 毅	授業中に適宜資料を配布する
科目名	保育実習指導Ⅱ	2 年次 前 期	担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (6) (8) (11)						
〔授業の概要〕 保育実習Ⅰを踏まえ保育実習Ⅱの事前事後指導を行う。事前学習では子どもの発達や興味・関心、実習時期の保育の実態に応じた指導計画案の作成や教材について学習する。また、模擬保育実践を通じて、保育内容の具体的な指導法や保育を改善する視点等について総合的に学ぶ。事後学習では実習の自己評価を行い、保育者としての自分を省察し、課題を明確にする。保育士として保育所に勤務経験のある教員が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 他教科での学びを有機的に関連づけながら、実習時期の季節や子どもの発達に応じた指導計画案が作成できる。模擬保育実践と振り返りを通じて保育内容の指導法を総合的に学ぶと共に保育を改善する視点を身に付ける。保育実習Ⅱの総括と評価を行い、保育者としての自己の課題を考える。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育実習Ⅰの振り返り・保育実習Ⅱ及び保育実習指導Ⅱの概要・保育実習Ⅱの目標設定				実習園の情報を得る。		1
2 実習時期の保育の様子・模擬保育実践日の調整				保育所における子どもの生活や子どもの育ちの様子について復習する。		1
3 指導計画案の考え方と作成方法				子どもの興味・関心、発達にあった遊びを調べる。		1
4 子どもの発達や興味・関心に沿った遊びの検討(教材研究・指導計画案の作成)				教材研究をする。		1
5 1日責任実習の指導計画案の作成方法・実習日誌の扱いについて				模擬保育の指導計画案を完成させる。		1
6 模擬保育の準備・指導計画案の修正(個別指導)				模擬保育の指導計画案を再考し完成させる。		1
7 指導計画案に基づく模擬保育①				子ども又は保育者として模擬保育を振り返る。		1
8 指導計画案に基づく模擬保育②				子ども又は保育者として模擬保育を振り返る。		1
9 模擬保育の振り返り(前半)				子ども又は保育者として模擬保育を振り返る。		1
10 指導計画案に基づく模擬保育③				子ども又は保育者として模擬保育を振り返る。		1

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 指導計画案に基づく模擬保育④	子ども又は保育者として模擬保育を振り返る。	1
12 実習園とのオリエンテーションについて	実習園訪問担当教員にオリエンテーションの結果を報告する。	1
13 指導計画案に基づく模擬保育⑤	子ども又は保育者として模擬保育を振り返る。	1
14 模擬保育の振り返り(後半)・実習の心得・諸連絡等	配付プリント「実習の心得」について理解する。	1
15 保育実習Ⅱの総括(個別面談)	保育者としての自分を評価する。	1
〔学習上の留意点・準備等〕 指導計画案の作成、模擬保育の実践については、早めに教員に相談をし点検を受けること。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業態度・提出物・模擬保育実践等から総合的に評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 個別または各授業の最後に行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2EJ07	2 年次 前 期	実 習	2	福原 英起	『保育士養成課程 五訂 福祉施設 実習ハンドブック』喜多一憲他監修、 吉村美由紀他編、 みらい
科目名	保育実習Ⅲ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (4) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕 この実習は、保育実習Ⅰ（施設）で認められている施設だけではなく、児童館での実習も認められている実習となる。学生は、自分の関心のある施設を選択するため、利用者は施設によって大きく異なる。そのため、施設理解、利用者理解、制度的理解等を基軸としながら、施設保育士としての役割についての理解を深める。						
〔実習の到達目標〕 児童福祉施設（保育所以外）について理解する。 児童館の役割・機能について理解する。 制度・政策について理解する。 施設保育士の役割・職務内容について理解する。 各専門職との連携について理解する。						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能				1 実習中に気づきや疑問については、なるべくその場で職員に聞いて解決するように努める。 2 実習日誌には、日課に沿って作業内容を記入するだけではなく、職員の利用者に対する支援の様子や変化、利用者との遣り取り、支援に対する考察や疑問、利用者との関わりを通しての感想等を記載できるようにする。		
2 施設における支援の実際 (1) 受容し、共感する態度 (2) 個人差や生活環境に伴う子ども（利用者）のニーズの把握と子ども理解 (3) 個別支援計画の作成と実践 (4) 子ども（利用者）の家族への支援と対応 (5) 各施設における多様な専門職との連携・協働 (6) 地域社会との連携・協働						
3 保育士の多様な業務と職業倫理						
4 保育士としての自己課題の明確化						

〔学習上の留意点・準備等〕 実習先の施設に関する情報・資料を収集し、事前学習を行う。 講義の前後には必ずテキストを読み、問題点や疑問点を明確にする。 新聞に目を通し、講義と関係のある記事を読み、出来ればスクラップして感想を書いてみる。
〔成績評価方法と評価基準〕 実習施設での評価(60%)と、巡回指導教員からの報告、実習日誌の記録内容、各種提出物等の評価(40%)を総合して評価する。
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2EE08		実 習	1	福原 英起	『保育士養成課程 五訂 福祉施設 実習ハンドブック』喜多一憲他監修、 吉村美由紀他編 みらい
科目名	保育実習指導Ⅲ		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (8) (10) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕 「保育実習Ⅲ」は、保育実習Ⅰ(施設)では対象外であった児童館での実習も可能となっている。授業では、生活・利用の場となっている各施設や職員の理解と役割、他職種や関係機関、社会資源との連携・協働等のあり方について学ぶ。さらに、利用者の基本的権利を養護・代弁する意義、子どもの権利条約や児童福祉法を始めとする関連所法令の整備が進行する中で、専門職の人権感覚・意義、職業倫理についての理解を深める。						
〔実習の到達目標〕 保育実習Ⅲの実習の意義や目的等の基本的な理解から、実際の利用者である子どもや大人の理解、保育士の役割と職務内容の理解、各専門職との連携についての理解、子ども観、児童養護観、施設観の理解と体得等につなげていく。これにより、学生自身の保育士像を、より確実なものにしていくことを目的とする。						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 福祉施設における実習とは				指定テキスト第1章を読んで理解する。		1
2 福祉施設での実習に向けた準備 (各施設の機能)				指定テキスト第2章を読んで理解する。		1
3 福祉施設での実習に向けた準備 (各施設の種別と目的)				指定テキスト第2章を読んで理解する。		1
4 福祉施設での実習に向けた準備 (利用児・者の理解)				指定テキスト第3章を読んで理解する。		1
5 福祉施設での実習に向けた準備 (保育士の役割)				指定テキスト第3章を読んで理解する。		1
6 福祉施設の実習に向けた準備 (各施設の専門職とその役割)				指定テキスト第4章を読んで理解する。		1
7 福祉施設の実習に向けた準備 (実習目標・課題の設定)				指定テキスト第4章を読んで理解する。		1
8 福祉施設の実習に向けた準備 (実習施設の施設調べ)				指定テキスト第4章を読んで理解する。		1
9 関連福祉サービスと法制度の概要 (社会福祉法、障害者基本法)				配布資料を読んで理解する。		1

〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
実 習 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 関連福祉サービスと法制度の概要 (障害者総合支援法)	配布資料を読んで理解する。	1
11 関連福祉サービスと法制度の概要 (発達障害者基本法、介護保険法)	配布資料を読んで理解する。	1
12 関連福祉サービスと法制度の概要 (児童福祉法)	配布資料を読んで理解する。	1
13 保育士と権利擁護 (苦情解決処理、第三者評価)	配布資料を読んで理解する。	1
14 福祉施設と地域の繋がり (社会福祉協議会、NPO、民生・児童委員等)	配布資料を読んで理解する。	1
15 実習に向けての最終準備 (面接)	指定テキスト第6章、配布資料を読んで理解する。	1
〔学習上の留意点・準備等〕 指定されたテキスト、配布資料を読み、各自の実習施設に関する情報収集と内容の理解を図る。		
〔成績評価方法と評価基準〕 事前・事後指導時の提出物(50%)、レポート(50%)		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 レポートを添削して返却する。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2BE11	2 年次 後 期	講 義	2	小川 崇	テキストは指定しない。 適宜資料を配付する。
科目名	教育と社会		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕 近代において、教育、特に学校教育は社会になくてはならないものになってきた。社会における学校教育の機能や、また学校教育の課題を考えることで、社会における教育の持つ意味について考えていきたい。						
〔実習の到達目標〕 ・ 社会における学校教育の機能について理解する。 ・ 学校教育が直面する諸課題について理解する。 ・ 現在学校教育がおかれている状況を、社会状況や教育政策との関わりで理解する。						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 教育の社会的機能				授業内容をふりかえり理解を深める		4
2 学校教育の機能とその変遷				授業内容をふりかえり理解を深める		4
3 学校教育の社会的必要性				授業内容をふりかえり理解を深める		4
4 学校を選ぶ① オルタナティブスクール				授業内容をふりかえり理解を深める		4
5 学校を選ぶ② フリースクール				授業内容をふりかえり理解を深める		4
6 学校を選ぶ③ 学校選択制				授業内容をふりかえり理解を深める		4
7 教育はサービス業か① 他の職業との関わりで考える				授業内容をふりかえり理解を深める		4
8 教育はサービス業か② 新自由主義との関わりで考える				授業内容をふりかえり理解を深める		4
9 日本における教育政策の動向① 教育基本法改正等				授業内容をふりかえり理解を深める		4

〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
実 習 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 日本における教育政策の動向② 教員免許更新制等	授業内容をふりかえり理解を深める	4
11 世界の教育動向① PISA	授業内容をふりかえり理解を深める	4
12 世界の教育動向② 諸外国の動向	授業内容をふりかえり理解を深める	4
13 学校と地域の連携・協働	授業内容をふりかえり理解を深める	4
14 学校における安全を考える	授業内容をふりかえり理解を深める	4
15 まとめとふりかえり	授業内容をふりかえり理解を深める	4
〔学習上の留意点・準備等〕 講義時に適宜参考文献を紹介する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 講義時の小レポート(10%)、中間レポート(40%)、期末レポート(50%)		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 講義時に提出する小レポートを、次回の授業でいくつか取り上げて紹介し、コメントする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1EJ09	1 年次 前 期	実 習	2	小川 崇 新保 憲子	特に指定しない。随時資料を配付する。
科目名	教育実習 I		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕						
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕						
教育実習 I では、幼稚園実習に際しての基本的な理解や心得、具体的な手続きや学習内容、注意事項や留意すべき事柄について事前学習で学ぶ。これを踏まえて、実習では幼稚園で展開される保育の実際に触れ、個々の子どもの姿や子ども集団における関係のあり方、また保育者の子どもへの直接的・間接的働きかけ（援助・環境構成）に関して、見学・観察・参加を通して、具体的に理解することが求められる。実習後には、振り返りと自己評価を行い、次の実習に向けて課題が持てるよう、事後学習の時間を設ける。幼稚園教諭・園長経験を有する教員が授業を担当する。						
〔実習の到達目標〕						
・実習生（社会人）としての常識やマナーを身につける ・実習生として積極的子どもや実習園の保育者と関わり、実際の保育について理解を深める ・実習での経験を振り返って、次の実習につながる課題をもつ						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 オリエンテーション				予習：		
				復習：授業内容を振り返り、実習の概要について理解する		
2 教育実習の意義と目標				予習：		
				復習：授業内容を振り返り、目的と意義を理解した上で実習に望めるようにする		
3 実習生（社会人）としての基本的な心構え 自己管理の重要性				予習：		
				復習：授業の内容を振り返り、普段から実践するようになる		
4 観察実習の概要				予習：		
				復習：授業の内容を振り返り、見学・観察・参加実習の意味を理解する		
5 観察のポイント				予習：		
				復習：授業の内容を整理し、実習時に活かせるようにする		
6 事前オリエンテーションの受け方				予習：		
				復習：オリエンテーション時に何を質問するか整理する		
7 実習中の基本的なマナーと実習の準備				予習：		
				復習：授業の内容を整理し、実習時に活かせるようにする		
8 実習日誌の作成と活用 観察日誌Ⅰの書き方				予習：		
				復習：授業の内容を振り返り、観察日誌Ⅰの書き方を練習する		
9 実習日誌の作成と活用 観察日誌Ⅱの書き方				予習：		
				復習：授業の内容を振り返り、観察日誌Ⅱの書き方を練習する		
10 実習日誌の作成と活用 その他の部分の書き方				予習：		
				復習：授業の内容を振り返り、事前に記入できる部分を記入する		

〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
実 習 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
11 事後学習 礼状の作成と記録の整理	予習：	
	復習：礼状を作成し、実習園へに向けて郵送する	
12 事後学習 記録の整理と自己評価	予習：	
	復習：自己評価を行った上で、自らの課題を認識する	
13 事後学習 個別面談 第1グループ	予習：	
	復習：個別面談を通して、自らの課題を認識する	
14 事後学習 個別面談 第2グループ	予習：	
	復習：個別面談を通して、自らの課題を認識する	
15 事後学習 実習後の課題の共有	予習：	
	復習：他の受講者の課題も共有した上で、自らの課題を認識する	
〔学習上の留意点・準備等〕 講義形式が多くなるが、そこで学ぶことを自らのものとするために様々な形式の学習を取り入れる。受講者の積極的な参加を求める。		
〔成績評価方法と評価基準〕 事前学習、事後学習、各種提出物(計10%)、実習日誌(40%)、実習園による評価票(50%)によって評価する。なお、提出物等の忘れや遅れは認められないので注意すること。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 授業時の提出物や授業時の発表等に対しては、授業中等に適宜フィードバックする。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2EJ10	2 年次 通 年	実 習	3	久保田真規子 小 川 崇	特に指定しない、随時資料配付
科目名	教育実習Ⅱ		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕						
(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔実習の概要〕						
1 年次の実習の課題を踏まえた上で、教育実習Ⅱで学ぶべきことは、自ら保育を計画し、実践することを通して、より深く幼稚園における保育を理解することである。そのためには子ども理解に基づいた子供への関わりを事前に予測し、指導計画案を作成することが求められ、実践後には予測と実際のズレを認識したうえで、次の保育への課題をえることが重要となる。そのために、授業内で実際に指導計画案を作成し、模擬保育を行うことによって、実践的に実習の準備を行いたいと考えている。幼稚園教諭・園長経験を有する教員・教員免許を有する者が授業を担当する。						
〔実習の到達目標〕						
1 年次の実習を踏まえた上で、実習生（社会人）らしく振る舞うことができる						
・自習中に子どもや保育者と関わることを通して保育に関する理解を深め、日々行われている保育を記録することができる						
・子どもたちの様子や季節を踏まえた上で、指導計画案を作成し、保育を実践した上で、自らの課題を見いだすことができる						
〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
実 習 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	オリエンテーション（全体） 教育実習Ⅱの意義と位置付け			予習：		
				復習：授業内容を振り返り、教育実習Ⅱの概要を理解する		
2	指導計画案について （2 グループに分けて実施）			予習：模擬保育の流れをつかむ		
				復習：教育実習の意義と指導計画案立案を理解する		
3	指導計画案の作成①（部分実習） （2 グループに分けて実施）			予習：模擬保育と保育計画案を理解する		
				復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する		
4	指導計画案の作成② （2 グループに分けて実施）			予習：模擬保育と保育計画案を理解する		
				復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する		
5	指導計画案の作成③ （2 グループに分けて実施）			予習：模擬保育と保育計画案を理解する		
				復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する		
6	指導計画案の作成④／模擬保育の進め方 （2 グループに分けて実施）			予習：模擬保育と保育計画案を理解する		
				復習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する		
7	模擬保育の実践 （2 グループに分けて実施）			予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する		
				復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す		
8	模擬保育の実践 （2 グループに分けて実施）			予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する		
				復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す		
9	模擬保育の実践 （2 グループに分けて実施）			予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する		
				復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す		

〔実習の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
実 習 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
10 模擬保育の実践 (2グループに分けて実施)	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
	復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
11 模擬保育の実践 (2グループに分けて実施)	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
	復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
12 模擬保育の実践 (2グループに分けて実施)	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
	復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
13 模擬保育の実践 (2グループに分けて実施)	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
	復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
14 模擬保育の実践 (2グループに分けて実施)	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
	復習：模擬実習の実践を振り返り、指導計画案を練り直す	
15 模擬保育の実践 (2グループに分けて実施)	予習：模擬実習に向けて指導計画案を作成する	
	復習：授業内容全体を振り返った上で、実習に臨めるようにする	
〔学習上の留意点・準備等〕 幼稚園実習における部分実習、責任実習の指導計画案の立案・教材研究を行う。授業内の指導や各自の実践を基に事前準備、振り返り、考察を行うこと。なお、提出物等の忘れ、遅れは認められないので注意すること。		
〔成績評価方法と評価基準〕 実習評価票、巡回教員による報告、実習日誌、提出物、学習態度によって総合的に行う。 ・模擬保育 (30%) ・実習評価 (70%)		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 作製した指導計画案や指導計画案に基づく実践については、授業中に随時フィードバックを行う。 ※授業課題の進み具合によりシラバスの内容の変更もありうる。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)	
科目コード	2DE27		2 年次 前 期	2	村木 薫 仲野 孝 永井裕紀子	随時プリントを配布	
科目名	幼児教育教材研究		演 習				
			担当形態				
			オムニバス				
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕							
(1) (2) (3) (5) (7) (9) (10) (11) (12) (13)							
〔授業の概要〕							
①野菜作りコース (村木)							
野菜を育てる経験や土・植物をテーマとした保育アイテム作りを通して自然界に親しみ、保育実践の幅を広げる。野菜栽培を記録したレポート作成や土・植物をテーマとした保育アイテムを並行して制作する。							
②コンピューター応用コース (仲野)							
保育・教育の現場では、コンピューターやデジタル機器が広く導入されている。とりわけ若い世代は、そうした機器の操作を期待されることが多い。そこで、本授業の中で、保育活動へのコンピューター応用を経験する。							
③紙を用いた遊びの実践コース (永井)							
紙を用いた製作を通して保育者に求められる感性や知識・技術を習得する。また、遊びの計画・実践を通して、保育者が一人一人の子どもを理解し適切な評価に基づいて保育を改善していくための考え方や方法について理解を深める。							
〔授業科目の到達目標〕							
・野菜の生育状況の把握や生育に必要な知識の習得							
・土や植物をテーマとした保育アイテムの知識と技能の習得							
・一年次に学習したパソコン技術を基礎として、保育現場での応用法を理解する。							
・クラスだより・紙芝居の作成をめざし、ワードの特殊な使用法を理解する。							
・紙素材に親しみ、加工の仕方や道具の使い方など保育者として必要な感性や知識・技術を習得する。							
・紙を用いた遊びの計画、実践を通して、子ども理解に基づいた評価や教育方法の在り方について理解する。							
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕							
授 業 内 容					事前事後学修の内容		所要時間
1・2	・土作り (畝作り・堆肥混入など) ・造形遊び作品制作 (担当：村木)			・土や肥料の知識をつける ・グループ分け		1	
3・4	・苗植え・種まきなど ・造形遊び作品制作 (担当：村木)			・栽培する野菜を調べる。 ・道具や材料を研究し、授業に必要なものを揃える		1	
5・6	・草取り・支柱たてなどの手入れ ・造形遊び作品制作 (担当：村木)			土、砂、粘土の違いを調べる		1	
7・8	・収穫・試食など (各自で記録をとり、レポート提出) ・造形遊び作品制作 (担当：村木)			栽培する野菜の水やりや管理		1	
9・10	光る泥団子制作 (制作過程と指導案作成) (担当：村木)			栽培する野菜の水やりや管理		1	
11・12	パソコンの基礎的な操作の確認と演習 (担当：仲野)			事後に習ったことを復習しておくこと		1	
13・14	WordとExcelの総合演習 (担当：仲野)			事後に習ったことを復習しておくこと		1	
15・16	おたよりの作成演習 (担当：仲野)			事前におたよりについて調べておくこと		1	

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
17・18 紙芝居の作成演習 (担当：仲野)	事前にどのような作品にするか準備しておくこと	1
19・20 紙芝居の実演と振り返り (担当：仲野)	事前にプレゼンの準備をしておくこと	1
21・22 段ボールボール製作 (切り出し・立体化) (担当：永井)	道具や材料を研究し、授業に必要なものを揃える	1
23・24 段ボールボール遊びの実践 (指導計画案の作成と実践) (担当：永井)	計画案を作成し、実践の準備をする	1
25・26 折り紙製作帳の作成 (基本から応用) (担当：永井)	自己課題に取り組む 授業で取り組んだ課題を終わらせておく	1
27・28 折り紙遊びの実践 (指導計画案の作成と実践) (担当：永井)	指導計画案を作成し、実践の準備をする	1
29・30 折り紙遊びの実践の振り返り (反省・評価) (担当：永井)	実践の振り返りをまとめておく	1
〔学習上の留意点・準備等〕 随時プリントを配布し理解を補足する。 授業日以外にも野菜に水をあげたり、各自の責任において手入れや世話を忘れない。		
〔成績評価方法と評価基準〕 制作課題80% 受講態度20%を併せて評価する。		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 各授業の最後もしくは次回の授業において振り返りやコメントを行う。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1AE12	1 年次 通 年	演 習	2	仲野 孝	「30時間でマスターOffice2019」 実教出版 1,000円＋税
科目名	コンピューター基礎		担当形態			
			複 数			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (7)						
〔授業の概要〕 この授業は幼稚園教諭免許取得に必要な科目で、情報リテラシーを理解しつつ、情報機器の操作に慣れることを目的にしています。本授業では、Microsoft のOffice を使用し、ワープロ、プレゼン、表計算を学びつつ、情報機器の操作に慣れてもらいます。さらに、インターネットや電子メール、タイピングなど、情報機器を使う上で備えておくべき知識や技能についても触れていきます。						
〔授業科目の到達目標〕 情報機器の操作を修得する。タイピングを修得する。情報リテラシーを理解する。 Windowsの操作と基本機能を理解する。 インターネットや電子メールの基本操作を理解する。情報利活用能力を養成する。 アプリケーションソフトの基本操作を修得し、応用能力を高める。プレゼンテーション技法を身につける。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 ガイダンス				予習：		1
				復習：事後に情報処理室の使い方を復習しておくこと		
2 Windowsの基礎知識， タイピング				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 4からP. 15を復習しておくこと		
3 コンピュータとインターネット， 情報の探索， 情報モラル				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 16からP. 31を復習しておくこと		
4 Wordによる文書の作成 1 文章の入力				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 32からP. 47を復習しておくこと		
5 Wordによる文書の作成 2 文章の編集				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 48からP. 52を復習しておくこと		
6 Wordによる文書の作成 3 書式の設定				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 53からP. 62を復習しておくこと		
7 Wordによる文書の作成 4 表の作成				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 63からP. 76を復習しておくこと		
8 Wordによる文書の作成 5 画像や図形の活用				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 77からP. 92を復習しておくこと		
9 Wordによる文書の作成 6 演習問題				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 93からP. 95を復習しておくこと		
10 PowerPointによるスライドの作成 1 スライドの作成				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 194からP. 209を復習しておくこと		
11 PowerPointによるスライドの作成 2 図や表の活用				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 210からP. 225を復習しておくこと		
12 PowerPointによるスライドの作成 3 スライドショーの設定				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 226からP. 247を復習しておくこと		
13 PowerPointによる画像編集				予習：		1
				復習：事後にテキストP. 248からP. 254を復習しておくこと		
14 PowerPointによるスライドの作成 4 演習用スライドの作成				予習：事前にスライドの内容を考えておくこと		1
				復習：		

〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕		
授 業 内 容	事前事後学修の内容	所要時間
15 PowerPointによるスライドの作成 5 演習用スライドの練習	予習：事前にプレゼンの内容を考えておくこと 復習：	1
16 PowerPointによるプレゼン 1 プレゼンの練習	予習：事前にプレゼンの準備をしておくこと 復習：	1
17 PowerPointによるプレゼン 2 プレゼンの練習	予習：事前にプレゼンの準備をしておくこと 復習：	1
18 PowerPointによるプレゼン 3 プレゼンの評価	予習：事前にプレゼンの準備をしておくこと 復習：	1
19 Excelによる表計算 1 データの入力	予習： 復習：事後にテキストP. 96からP. 111を復習しておくこと	1
20 Excelによる表計算 2 入力したデータの編集	予習： 復習：事後にテキストP. 112からP. 119を復習しておくこと	1
21 Excelによる表計算 3 関数を使った計算	予習： 復習：事後にテキストP. 120からP. 133を復習しておくこと	1
22 Excelによる表計算 4 ワークシートの編集	予習： 復習：事後にテキストP. 134からP. 139を復習しておくこと	1
23 Excelによる表計算 5 関数の演習問題	予習： 復習：事後にテキストP. 140からP. 141を復習しておくこと	1
24 Excelによる表計算 6 グラフ	予習： 復習：事後にテキストP. 142からP. 151を復習しておくこと	1
25 Excelによる表計算 7 条件判定と順位付け	予習： 復習：事後にテキストP. 152からP. 160を復習しておくこと	1
26 Excelによる表計算 8 検索関数	予習： 復習：事後にテキストP. 161からP. 167を復習しておくこと	1
27 Excelによる表計算 9 参照機能と並べ替え	予習： 復習：事後にテキストP. 168からP. 179を復習しておくこと	1
28 Excelによる表計算 10 条件判定等の演習問題	予習： 復習：事後にテキストP. 180からP. 185を復習しておくこと	1
29 Excelによる表計算 11 Wordとの連携	予習： 復習：事後にテキストP. 186からP. 193を復習しておくこと	1
30 総合演習	予習：事前にテキストP. 32からP. 193を復習しておくこと 復習：	1
〔学習上の留意点・準備等〕 実際の授業はパソコンを使う演習授業となる。自学自習も大いに必要となる。積極的な取り組みを期待する。		
〔成績評価方法と評価基準〕 授業時の課題（90％）、学習態度（10％）		
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 翌週の授業で解説等をおこなう。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DK30		講 義	1	永井裕紀子	幼稚園教育要領、保育所保育指針、 これらの他適宜、プリントを配布する。
科目名	子どもと健康		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (3) (4) (6) (10) (13)						
〔授業の概要〕 本授業では、『幼稚園教育要領』のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解したうえで、幼児期の健康、生活習慣の指導に関する基本的な知識・技能を身につけることを目指す。さらに、幼児期の運動の重要性を理解した上で、健康に関する教材を作成して活用することを目指すものである。本授業では、児童の健康教育に携わり、現在、乳幼児の健康教育に携わっている教員が実際の運動指導の方法や児童の発達に応じた遊び・教材についての講義を取り入れながら指導する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・幼児期の健康、生活習慣の指導に関する基本的な知識や技能を身に付ける。 ・幼児期の運動の重要性を理解し、発育発達に関する知識や情報を理解し、教材資料を作成し活用する。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 ガイダンスと子どもにとっての運動の意義				運動あそびを体験して子どもにとっての運動の意義を理解する。		1
2 乳幼児の健康				講義資料を読んで理解する。		1
3 多様な運動あそび				多様な運動あそびを体験し、分析する。		1
4 3・4・5歳児の運動あそび				3・4・5歳児の発育・発達について調べた上で、運動あそびを計画する。		1
5 運動あそびの実践 1				運動あそびについて調べ、実践しながら理解する。		1
6 運動あそびの実践 2				運動あそびについて調べ、実践しながら理解する。		1
7 運動あそびの実践 3				運動あそびについて調べ、実践しながら理解する。		1
8 まとめ				実践を振り返り、学習内容をレポートにまとめる。		1

〔学習上の留意点・準備等〕 ・ 随時、参考資料・参考文献を紹介する。
〔成績評価方法と評価基準〕 期末レポートによって評価する。
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 講義後に出された質問・疑問等の内容を整理し、次回以降の講義で説明・コメントする。

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DK31		講 義	1	久保田真規子	プリント配布
科目名	子どもと人間関係	2 年次 後 期	担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (5) (6) (8) (9) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 人はヒトやモノとのかかわりによって発達していくが、なかでも乳幼児期は人とかかわりが特に重要である。本講義では三法令に示される領域「人間関係」の理解を深め、人との関係性の中で獲得していくこと、共に学び合うことや育ち合うことの重要性を知り、子どもの人間関係の発達について考える。その際、保育者は何をどのように援助しているのかにも注目し、子どもを観る視点や具体的な援助方法について学ぶ。幼・保・小の連携、地域、保護者とつながる保育活動を含む、幼児の人間関係を踏まえた活動を考える。 元幼稚園園長・子育て支援施設勤務経験者が授業を担当する。						
〔授業科目の到達目標〕 ・乳児に対する応答的な関わりの重要性和その実践を理解し、実習等に活かす。 ・人間関係が広がりを見せる中で、保育者が人とかかわりを支えること、また子ども同士がつながることの重要性に気づき、その援助について考える。 ・人間関係の育ちを意識し、活動や援助について考え、実践することができる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1	三法令にみる領域「人間関係」 1歳以上3歳未満児及び3歳以上のねらいと内容			予習：三法令を読む		4
				復習：ノートをまとめる。		
2	人間関係の発達① 乳児保育における3つの視点、養護と教育の一体化・乳児期の愛着形成			予習：資料を読む		4
				復習：ノートをまとめる。		
3	人間関係の発達② 乳幼児期の自立と協同性の育ち			予習：資料を読む		4
				復習：ノートをまとめる。		
4	生活・遊びで育つ人間関係① 心理的安全性(動画視聴)			予習：資料を読む		4
				復習：ノートをまとめる。		
5	生活・遊びで育つ人間関係② 集団の中で育ちあう・規範意識(動画視聴)			予習：資料を読む		4
				復習：ノートをまとめる。		
6	遊びで育つ人間関係③ 主体的な気持ちの尊重と保育実践			予習：資料を読む		4
				復習：保育実践をまとめる。		
7	遊びで育つ人間関係④ 3歳以上児の子ども同士が育ち合う保育実践			予習：資料を読む		4
				復習：保育実践をまとめる。		
8	他者とつながる協同的な保育活動の実際とその計画・考察			予習：予習:保育実践のノート・日誌を事前に読む		4
				復習：保育実践の考察をまとめる。		

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	1DK32	1 年次 前 期	講 義	1	永井裕紀子	幼稚園教育要領 保育所保育指針 資料を配布する
科目名	子どもと環境		担当形態			
			単 独			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (7) (8) (9) (10) (11) (12) (13)						
〔授業の概要〕 子どもは好奇心・探求心をもって自分なりの方法で環境と関わりながら、乳幼児期に必要な資質・能力を身に付けていくことを理解する。また、現代の子どもがおかれている環境は昔とどう異なるのか。環境の変化により子どもの体験の質がどう変わっているのかについて知る。さらに、園環境や地域環境と子どもの育ちについて考えながら、子どもにとって必要な環境またはよりよい環境について考える力を身に付ける。						
〔授業科目の到達目標〕 ・子どもの育ちと環境の重要性を知る。 ・現代社会における子どもを取り巻く環境と子どもの育ちについて理解する。 ・園環境や地域環境と子どもの育ちについて考える力を身に付ける。 ・子どもを取り巻く環境の現代的課題（E S D / S D G S）について知る。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 保育の基本と領域「環境」 子ども育ちと環境				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4
2 環境の諸側面と子どもの育ち 現代社会における子どもの環境				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4
3 園環境と保育				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4
4 地域社会と保育				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4
5 身近な地域環境について考える				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4
6 地域環境と子どもの育ち				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4
7 幼児を取り巻く環境の現代的課題				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4
8 領域「環境」から考えるE S D / S D G Sについて				＊配布プリントを読んでくる。 ＊幼稚園教要領の指定されたページを読んでくる。		4

〔学習上の留意点・準備等〕

自分の考えを素直に表現し、友達の考えにも目や耳を傾けながら、授業内容に対する理解を深めて欲しい。

〔成績評価方法と評価基準〕

授業の振り返り小レポート(50%)、提出物(50%)を合わせて評価する。

〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕

提出された小レポート等について、次の授業でコメントする。

科 目		開講時期	授業形態	単位	担 当	テキスト(書名・著者・出版社等)
科目コード	2DK33	2 年次 前 期	講 義	1	村木 薫 斎藤 竜夫 若井 由梨	アクティベート保育学11 保育内容「表現」 岡本弘子他編著 ミネルヴァ書房
科目名	子どもと表現		担当形態			
			複 数 オムニバス			
〔卒業認定・学位授与の方針との関連〕 (1) (2) (6) (9)						
〔授業の概要〕 領域「表現」の指導に関する幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などについて実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を身につける。						
〔授業科目の到達目標〕 ・ 幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 ・ 表現の生成する過程について理解している。 ・ 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。 ・ 協働して表現することを通し他者の表現を受け止め共感し、保育者として必要とされる豊かな感性、表現する力を身につけている。 ・ 様々な表現の基礎的な知識・技能を生かし、幼児の表現活動に展開させることができる。						
〔授業の計画／事前事後学修(予習・復習)と所要時間〕						
授 業 内 容				事前事後学修の内容		所要時間
1 子どもにとっての表現 (担当:村木・斎藤・若井)				シラバスを読み、概要、到達目標、内容、学習上の留意点・準備等を把握		4
2 身体表現の発達 (担当:若井)				先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解		4
3 身体的な感性を育む表現 (担当:若井)				先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解		4
4 造形表現の発達 (担当:村木)				先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解		4
5 造形的な感性を育む表現 (担当:村木)				先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解		4
6 音楽表現の発達 (担当:斎藤)				先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解		4
7 音楽的な感性を育む表現 (担当:斎藤)				先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解		4
8 幼稚園・保育所・認定こども園における表現活動 (担当:村木・斎藤・若井)				先回の授業内容の復習及び本時の授業内容について教科書を読み、本時の内容を理解		4

〔学習上の留意点・準備等〕 授業担当者によって使用する講義室や持参するものを指定するので、連絡事項に注意すること。
〔成績評価方法と評価基準〕 レポート(70%)、授業の取り組み状況(30%)
〔課題(試験やレポート等)に対するフィードバック〕 提出されたレポートについて振り返り及び解説を行う。